

brother

るーぽる

4.5m/m & 9.0m/m PITCH KNITTER

ガイドブック





①プルオーバーの作り方……12頁

②カーディガンの作り方……25頁

③サマーセーターの作り方……37頁

もくじ



編機の使い方

1. 各部の名まえを覚えましょう……………2
2. 付属品……………3
3. 編機のセッティング……………2・3
4. 編み始める前に知っておきましょう……………4-6
 - 編針の位置……………4
 - 編目ダイヤルの使い方……………4
 - キャリジのはずし方と取り付け方……………5
 - すべりレバーとひきあげレバー……………5
 - フシバの取り替え方……………6
5. さあ、編み始めます……………7-10
6. 編ゲージについて……………11



テクニック ア・ラ・カルト

1. ウツシの使い方……………49
2. タツピの使い方……………49
3. 編目の減らし方(減らし目)……………50
4. 編目の増やし方(増し目)……………51
5. 引返し編……………52・53
6. 1目ゴム編止めからの編み始め方……………54
7. 1目ゴム編の編み終わりの止め方……………55
8. 捨て編……………56
9. ウツシを使った編み終わり方……………57
10. 巻き止めによる編み終わり方……………58
11. 捨て編ではずした目の拾い方……………59
12. 段からの拾い目の仕方……………59
13. 編地のはぎ方……………59
14. とじ方……………60
15. 編糸の始末の方法……………60



基本アイテムの作り方

1. ブルオーバー……………12-24
2. カーディガン……………25-36
3. サマーセーター……………37-43
 - 市販のあみものの本で編む場合……………44



模様編の編み方

1. 引上げ模様……………45
2. すべり目模様……………45
3. 配色すべり目模様(編込み)……………46
4. レース模様……………46
5. 地模様……………47
6. なわ編(交差模様)……………48

こんなときには(編んでいるとき)

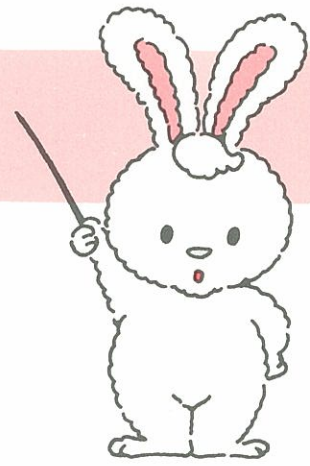
1. うまく編めないとき……………61
2. 編目が落ちたとき……………61
3. 編みまちがえたときの直し方……………62・63

お手入れ方法

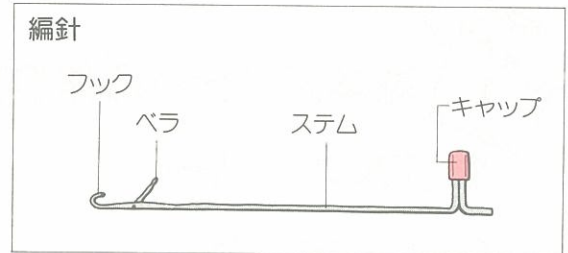
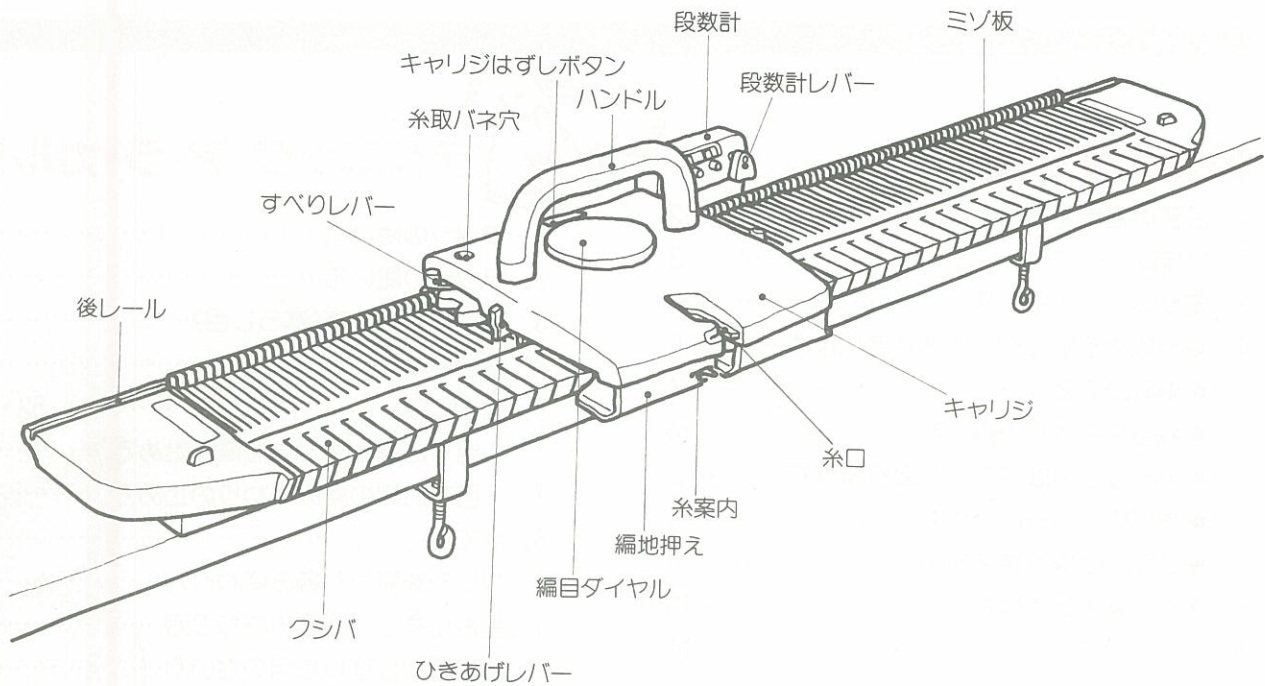
1. 編針の取り替え方……………64
2. 編機の手入れと保管……………64

編目記号図……………65

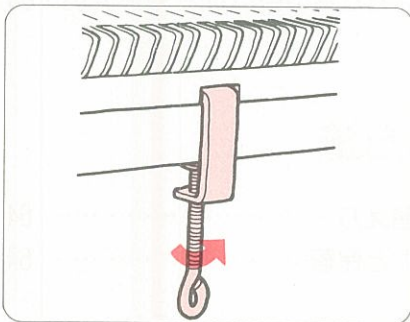
編機の使い方



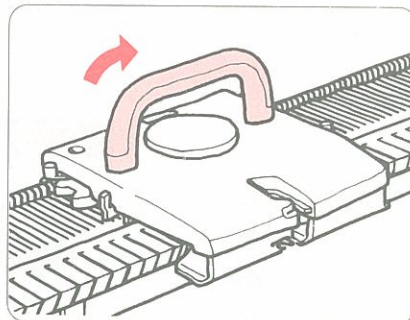
1 各部の名まえを覚えましょう



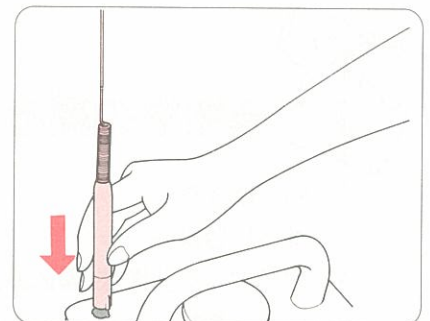
3 編機のセッティング



①取付金具で、編機をテーブルに固定します。(2カ所)

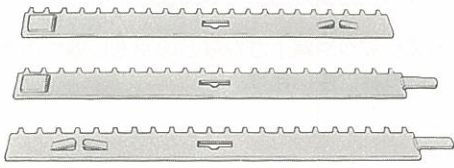


②ハンドルを起こします。



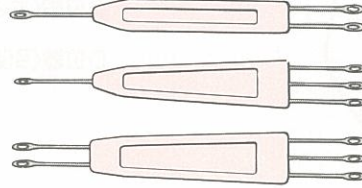
③糸取パネ穴に糸取パネを差し込みます。

2 付属品



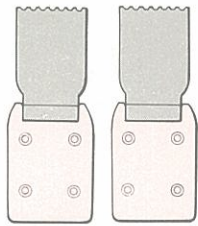
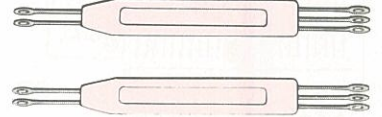
編出し(3本)

最初の編目を作るときやおモリとして使います。



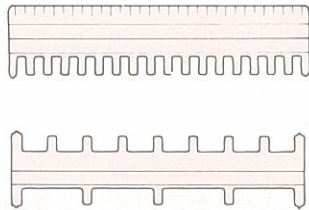
ウツシ/9mm用(1×2・1×3・2×3各1本) ウツシ/4.5mm用(2×3、2本)

増し目、減らし目、移し目などに使います。



カラーウェイト

編目が浮かないようにするためのオモリです。



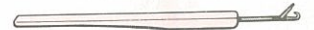
模様板

針出し、模様編のときに使います。



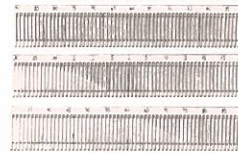
トジ針

とじはぎするときに使います。



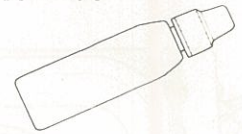
タッピ

ゴム編や編目が落ちたときに使います。



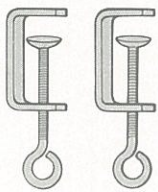
クシバ(4.5mm用)

中細から合太までの編糸で編むときに使います。(6ページ参照)



手入れ油

編機の手入れやすべりを良くするときに使います。



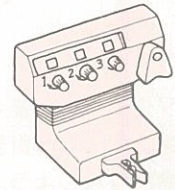
取付金具

編機をテーブルに固定するときに使います。



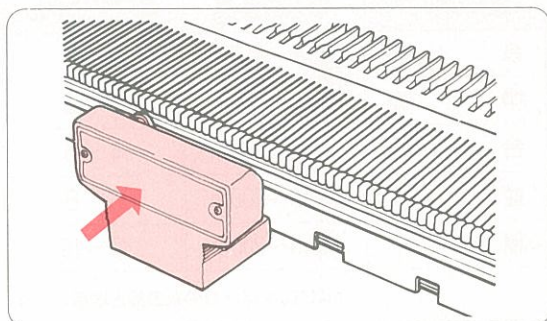
糸取バネ

編糸の供給を自動的に調節します。



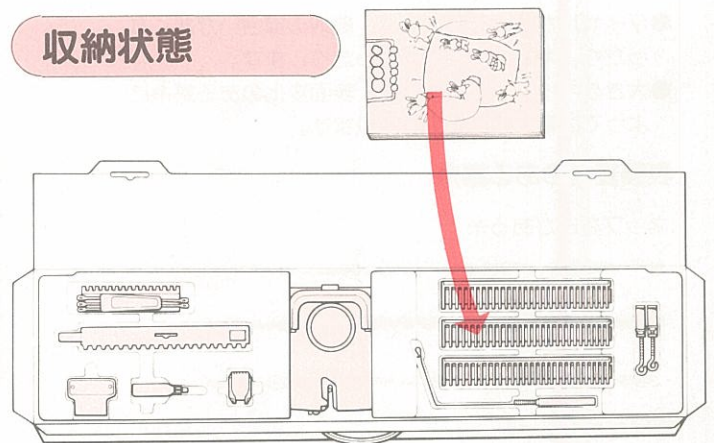
段数計

編み段数を表示します。



④編機の後部にある左の穴に段数計を差しこみます。

収納状態

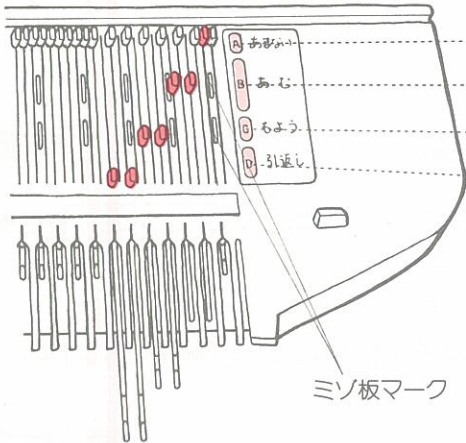


↓ 取手を引張って収納しましょう

4 編み始める前に知っておきましょう

編針の位置

次に何をするかによって、編針の位置を移動させます。



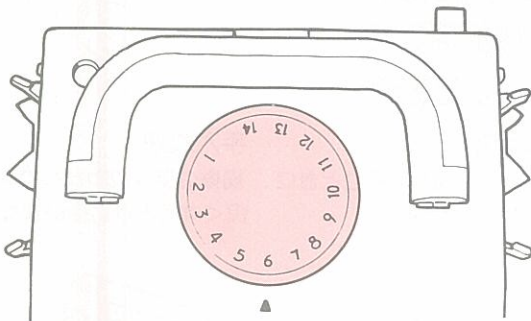
A位置(あまない)・・・キャリジを操作しても編めません。

B位置(あむ)・・・普通、この位置で編みます。

C位置(もよう)・・・すべり目模様のような模様編に使用します。

D位置(引返し)・・・えりぐりや肩下がりなどの引返し編や引上げ模様で使用します。

編目ダイヤルの使い方

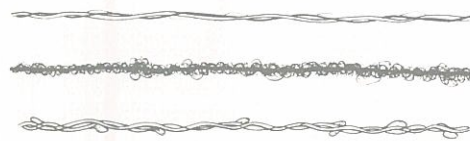


ダイヤルの目盛=棒針の号数 なので、編糸のラベルの棒針号数を参考にしてダイヤルを合わせましょう。
編糸の棒針号数がわからないときは、右下の表を参考に。

- ダイヤルが合っていないと、編地の風合いが悪くなったり、キャリジが重くなったりします。
- 大きなネップがある糸など、表面変化のある編糸によっては編めないものもあります。

表面変化のある編糸

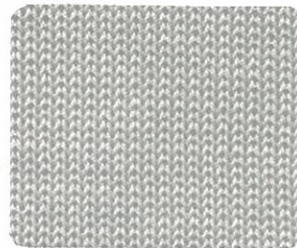
ネップなどがある糸



毛ばだちの多い糸



編目の大きさをコントロールするのが編目ダイヤル。目盛が大きくなるにつれて編目は大きく、編地はあらかくなります。編糸の太さに応じてダイヤルの目盛を合わせ、フシバを選びましょう。



編目ダイヤル<4>



編目ダイヤル<10>



フシバ	編糸タイプ	編糸の長さ	編目ダイヤル
4.5mm	合 細	500m~780m	2~3
	中 細	350m~500m	3~5
	合 太	300m~350m	4~5
9mm	並 太	200m~300m	6~8
	極 太	140m~200m	9~13

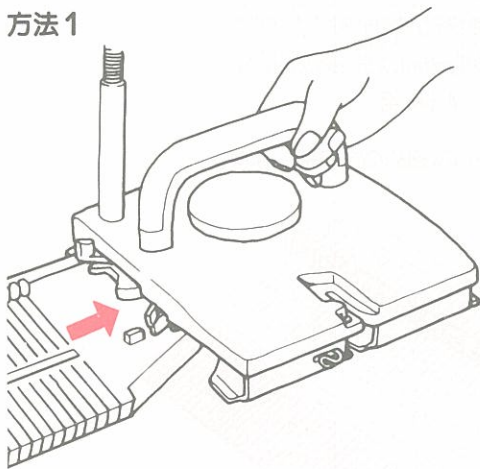
mは100g当たりの糸の長さを示します。

※合細より細めの糸で編みたいときは編目ダイヤル1を、極太の太めの糸で編みたいときは編目ダイヤル14を使用してください。

キャリジのはずし方と取り付け方

■はずし方

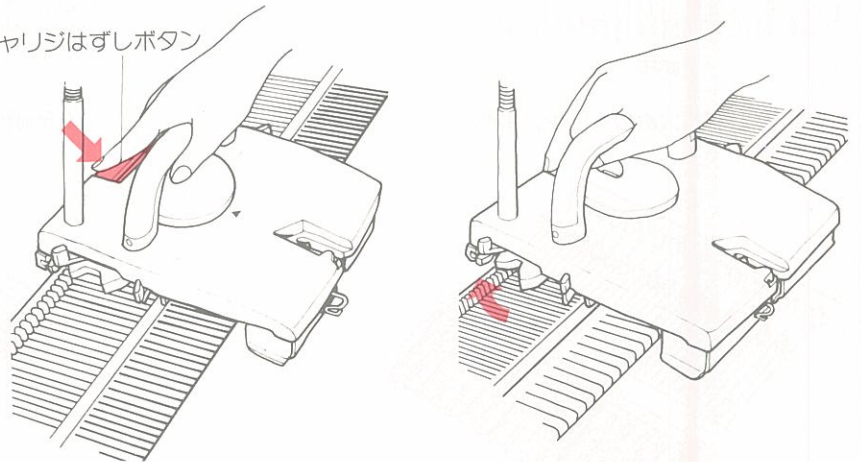
方法1



キャリジを本体の端へ持っていき、そのまま横へまっすぐ引きます。

方法2

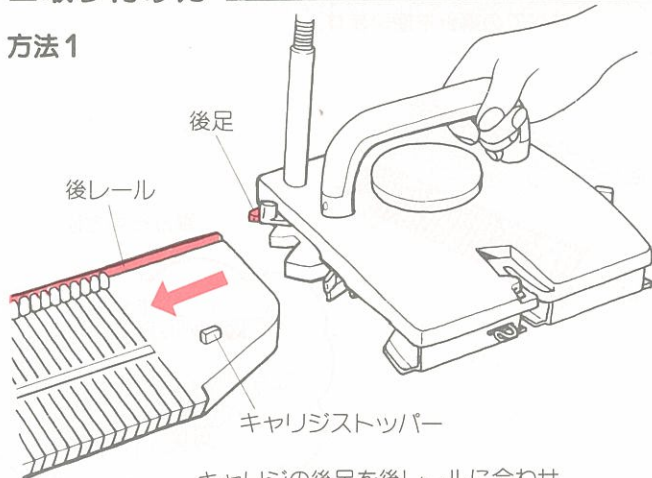
キャリジはずしボタン



"キャリジはずしボタン" を押し、キャリジを持ち上げます。

■取り付け方

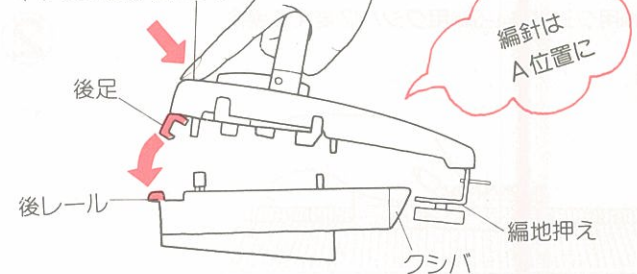
方法1



キャリジの後足を後レールに合わせ、すべりこませます。

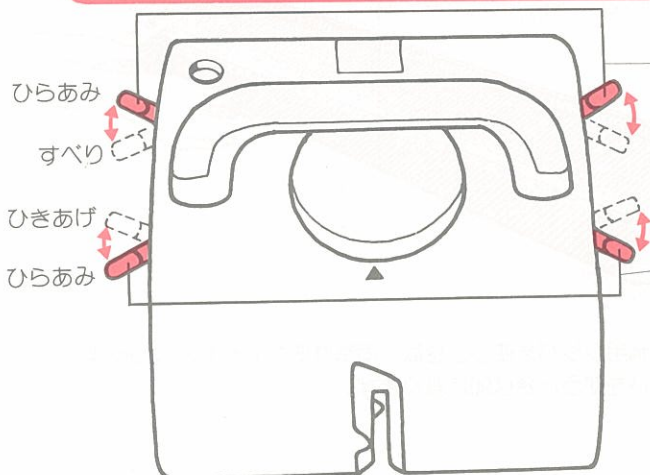
方法2

キャリジはずしボタン



"キャリジはずしボタン" を押さえながら、編地押えをクシバに合わせ、後レールに後足をはめこみます。

すべりレバーとひきあげレバー



●すべりレバー

〈すべり目模様のために使用〉

すべりレバーを「すべり」にすると……

C位置とD位置の編針は編めますが、B位置の編針は編めません。

●ひきあげレバー

〈えりぐりや肩下がりなどの引返し編、引上げ模様で使用〉

ひきあげレバーを「ひきあげ」にすると……

D位置の編針は編まれず、そのままの位置に残ります。

※ひきあげレバーを操作しないと、D位置の編針は編まれ、B位置にもどります。

キャリジを左から右へ動かすとき——右側のレバーを操作します。
 キャリジを右から左へ動かすとき——左側のレバーを操作します。
 キャリジを両方向に動かすとき——両側のレバーを操作します。

クシバの取り替え方

●2つのタイプのクシバを使いわけます。



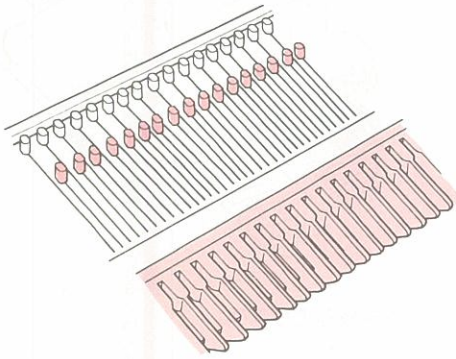
9mm用

9mm用クシバは太めの糸に使用します。

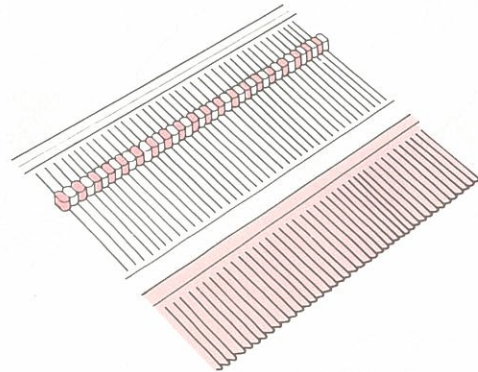


4.5mm用

4.5mm用クシバは細めの糸に使用します。



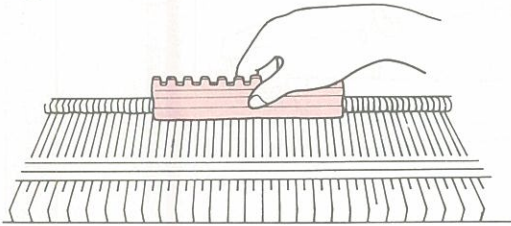
〈9mm用クシバを使って編むとき〉
1本おきに編針を使います。



〈4.5mm用クシバを使って編むとき〉
すべての編針を使います。

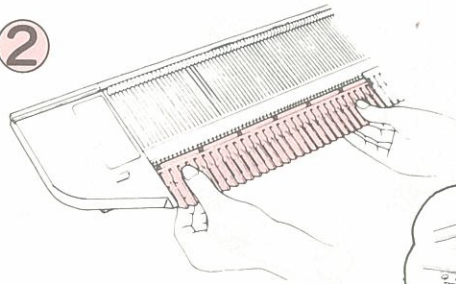
●9mm用クシバを4.5mm用クシバに変える場合

①

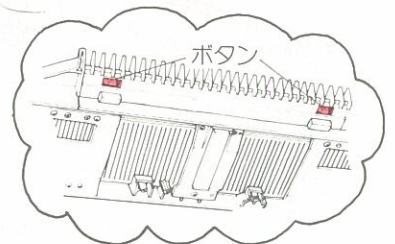


編針をA位置にそろえます。

②

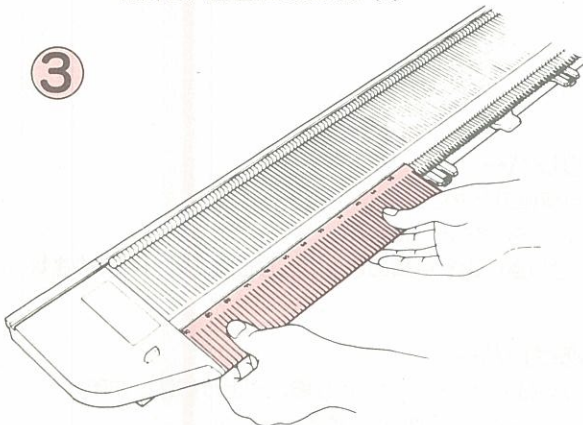


裏から見た図



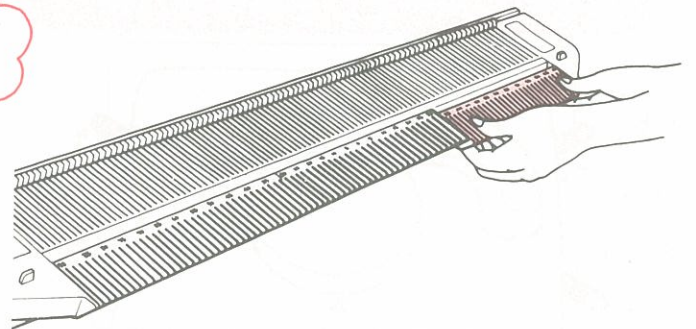
クシバの下にあるボタンを押しながら、クシバを手前に引き、
編機からはずします。

③



左から順番に4.5mm用クシバをはめこみます。

両端は
90目です

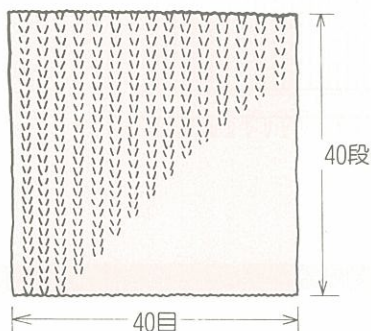
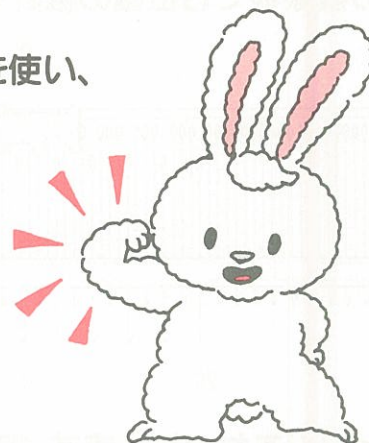


※9mm用クシバを使うときは、両端がそれぞれ45に、4.5mm用クシバを使うときは90になります。

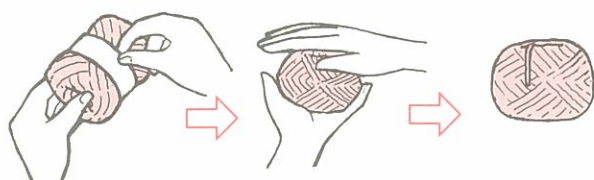
※取り替えは必ず編地のかかっていない状態で、編針がA位置にあるときにします。

5 さあ、編み始めます

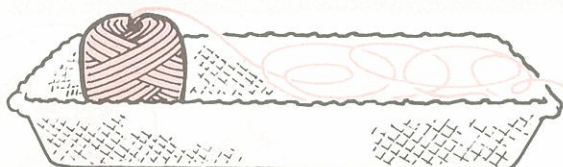
極太毛糸を使って練習しましょう。クシバは9mm用を使い、40目で40段を編んでみます。



1 編糸を用意します

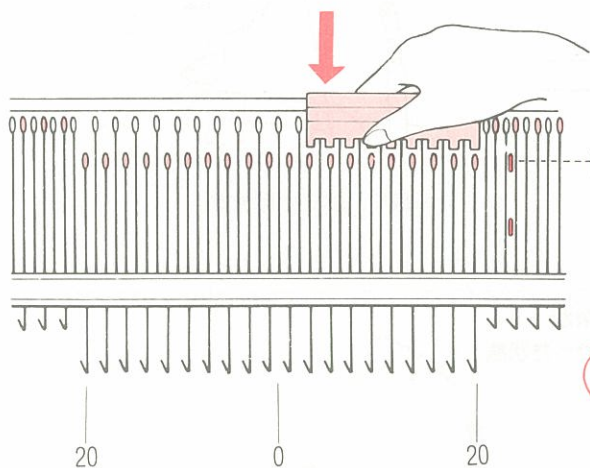


糸玉には上下があります。ラベルの字の向きを正して糸玉の中に指を入れ、編糸を引き出します。



編糸は玉巻きのまま使わずに、かごや空箱などにほくして入れ足もとにおきます。

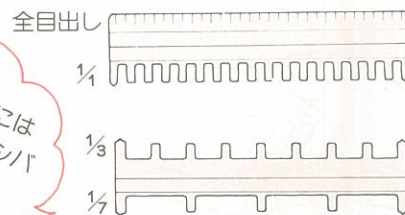
2 編針をセットします



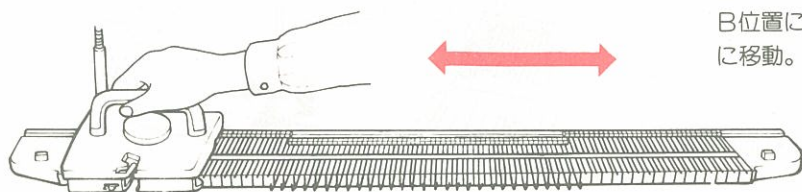
模様板の $\frac{1}{4}$ 側を使って、編針40本をミソ板マークのB位置（あむ）まで出します。

●模様板は針出し、模様編のときに使い、どちらのクシバで編むかによって使い方が違ってきます。

たとえば $\frac{1}{3}$ は、4.5mm用クシバのときには3本おきに、9mm用クシバのときには1本おきに編針を出すときに使います

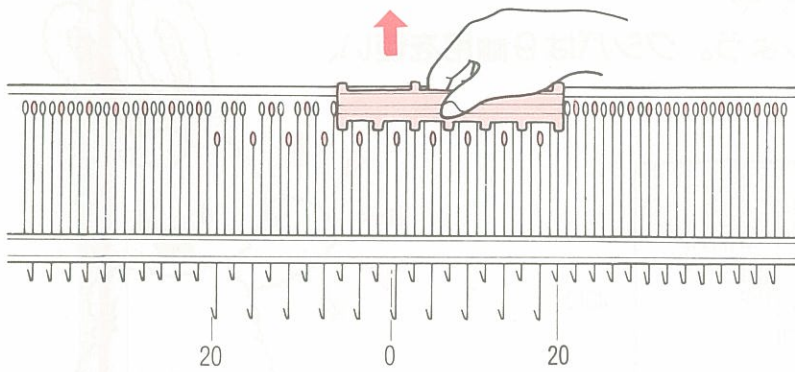


3 キャリジを動かします



B位置に出した編針をそろえるため、キャリジを1~2回左右に移動。ミソ板の左端に置きます。

4 1/3の模様板でB位置の編針を1本おきにA位置にもどします



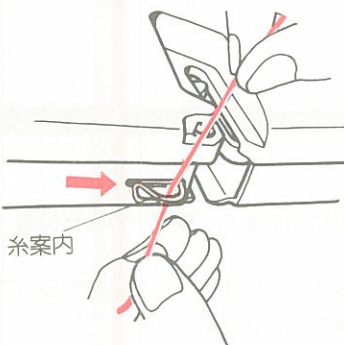
5 キャリジをセットします



- ①編目ダイヤルを合わせます。(4ページ参照)
- ②すべりレバーとひきあげレバーは“ひらあみ”にします。

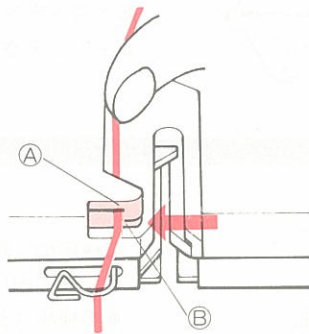
6 キャリジに編糸を通します

1 糸端を上にして持ってください



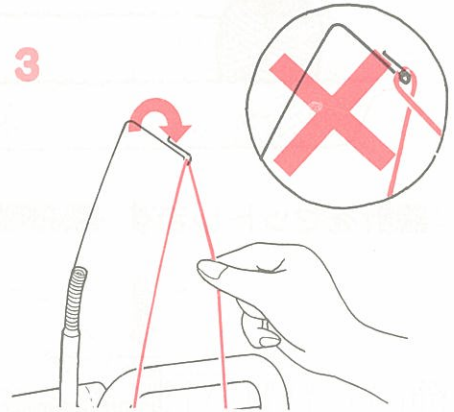
編糸を糸案内に押しこみます。

2



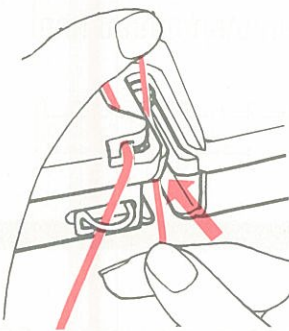
①と②の間に編糸を入れます。

3

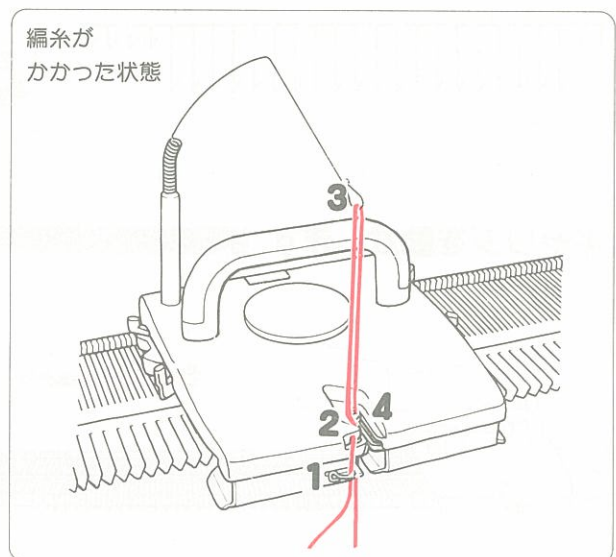


糸取りパネにかけます。

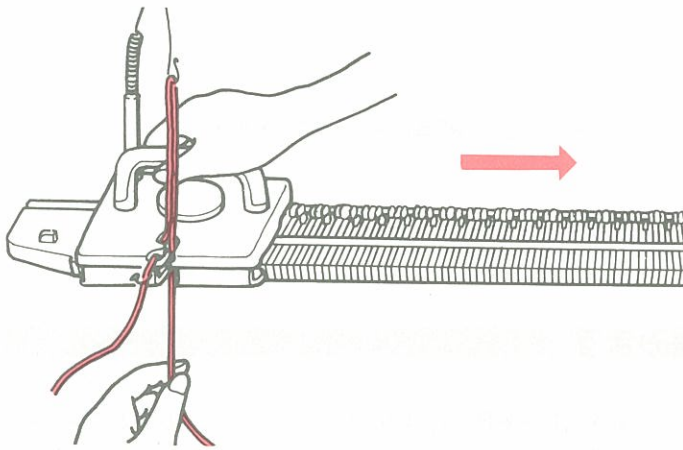
4



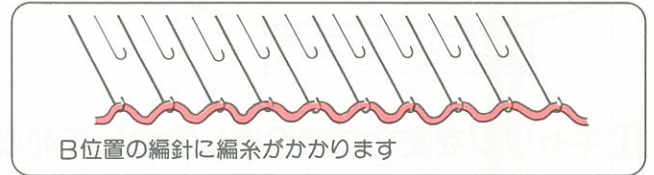
糸口に押しこみます。



7 キャリジを右へ動かして1段編みます



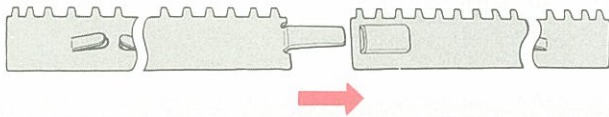
糸端をかるく真下に引くように指でつまみ、右側にキャリジをゆっくり動かします。編糸が編針にかかりはじめたら糸端をはずします。



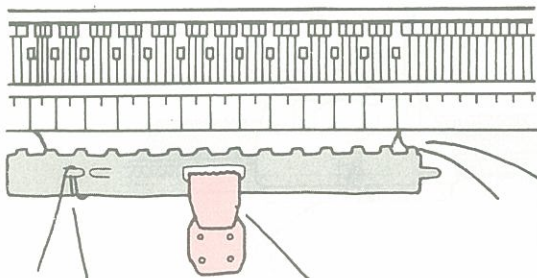
8 編目に編出シをかけます

編出シの使い方

※編出シは、目数に応じ、連結させて使いましょう。かける時は、編地の幅と左右均等になるように。



編目数		編出シの数
9mm	4.5mm	
1~30	1~60	1本
31~60	61~120	2本
61~90	121~180	3本

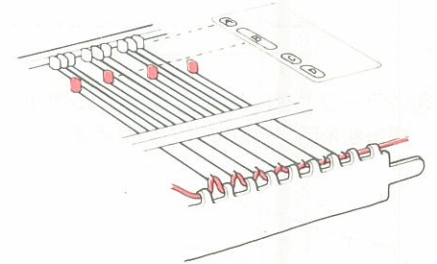
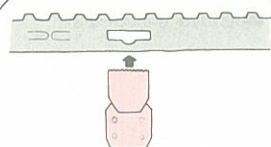
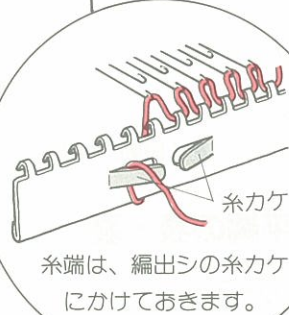


7で編まれた編糸に編出シのフックをかけ、下に引きます。キャリジからわたっている編糸は、図のように編出シの前にもってきます。

※糸は、編出シより手前に置きましょう。

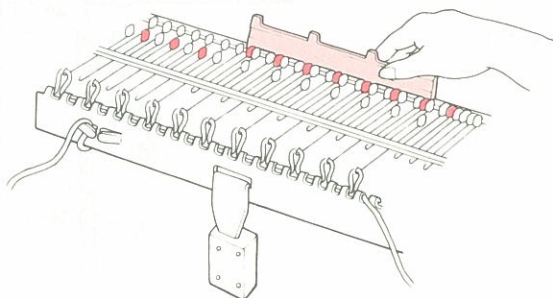


編糸を手前にもってきます。



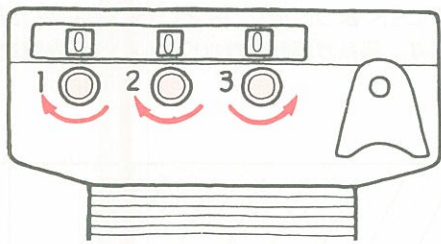
編糸のひきが強すぎて、編針がB位置よりも前(C位置寄り)に出てしまったら、B位置にそろえてください。

9 1本おきにもどした編針をB位置に出します



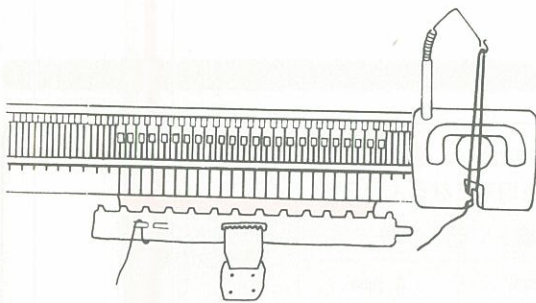
4でもどしたA位置のカラー針を1/3の模様板でB位置に出します。

10 段数計を000に合わせます



“0”に合わせるときは、左から順番に合わせていきます。

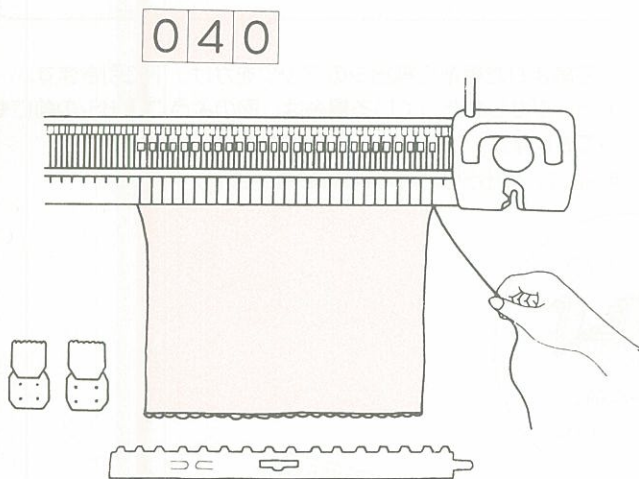
11 キャリジを左右に繰り返し動かして40段編みます



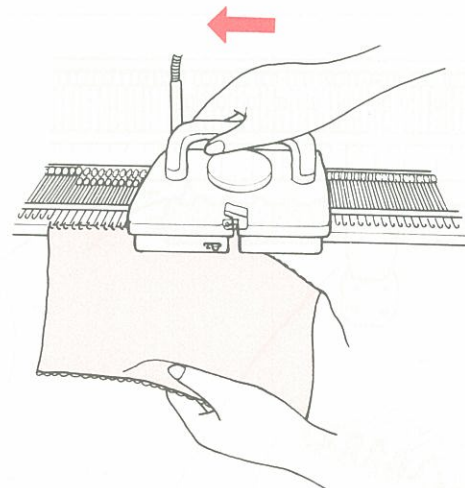
編糸のひきを同じにするため、キャリジは平均した速さで動かしましょう。

- ①キャリジはB位置の編針を全部通り過ぎてから折り返します。途中でキャリジを戻すと、編目が落ちてしまいます。
- ②B位置の端針からキャリジを大きく離すと、編糸のたるみの原因になります。

12 編地をはずします

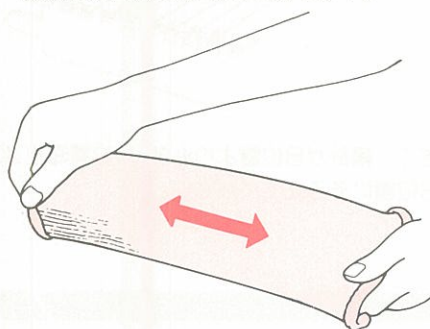


①カラーウエイトと編出しをはずします。編糸を糸口からはずして切ります。

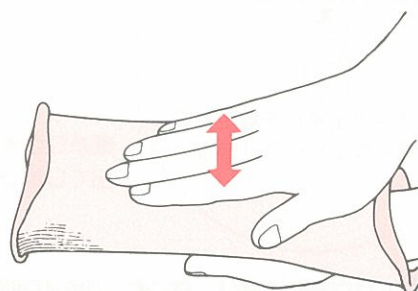


②編地を片手で下へ軽く引きながらキャリジを1段動かすと、編地がはずれます。

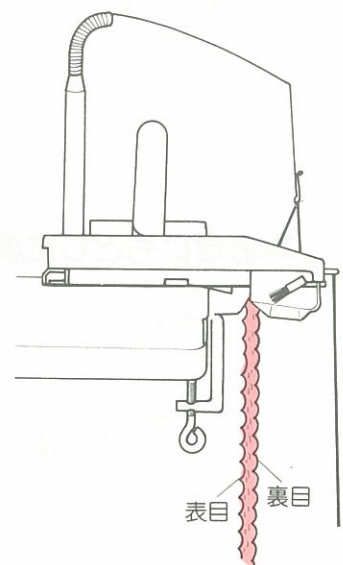
■平編の表・裏



③はずしたばかりの編地は横に伸びているので、たてに2~3回軽く引き伸ばしましょう。



④軽くたたいて編目を整えます。

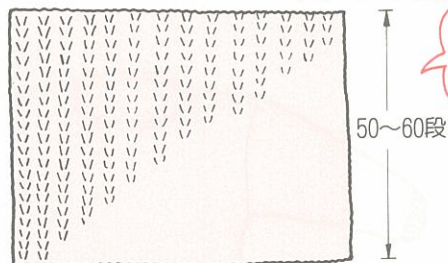


6 編ゲージについて

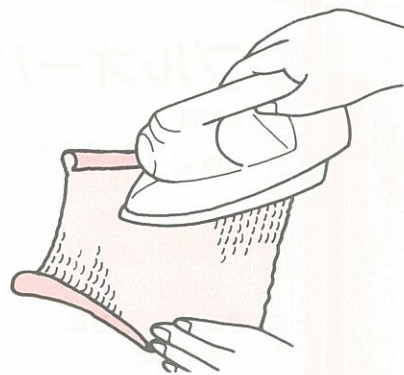
編ゲージとは――

作品を希望どおりの寸法に仕上げるためのためし編のこです。作品を編むときは、このゲージをもとにして何目何段で編めばいいのかを調べます。

●編ゲージのつくり方

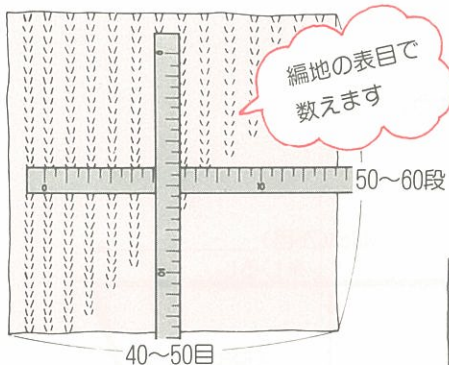


作品が模様編の場合は、同じ模様で作ってね

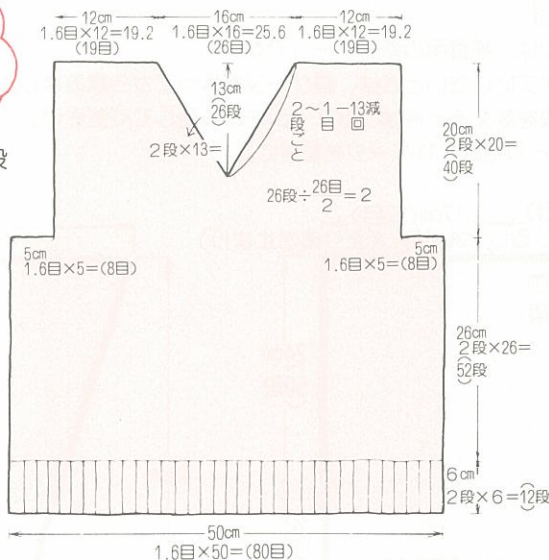


① 編ゲージをとるための編地を編みます。作品と同じ素材、同じ編地で目数は40~50目、段数は50~60段くらいが目安。(4.5mm用クシバで編むときは、最低50目60段必要です)

② 編機から編地をはずします。2~3回軽く引き伸ばしたあと、手でたいて編目を整えましょう。スチームアイロンで蒸気をあて、5~10分放置。



編地の表目で数えます



④ 1cmあたりの目数・段数を計算します。

〈例〉10cmあたり16目20段の場合
 $16目 \div 10cm = 1.6目$
 (1cmあたりの目数)
 $20段 \div 10cm = 2.0段$
 (1cmあたりの段数)
 この数字を出来あがり寸法におきかえればOKです。

1cmの目数×横寸法=編む目数
 1cmの段数×たて寸法=編む段数

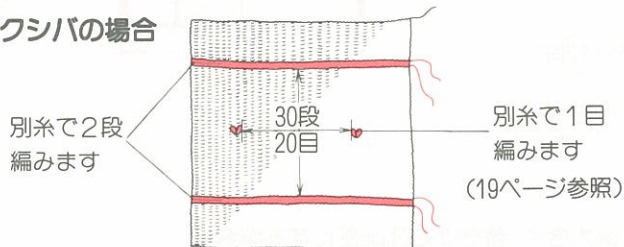
※デザイン寸法を出すために、計算によって出た編む目数、段数を切り上げまたは切り捨てにする場合があります。

③ 編地の中央付近にスケールをあて、横(目)・たて(段)とも10cmで何目・何段あるかを数えます。

ほかにもこんな方法があります。

目数・段数から長さを計る方法

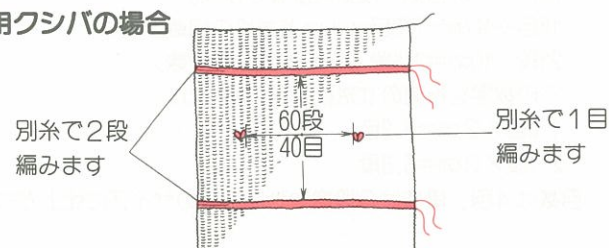
9mm用クシバの場合



模様編など、編目が数えにくいときには、段数〈たて方向〉30段、目数〈横方向〉20目(4.5mm用クシバでは60段40目)の長さを計り、10cmで何目何段あるかを計算します。

〈例1〉 20目が12.5cm、30段が15cmの場合
 $20目 \div 12.5cm = 1.6目$ $1.6目 \times 10cm = 16目$
 $30段 \div 15cm = 2段$ $2段 \times 10cm = 20段$

4.5mm用クシバの場合



〈例2〉 40目が15.5cm、60段が20cmの場合
 $40目 \div 15.5cm = 2.58目$ $2.58目 \times 10cm = 25.8目$
 $60段 \div 20cm = 3段$ $3段 \times 10cm = 30段$



基本アイテムの作り方



プルオーバー(9mm用クシバを使います)

●材料

編糸(カネボウ毛糸 アンデルセン).....500g
(ダブルニットイング)

捨て編用の糸.....残り糸少々
(56ページ参照)

かぎ針.....6号

●出来あがり寸法

身幅.....52cm

着たけ.....55cm

ゆきたけ.....69cm

●編ゲージ

(ひらあみ)



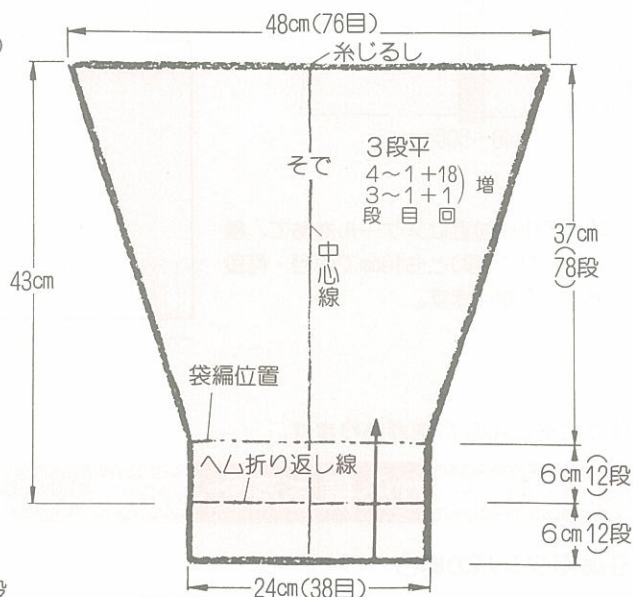
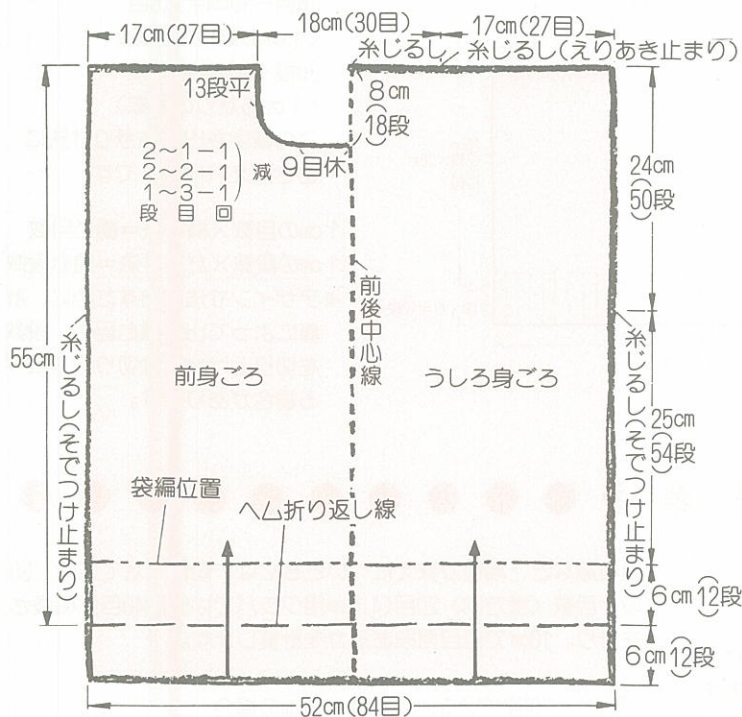
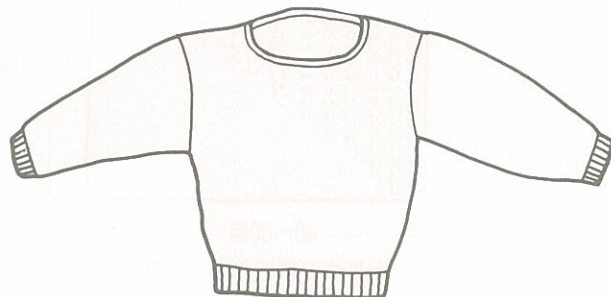
10cmあたり(16目
21段)

※この編ゲージは、練習用の参考ゲージです。

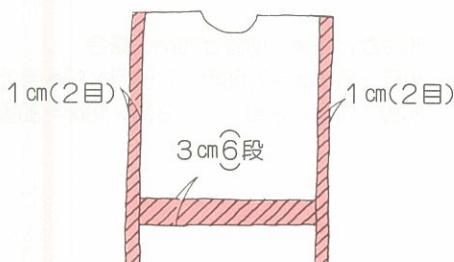
※ピッタリサイズにしたいときは、編ゲージを作ってから編みましょう。

※素材や模様編を変えるときは、編ゲージをとり直してください。

(編ゲージのとり方は、11ページを参考に)



●サイズを変えたいときの目数・段数の出し方(身幅を2cm大きく、着たけを3cm長くする場合)



1cmあたりの目数・段数を計算します。

$16 \div 10 \text{cm} = 1.6 \text{目}$ (1cmあたりの目数)

$21 \div 10 \text{cm} = 2.1 \text{段}$ (1cmあたりの段数)

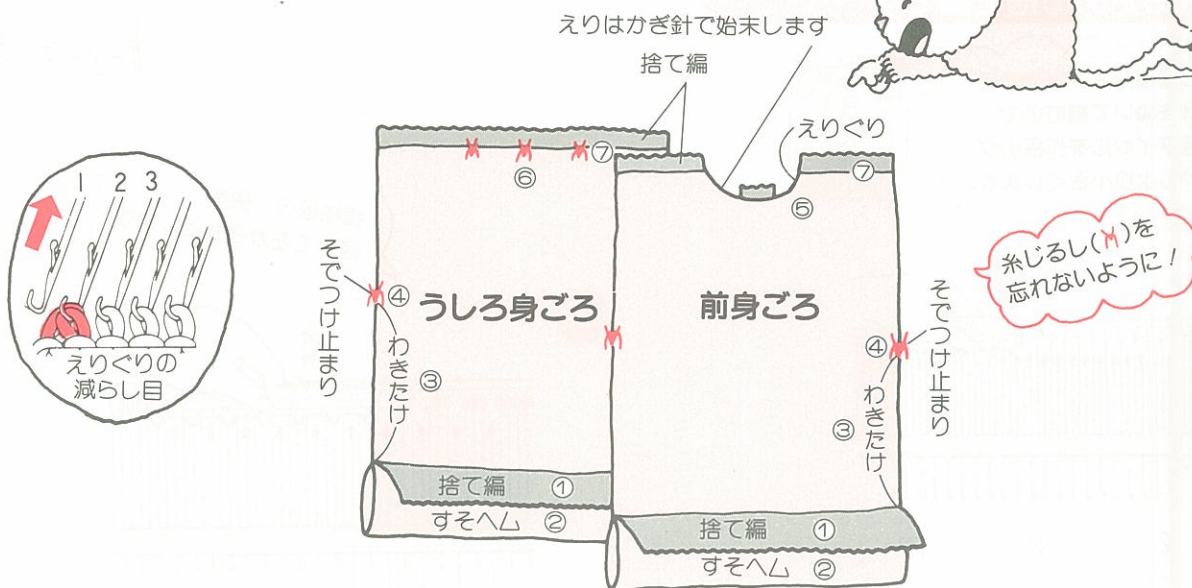
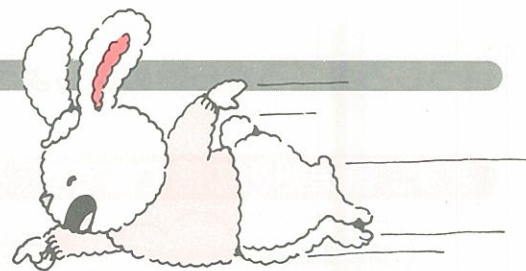
この数字を希望の寸法に置きかえます。

$1.6 \text{目} \times 2 \text{cm} = 3.2 \text{目}$

$2.1 \text{段} \times 3 \text{cm} = 6.3 \text{段}$

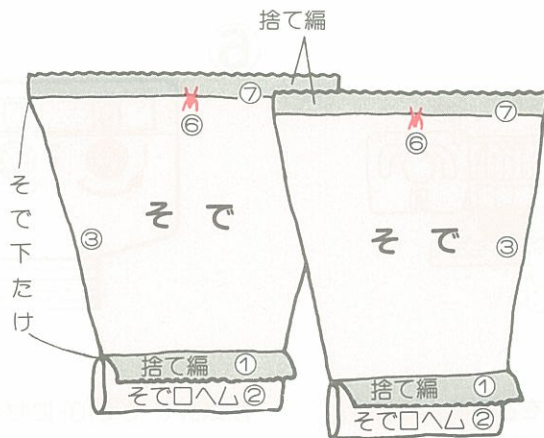
目数は4目、段数は6段増やせば希望のサイズに仕上がります。

■ すすめ方は次のとおりです



番号は編む順序を表します。番号にそって編みましょう。

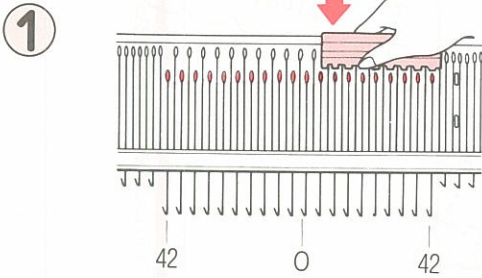
- | | | | | |
|-----|--------------------|-------------------------|----------------------|--------------|
| 身ごろ | 編み始め | すそへム | わきだけ | そでつけ止まり |
| 編み方 | ① 1/4の針抜きで捨て編をします。 | ② へムだけの倍編んで折り返して袋編にします。 | ③ まっすぐ編みます。増し目で編みます。 | ④ 糸じるしをつけます。 |
| そで | 編み始め | そで口へム | そで下だけ | |
-
- | | | |
|----------------------|--------|-----------------------|
| ⑤ えりぐり
減らし目で編みます。 | ⑥ 糸じるし | ⑦ 編み終わり
捨て編ではずします。 |
| | | 編み終わり |



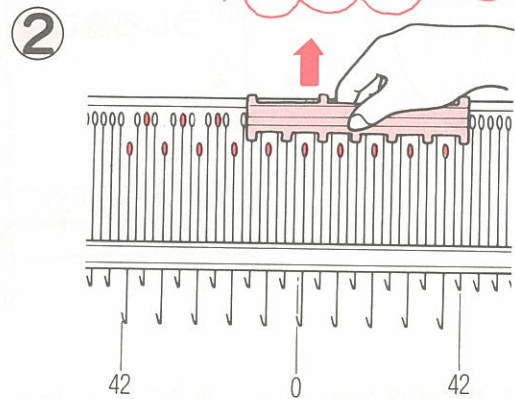
1 うしろ身ごろから始めましょう

まず、編み始めの捨て編です

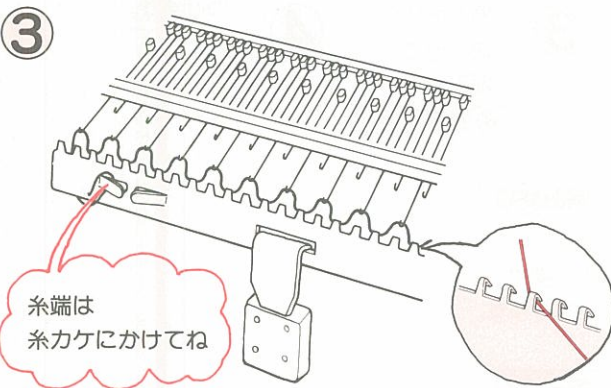
捨て編部分は1本おきに
編針をぬいて編むので、
編目ダイヤルを作品のダ
イヤルより小さくします。



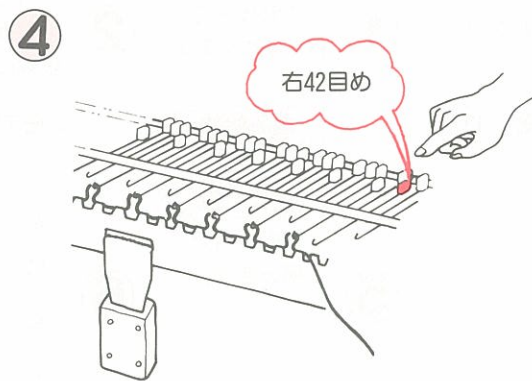
模様板の1/4側を使って編針をB位置に出します。
針目盛の中心より左42～右42の編針を出します。
キャリジをミノ板の左側に置き、各レバーはひらあみにします。



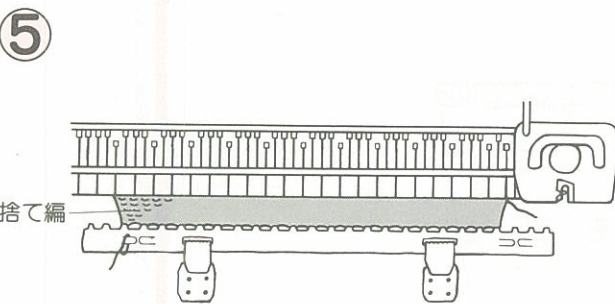
B位置の編針を1本おきにA位置にもどします。



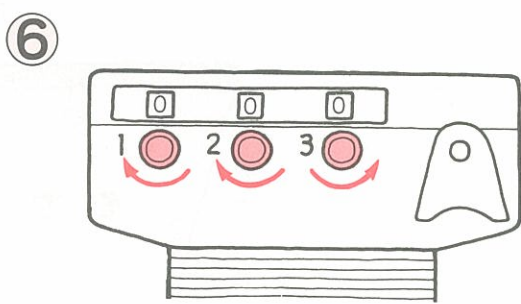
編目ダイヤルを〈8〉にして、右へ1段編みます。
編みおわったら、編出シとカラーウェイトをかけましょう。



右端のA位置の編針を1本B位置に出します。



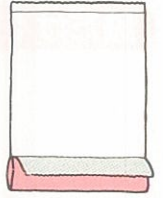
平編で捨て編を5～6段編み、キャリジを右側で止めます。
捨て編用の別糸は糸口からはずして切りましょう。



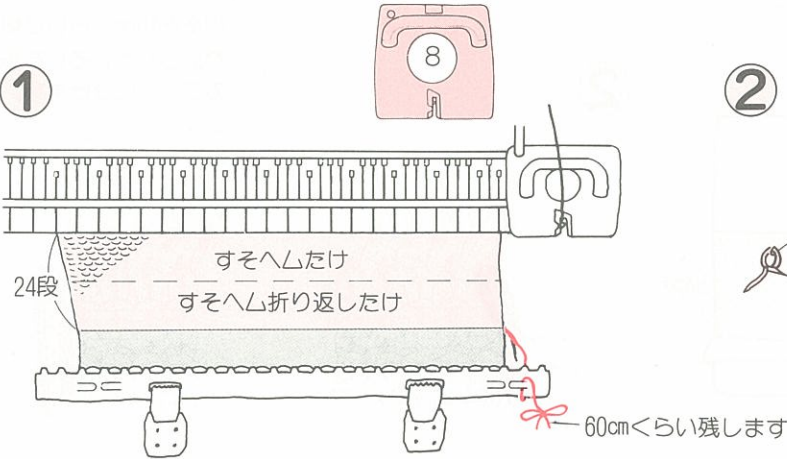
段数計を 000 にセットします。



すそへムだけを編み、袋編にします



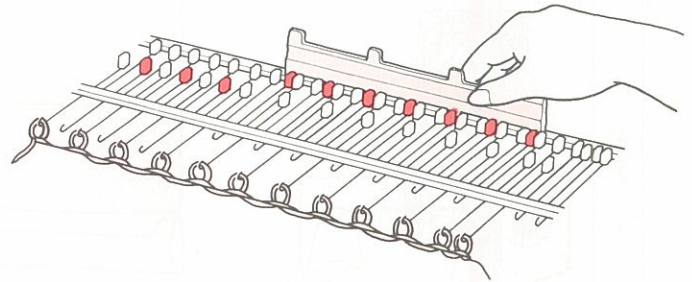
①



地糸(これから作品を編む編糸)の糸端を脇のとじ分として60cmくらい残し、24段編みます。

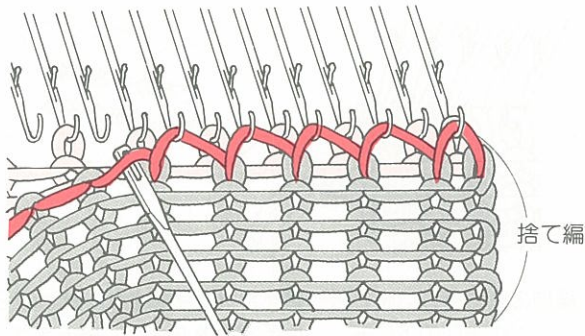
*始めの12段はすそへム折り返したけ、つづく12段はすそへムだけになります。

②



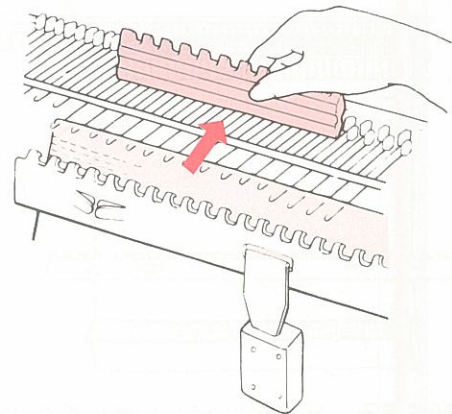
1本おきにもどしたA位置のカラ針をB位置に出します。

③



カラーウェイトと編出しをはずし、すそへム分を折り返します。ウツシを使って地糸の1段目の編目を端目から1目おきのカラ針にかけ目します。

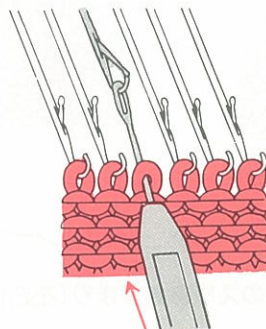
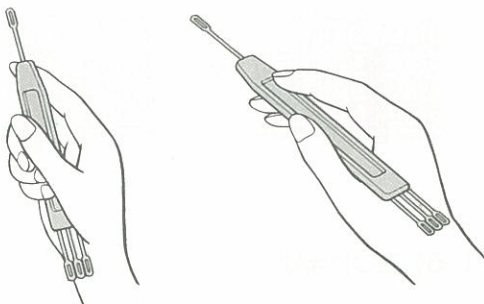
④



拾い終わったら、編針をB位置にそろえます。はずした編出しとカラーウェイトをもう一度編地にかけます。

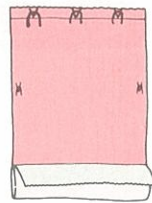
ウツシの使い方

ウツシは9mm用と4.5mm用の2種類があります。クシバに合わせて使い分けましょう。(1目用のウツシは共通です)

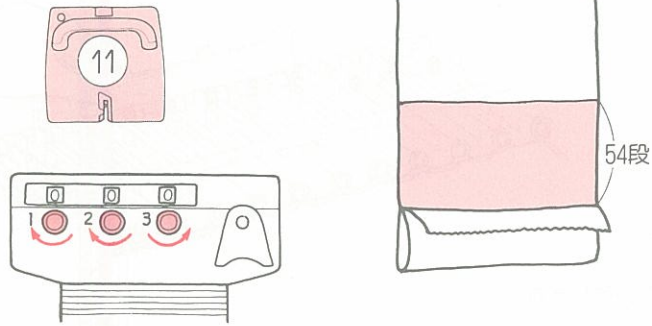


- ① 編目にウツシを入れます。
- ② 編目を移したい編針にウツシの穴をひっかけます。
- ③ 手前を持ち上げるようにして編目をかければOK。(49ページ参照)

脇だけをまっすぐ編みます

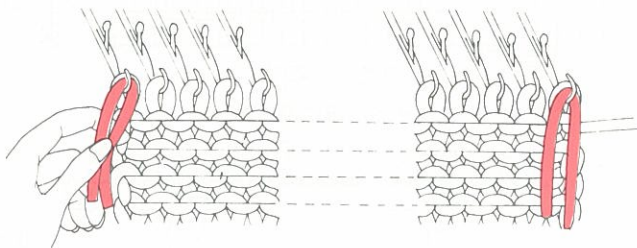


①



編目ダイヤルを〈11〉にセットし、段数計を 000 にセットします。
地糸のまま、54段編みます。

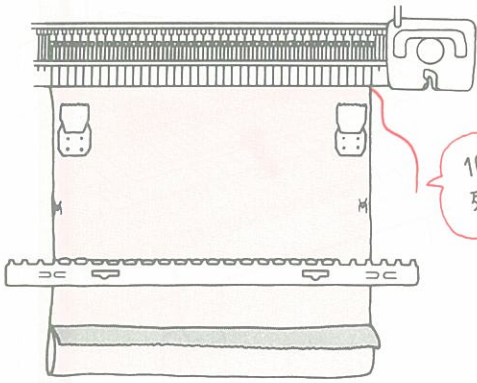
②



別糸を10cmぐらいに切り、
わにして糸じりしを編針
のフックにかけます。

左右にそでつけ止まりの糸じりしを付けます。

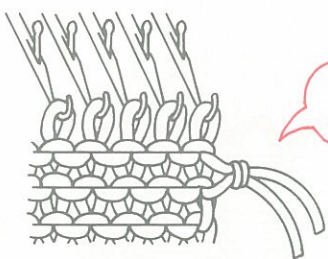
③



10cmぐらい
残してね

そのまま50段編み、糸端を10cmぐらい残してカット。
段数計は104段になっています。
編地が長くなってきたらカラーウェイトと編出しは上の方に
かけなおします。

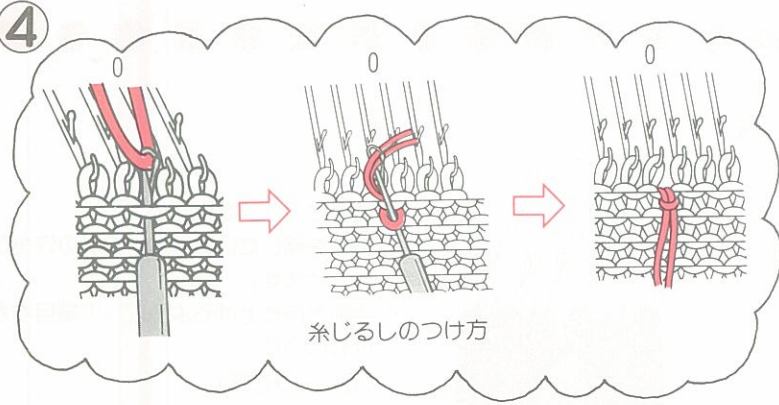
途中で糸がなくなりそうになったら



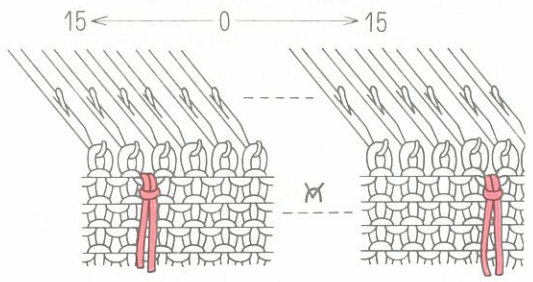
2本の糸端は軽く
結んでおきます

編地の端で新しい糸に取り替えます。糸端を10~15cmぐらいキ
ャリジの糸口の下に残し、片手で糸端をもって編みます。
糸がなくなったのを知らずにそのまま編むと、編地がはずれて
しまうので要注意!

④

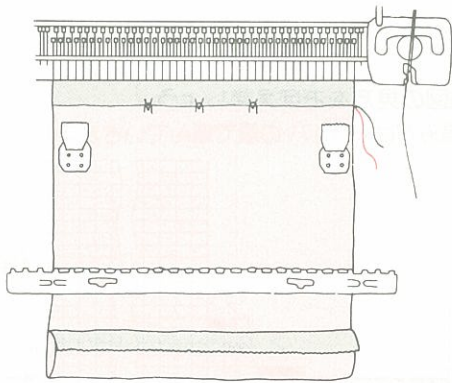


糸じりしのつけ方



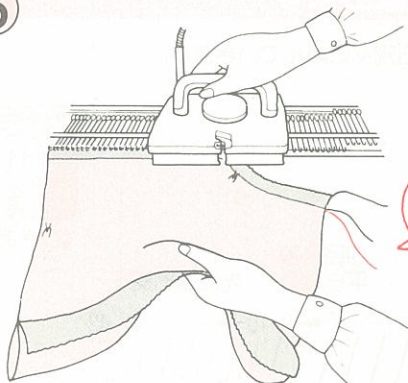
背中心(うしろ身ごろの中心の位置)と左右のえりあき止まり(左右15目め)に糸じりしを付けます。

⑤



糸口に別糸を入れ、捨て編を6段編みます。

⑥



編出しとカラーウエイトをはずしましょう

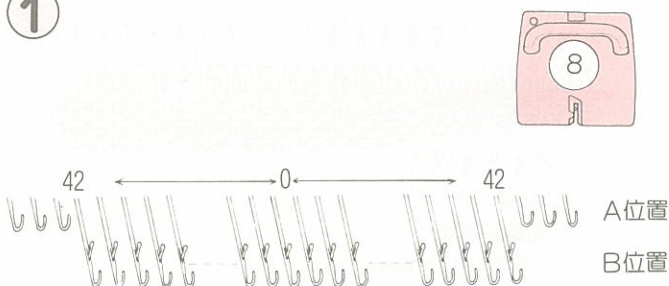
糸口から別糸をはずして切ります。キャリジを動かして編地をはずします。

2 前身ごろを編みます

編み始めます

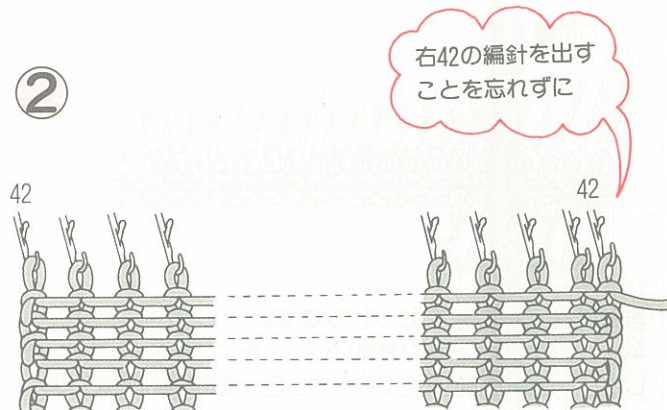
えりぐりまでの編み方はうしろ身ごろと同じです。

①



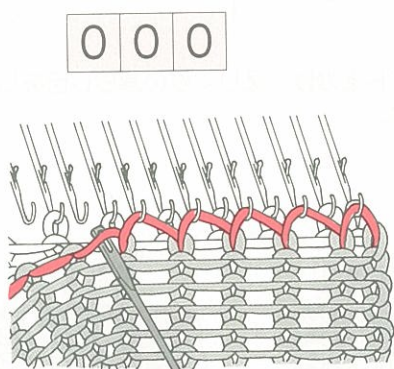
針出しをします。
キャリジを左側におき、編針を中心より左右42目づつ針出しします。

②



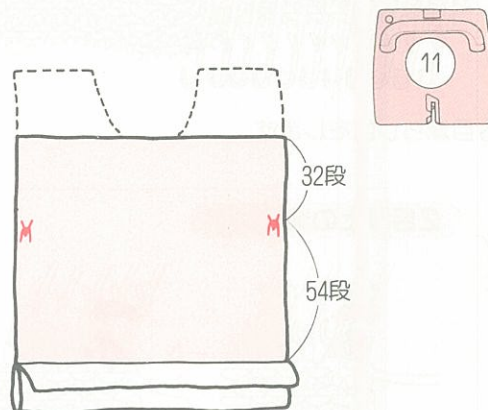
編みだします。
針出しした編針を1本おきにA位置にもどします。別糸で捨て編を5~6段編み、キャリジを右側でストップ。

③



すそへみを編みます。
地糸に替えて24段編み、A位置にもどした編針をB位置に出してすそへみを折り返します。

④

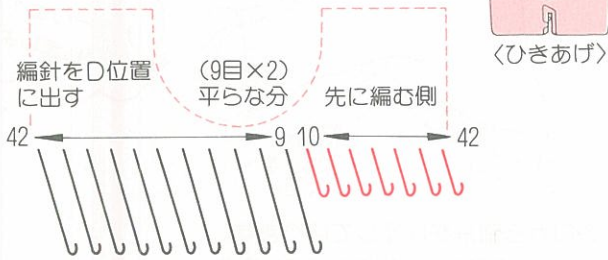


えりぐりの位置までまっすぐ編みます。
54段編んだらそでつけ止まりに糸じるしをつけ、つけて32段えりぐりの位置まで編みます。このとき、段数計は86段になっています。

えりぐりを編みます

えりぐりからは左右別々に編んでいきます。

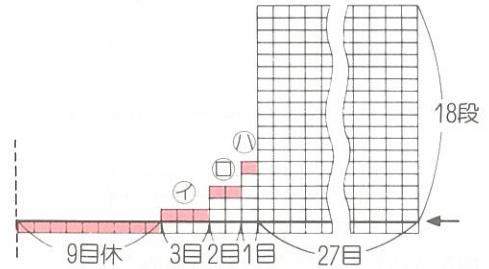
①



編糸のある側から編みます。
ここでは右側から先に編みます。

編図の見方をおぼえましょう。

(編み方は①②③の順で編んでいきます)

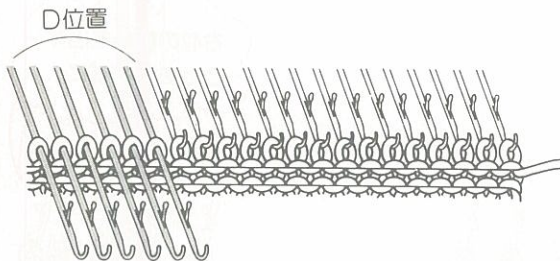


- 減
- ① 2段～1目-1回(2段編んで1目減らすことを1回)
 - ② 2段～2目-1回(2段編んで2目減らすことを1回)
 - ③ 1段～3目-1回(1段編んで3目減らすことを1回)

編図の表示

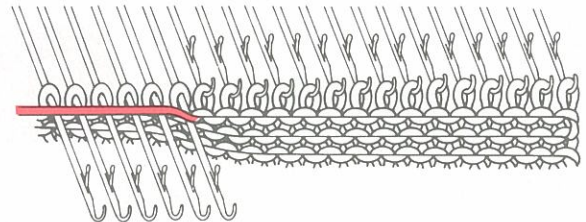
編み方

②



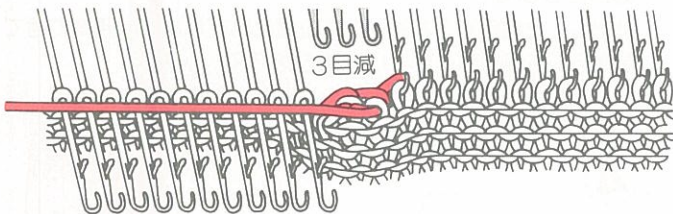
段数計を 000 にセットします。
キャリジの両サイドのひきあげレバーを 〈ひきあげ〉 にセットします。左側の編目(左42目～右9目)をD位置に出します。

③



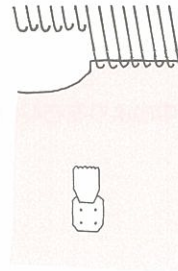
1段編みます。
D位置に出した編針は編めません。

④



3目減らし目をします。

⑤



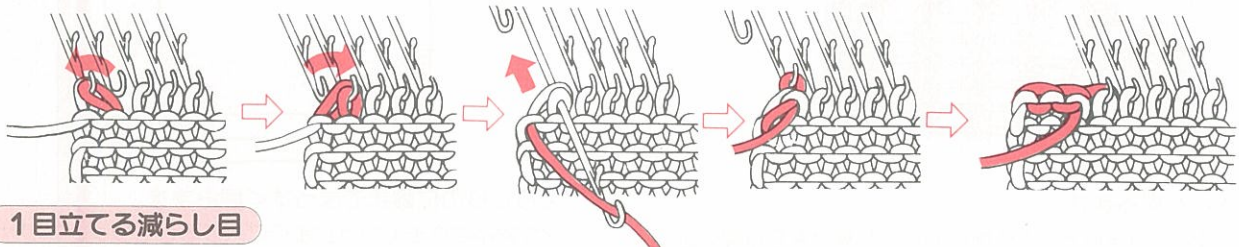
えりぐりを編むときはキャリジを毎段段数計が作動する位置まで動かしましょう

糸端は
編幅の3倍くらいを
残して切ります

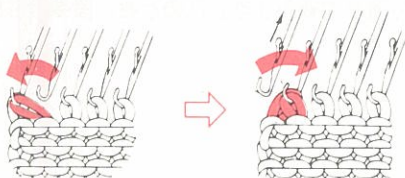
カラーウェイトをかけ、えりぐりの減らし目をしながら肩まで編みます。

減らし目の方法

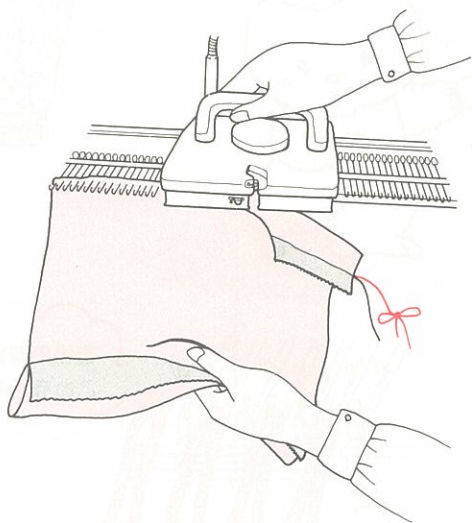
2目以上の減らし目



1目立てる減らし目



⑥

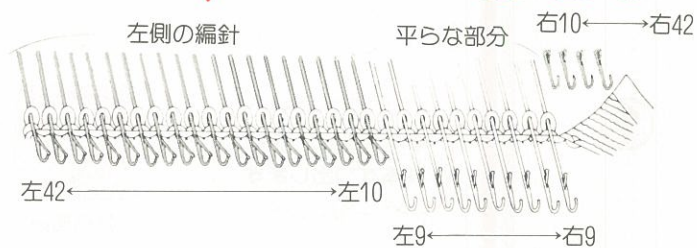


別糸で捨て編を6段編んで糸口からはずし、キャリアジを左側で止めます。右側の肩がはずれます。

⑦

キャリアジは左側に。

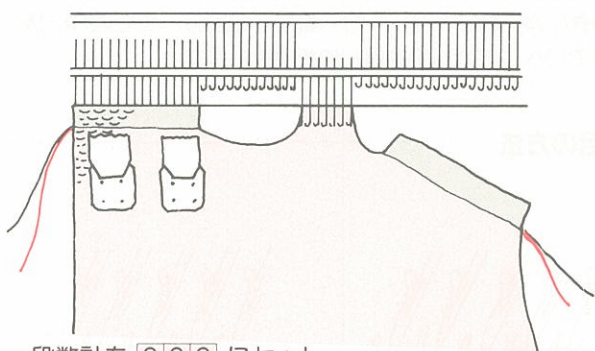
編地をはずしたカフ針はA位置へ



左側の肩を編みます。
中央部の18目はそのままにして、左側の編針(左42目~左10目)をC位置にもどします。

⑧

000

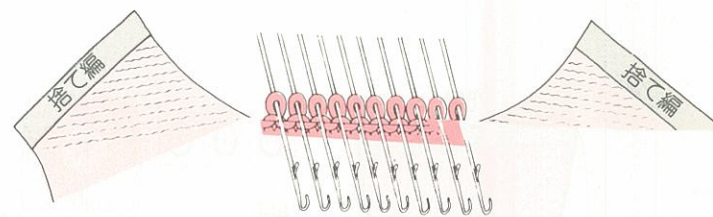


段数計を000にセット。
右側と同じようにえりぐりの減らし目をして編んだあと、別糸で捨て編を6段編み、編機からはずします。

⑨



〈ひらあみ〉

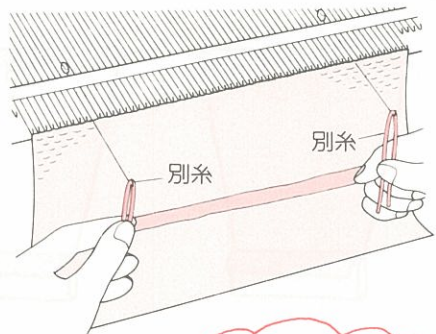


中央部は左右のひきあげレバーを〈ひらあみ〉にセットし、別糸で捨て編を6段編み、編機からはずします。

編ゲージに糸じるしをつける方法

1

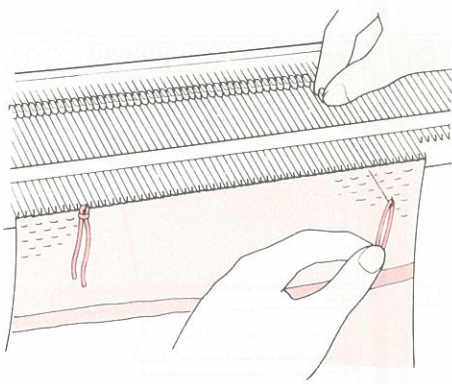
- 4.5mm用は中心より左右21本目(ミゾ板目盛板)の編針を1本ずつD位置に出し、別糸をかけます。
- 9mm用は中心より左右11本目の編針を1本ずつD位置に出し、別糸をかけます。



別糸は10cmに切ったものを2本用意します。

2

D位置の2本の編針をB位置までもどし、編目を作ります。



ちょっと手をそえてあげるとカンタン!

3) そでを編みます

そで口へム部分までの編み方は身ごろと同じです。

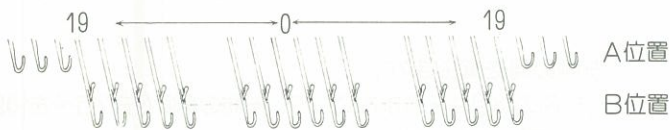


①

0を中心に、左右
19本ずつ出します

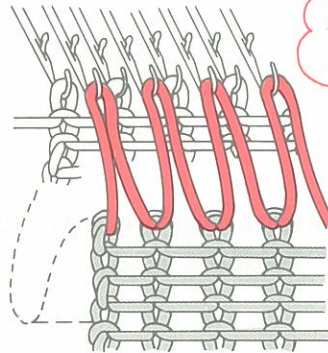


〈ひらあみ〉



②

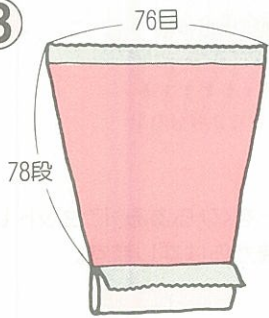
右19の編針を出す
ことを忘れずに



模様板の1/4側を使って編針をB位置に出します。

身ごろと同じようにそで口へム部分を編みましょう。
1本おきにA位置にもどして捨て編を6段編み、次に地糸に替
えてそで口へム部分24段を編んで折り返します。

③



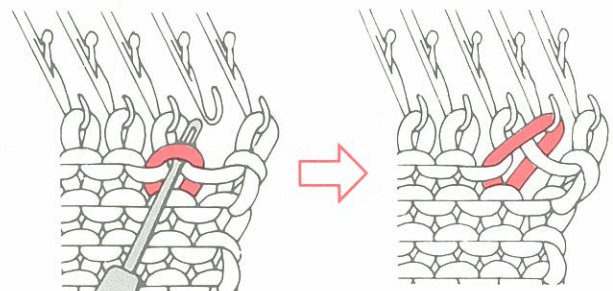
000



3段平
4~1+18) 増
3~1+1) 増
段目回

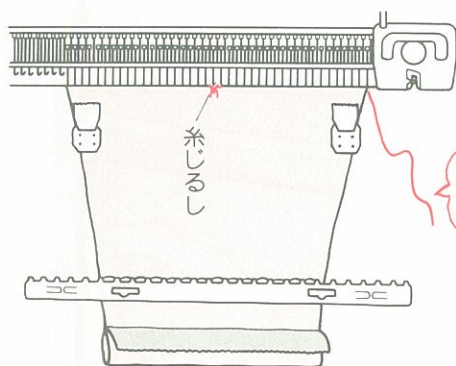
増し目は左右同時に
します

増し目の方法



増し目をしながらそで下だけを78段編みます。

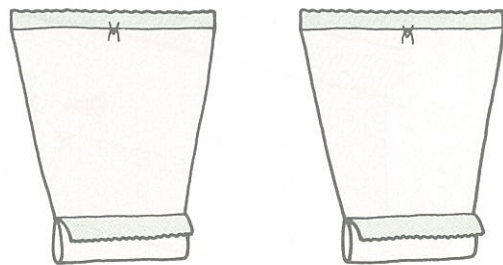
④



糸しるし

編幅の3倍くら
い残します

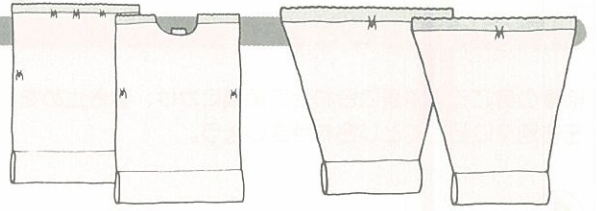
⑤



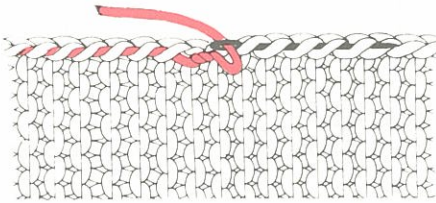
そで中心(0の位置)に糸しるしをつけます。
糸端はそで下のとじ分として編幅の3倍くらい残してカット。

別糸で捨て編を6段編み、編機からはずします。
※同じようにして、もう1枚編みましょう。

4 アイロンをかけます



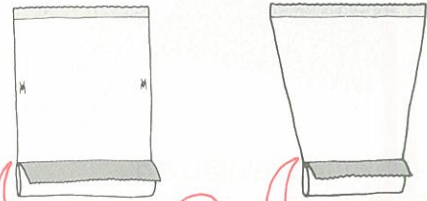
①



端目の糸始末

編糸の始末をします。
(60ページ参照)

②

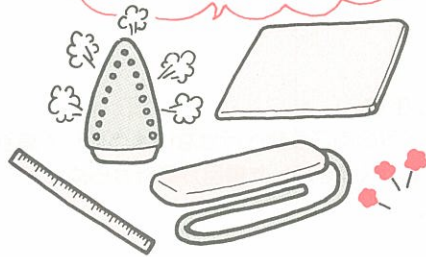


この編目を切って
引き抜くと捨て編
がはずれます

編み始めの捨て編をはずします。
(56ページ参照)

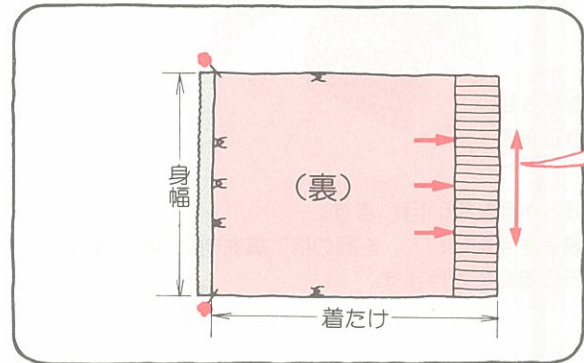
③ 用意するもの

スチームアイロン、アイロン
うま、アイロンマット、ピン、
ものさしを用意してね



仕上げ前のアイロンをかけましょう。

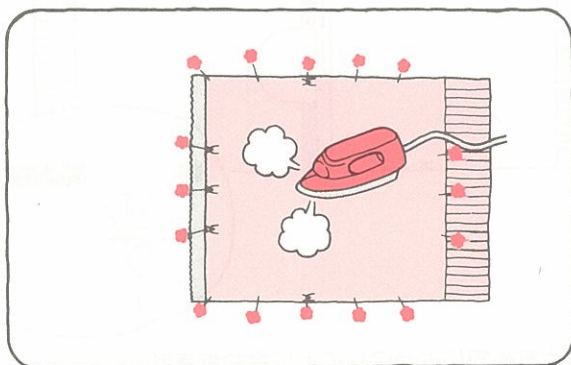
④



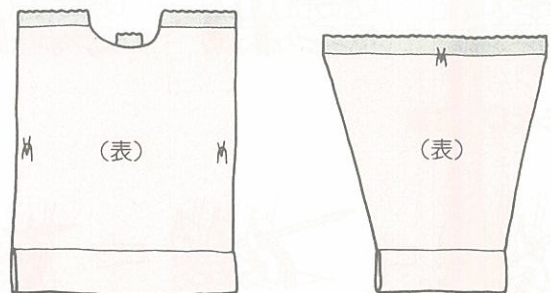
すそへム部分は編目が横に伸びています。
アイロンをかける前にたてに充分ひっぱ
つてのばします

編地の裏を上にしてアイロンマットにのせます。
各部分の寸法を確かめて、まず角からピンを打ちます。

⑤



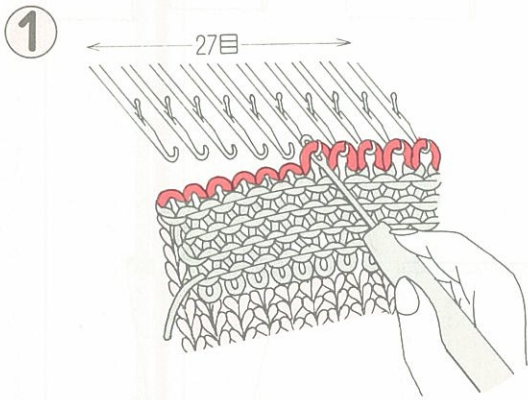
次に糸じるしの位置にピンを打ちます。
あとは編地の端にそって5~10cm間隔でピンをとめてください。
全体にむらなくスチームアイロンをかけましょう。



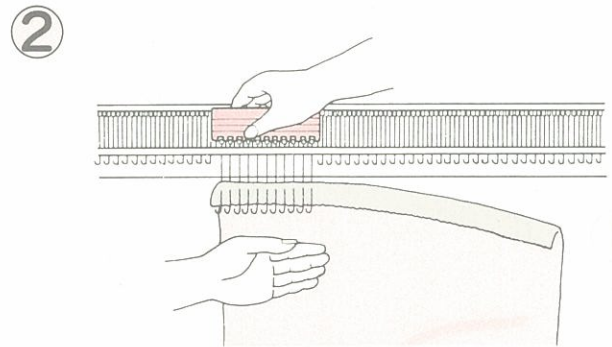
裏側が終わったら表側にも軽くスチームを当てます。
前身ごろやそでも同じです。

5 肩をはぎ合わせます

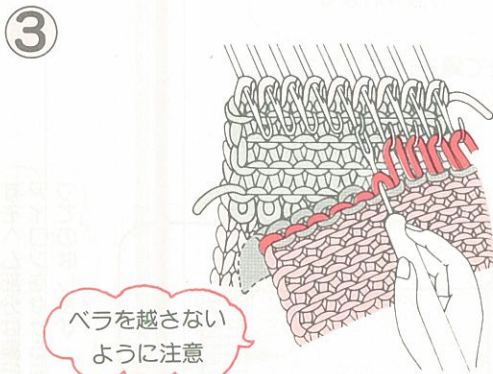
前後の身ごろを中表に合わせて編機にかけ、巻き止めをします。
左右別々に分けてとじ合わせましょう。



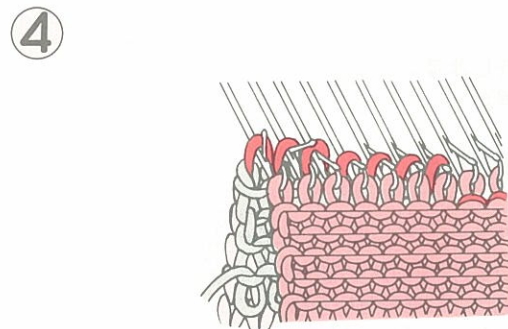
うしろ身ごろの肩の目を拾い目します。
うしろ身ごろの表側を手前にして、左肩の捨て編部分を手前に折ります。糸じるしから左側にある、捨て編のつぎの地糸の編目を編針にかけましょう。



編針をD位置に出します。
編地を手で押さえながら編針をD位置に出します。編目はペラの向こう側へ移ります。

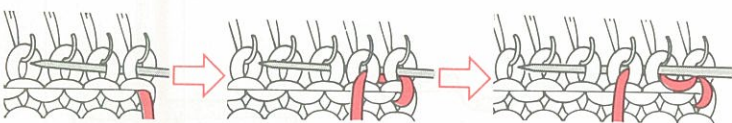


前身ごろの肩の目を拾い目します。
前身ごろの裏側を手前にして、左肩の捨て編を向こう側に折り、うしろ身ごろに重ねてかけます。

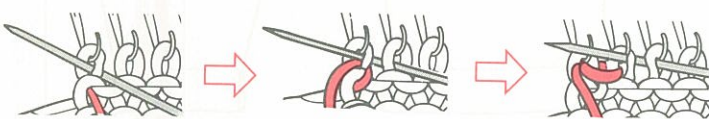


編目をペラ越しします。
前身ごろの編目がペラの向こう側へ行かないようにして編針をB位置にもどします。ペラを越した編目が編針からぬけて、1目の編目になります。

5 右からとじる方法

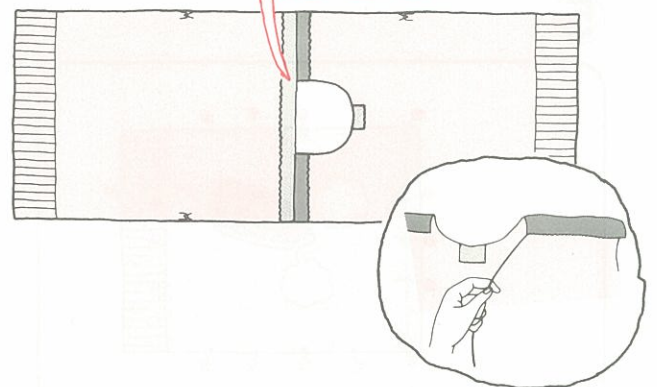


左からとじる方法



残しておいた編糸をとじ針に通し、巻き止めをします。
(58ページ参照)
巻き止めが終わったら、編針をD位置に出し、再びA位置にもどして編機からはずします。

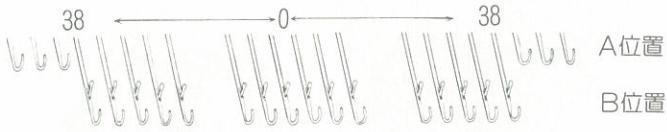
6 えりぐりの始末をするまでほどきません



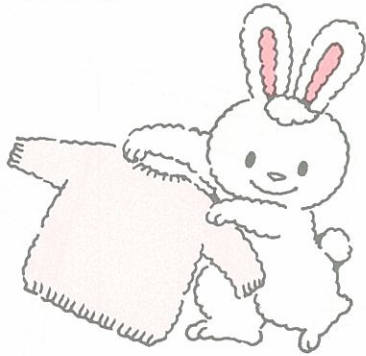
※もう片方も同じようにしてとじ合わせます。
肩のはぎ合わせが終わったら、前身ごろの捨て編の編みおわりを下に引っばってほどきます。

6 身ごろにそでをつけます

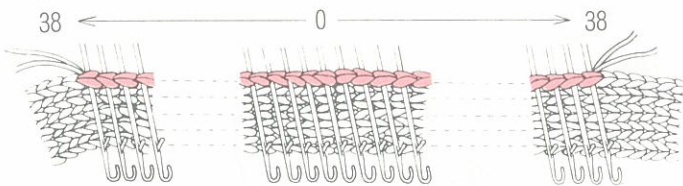
①



編針を76本、B位置に出します。

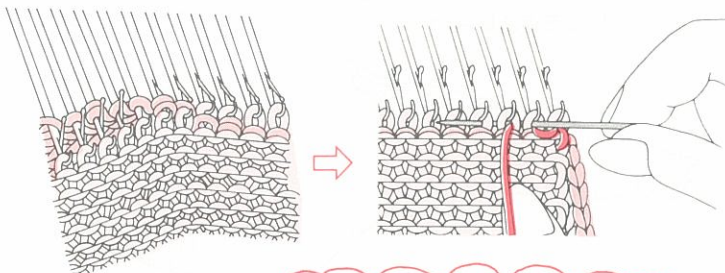


③



拾い終わったら、編針をD位置に出してください。

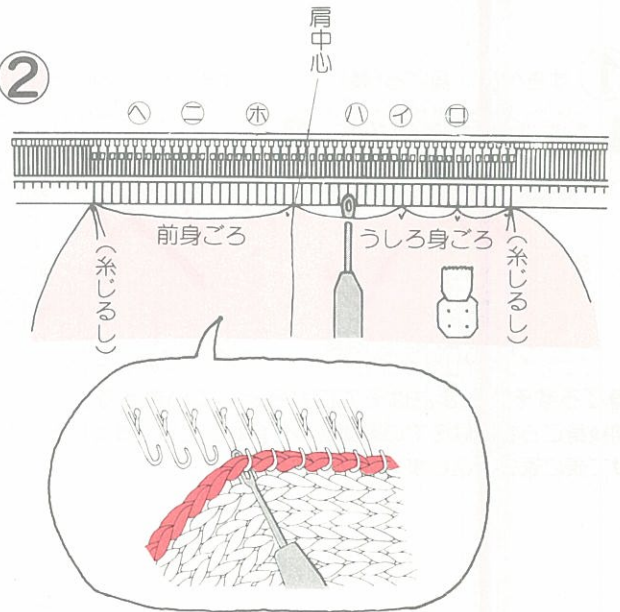
⑤



ペラ越しは編地を下に引っ張りながらすると良いでしょう

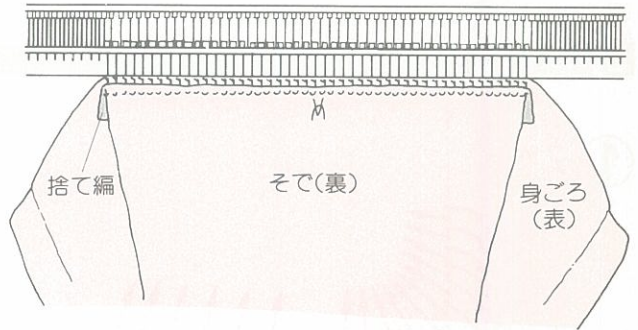
編目をペラ越しして、とじ針に編糸を通し巻き止めをします。巻き止めが終わったら、編機からはずしましょう。

②

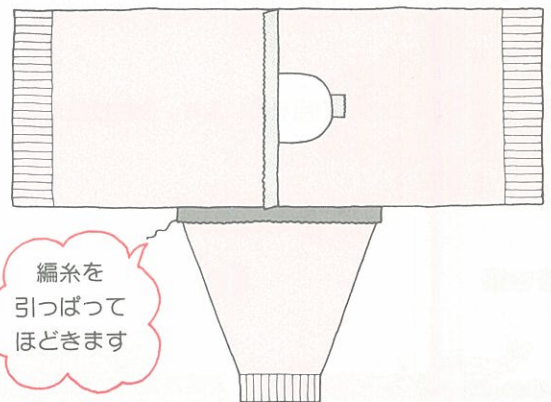


前後身ごろのそでつけ部分から編目を拾いましょう。表側を手前にして、まず両側の糸ひく(そでつけ止まり)と中心(肩先)の編目を拾います。そのあと⑦⑧⑨⑩⑪⑫の順に全体の目を平均に拾っていきます。(59ページ参照)

④



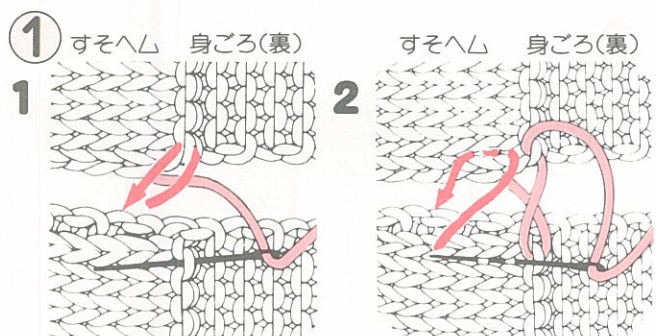
そで幅の編目を拾います。身ごろとそでを中表になるように持ち、捨て編部分を向こう側に折って編目を拾います。



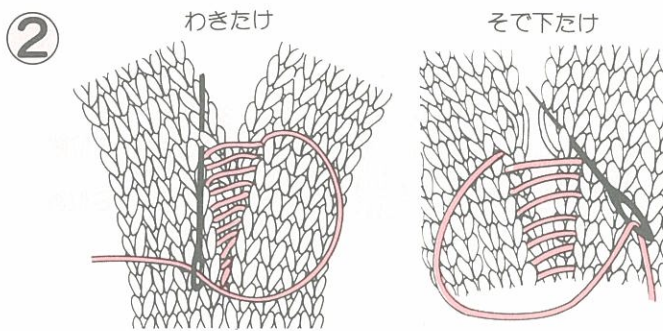
編糸を引っばってほどこきます

そでの捨て編はほどこきます。
※もう片方も同じようにつけます。

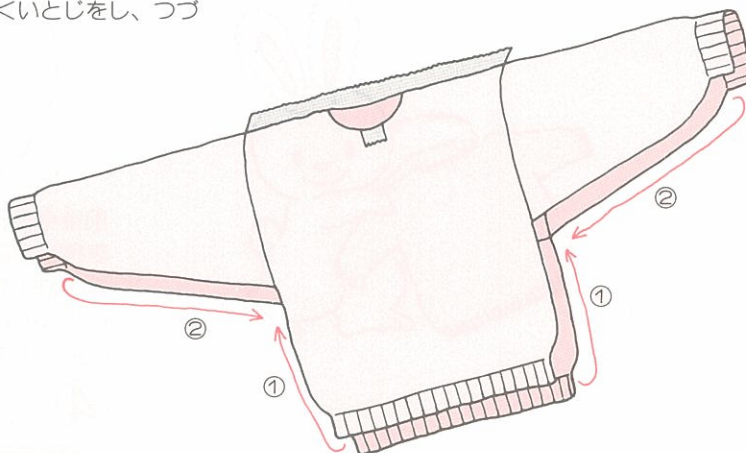
7 わきたけとそで下たけをとじ合わせます



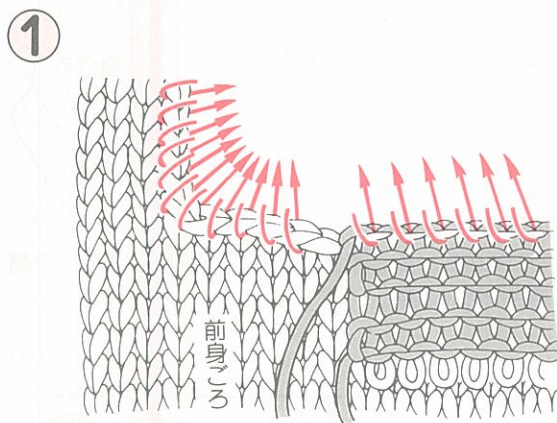
身ごろすそへムまたはそで口からとじていきます。
前後身ごろまたはそでの裏側をつき合わせにしてすくいとしをし、つづけて表に戻してとじます。



わきたけ、そで下たけをとじます。

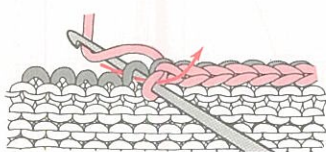


8 仕上げをします

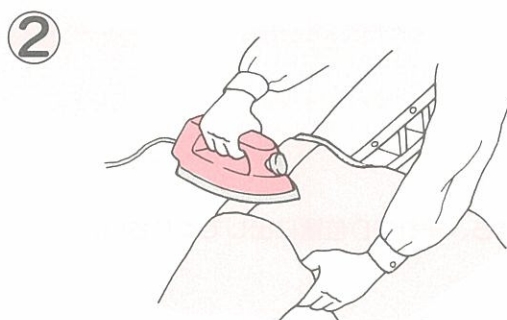
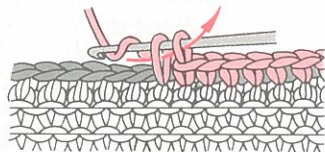


えりぐり縁編をします。
6号のかぎ針でえりぐりの目を拾います。引抜き編1段、細編1段で整えましょう。

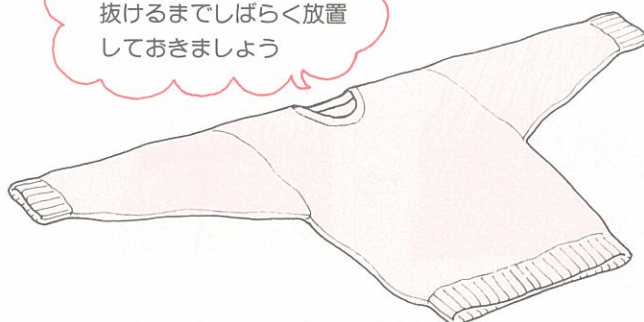
引抜き編



細編



かけおわったら、蒸気が抜けるまでしばらく放置しておきましょう



仕上げのアイロンかけです。
糸始末をして捨て編をほどきます。
裏返しにして、とじた部分をアイロンの先で整えます。
表に戻して全体にかかるくアイロンをかけ、仕上げます。

2

カーディガン(4.5mm用クシバを使います)

●材料

編糸(ニツケピクター毛糸ノルディック5)・・・400g
 捨て編用の糸・・・・・・・・残り糸少々
 (56ページ参照)
 直径2.0cmのボタン・・・・・・・・4個

●出来上がり寸法

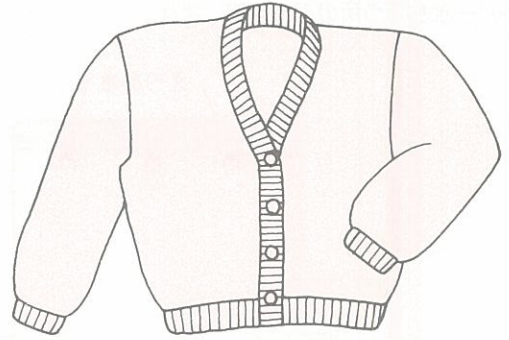
身幅・・・・・・・・54cm
 着たけ・・・・・・・・60cm
 ゆきたけ・・・・・・・・72cm

●編ゲージ

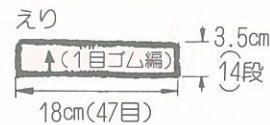
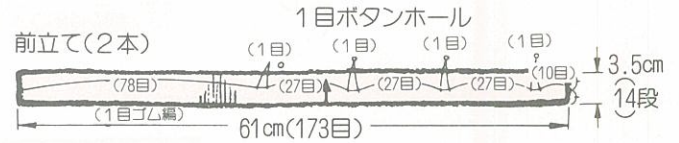
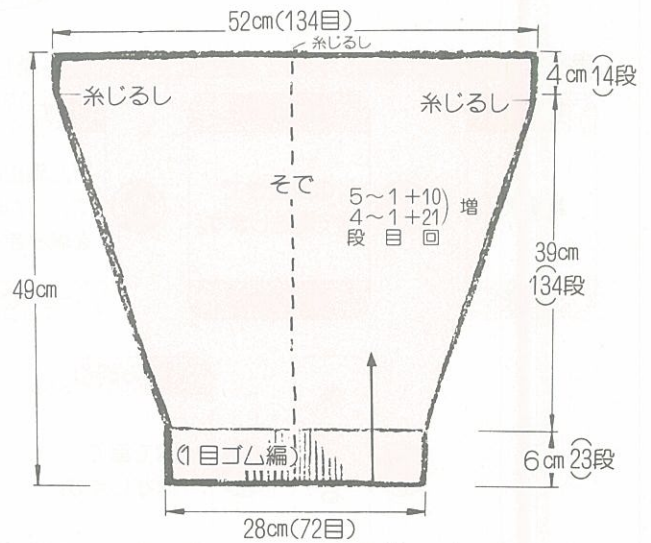
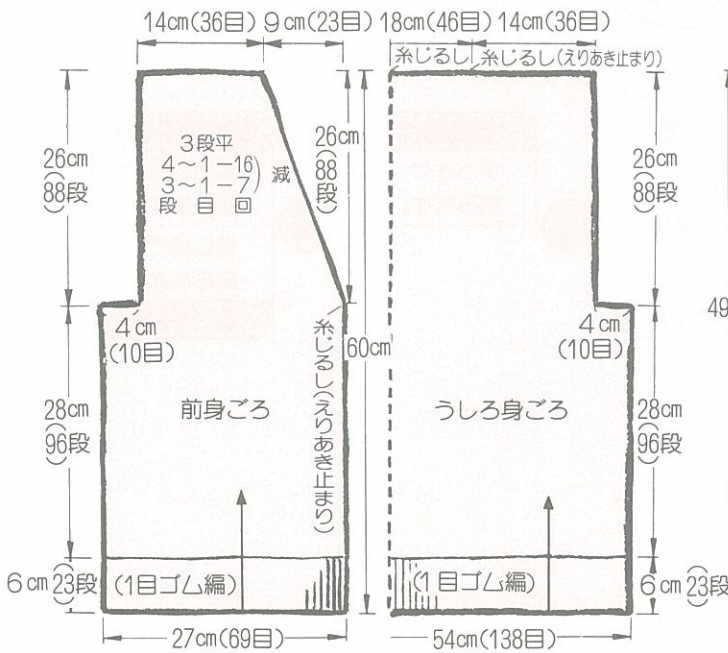
(ひらあみ)



10cmあたり (25目
34段)

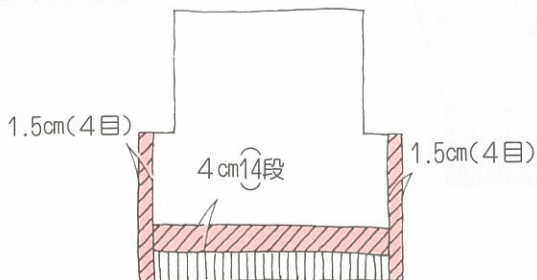


- ※この編ゲージは練習用の参考ゲージです。
- ※ピッタリサイズにしたいときは、編ゲージを作ってから編みましょう。
- ※素材や模様編を変えるときは、編ゲージをとり直してください。
(編ゲージのとり方は11ページを参考に。)



※前立ての目数は1割増した目数にします。

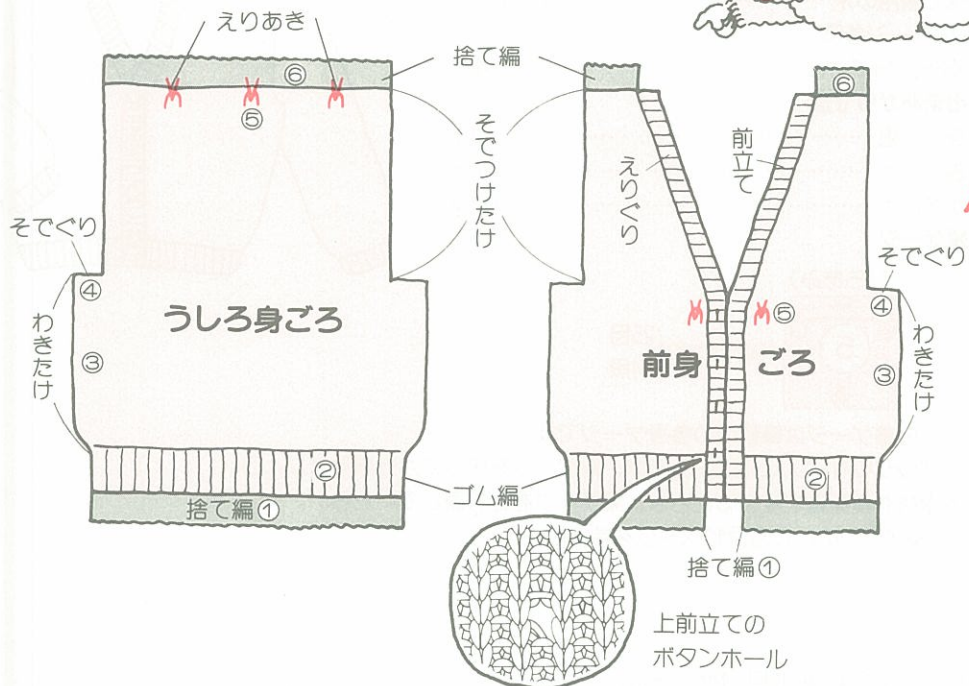
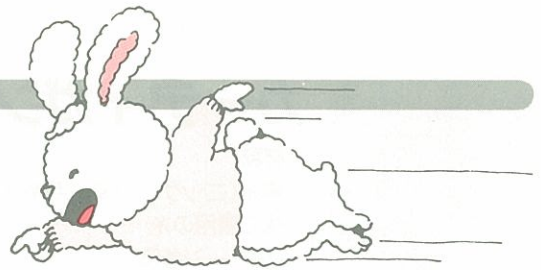
●サイズを変えたいときの目数・段数の出し方(身幅を3cm大きく、着たけを4cm長くする場合)



1cmあたりの目数・段数を計算します。
 $25目 \div 10cm = 2.5目$ (1cmあたりの目数)
 $34段 \div 10cm = 3.4段$ (1cmあたりの段数)
 この数字を希望の寸法に置きかえます。
 $2.5目 \times 3cm = 7.5目$
 $3.4段 \times 4cm = 13.6段$
 目数は8目、段数は14段増やせば希望のサイズに仕上がります。

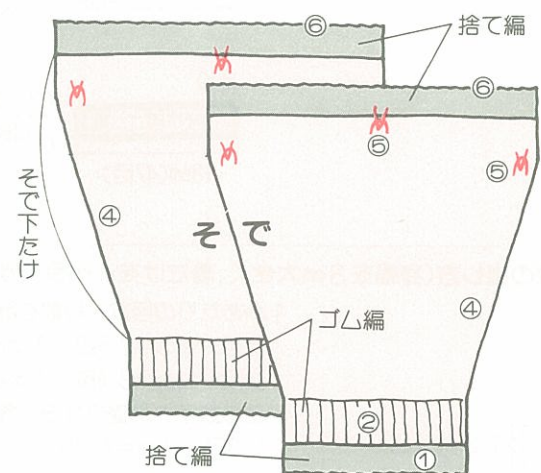
■ すずめ方は次のとおりです

だいたいNo.1のプルオーバーの要領で編めるので、ここではプルオーバーとちがう所のみを説明します。



番号は編む順序を表します。番号にそって編みましょう。

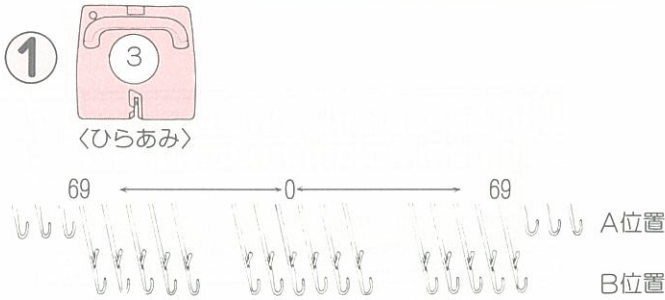
身ごろ	編み始め	すそ	わきたけ	そでぐり・えりぐり
編み方	① 1/4の針抜きで捨て編をします。	② ゴム編止めをして、ゴム編だけを編みます。	③ まっすぐ編みます。	④ 減らし目で編みます。 増し目で編みます。
そで	編み始め	そで口		そで下たけ
	⑤ 糸じるし	⑥ 編み終わり		
		捨て編ではずします。		
		編み終わり		



1 うしろ身ごろから始めましょう

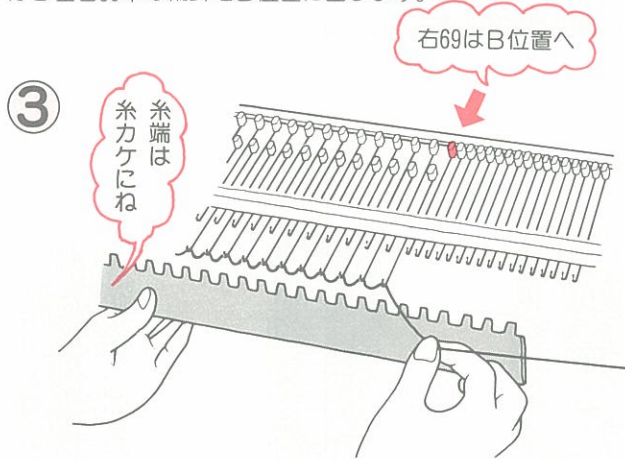
※4.5mm用クシバになっていますか。

編み始めます



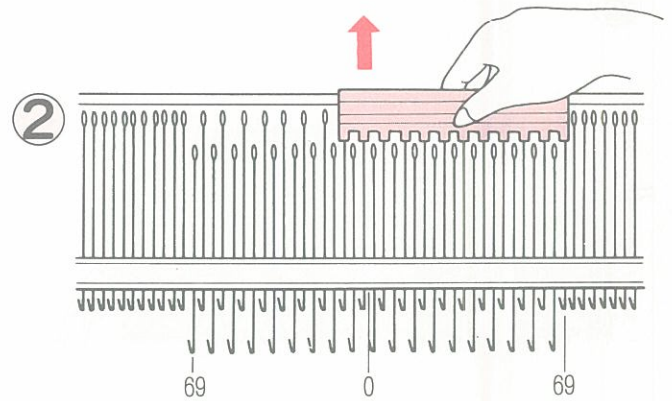
針出しをします。

キャリジをミソ板の左側におき、模様板の全目出し側で、中心から左右69本の編針をB位置に出します。

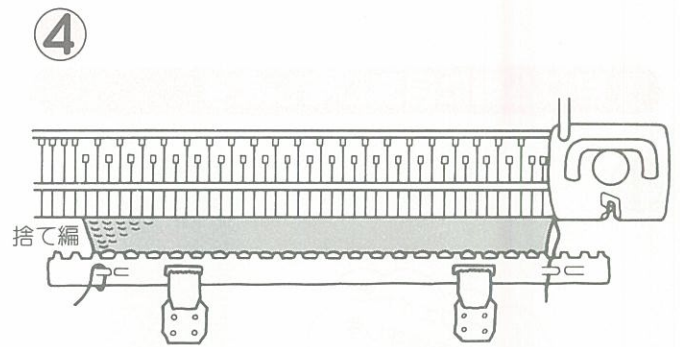


別糸で1段編みます。

編みおわたたら、編出しシとカラーウェイトをかけましょう。右端のカラ針(右69目め)を1本B位置に出します。

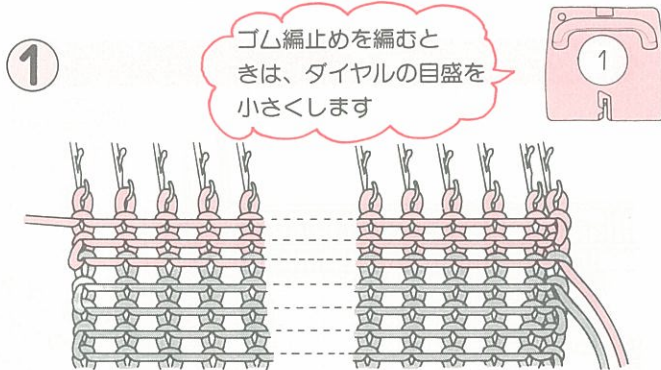


模様板の $\frac{1}{2}$ 側で、左から1本おきに編針をA位置にもどします。

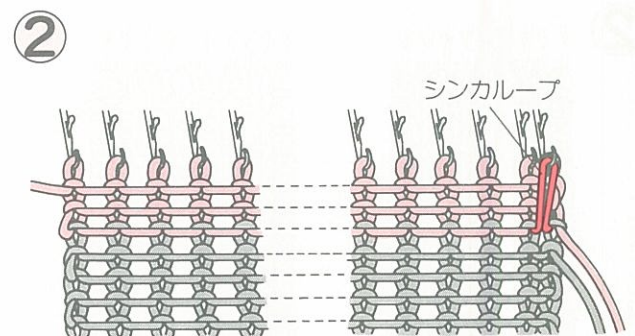


捨て編を9~10段編み、キャリジを右側で止めます。別糸を切り、糸カケに休めます。

ゴム編止めをしてゴム編だけを編みます

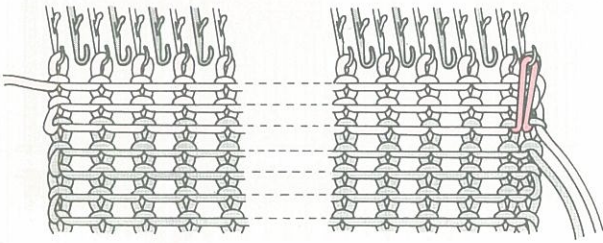


編目ダイヤルを<1>にセットし、地糸で3段編んでください。



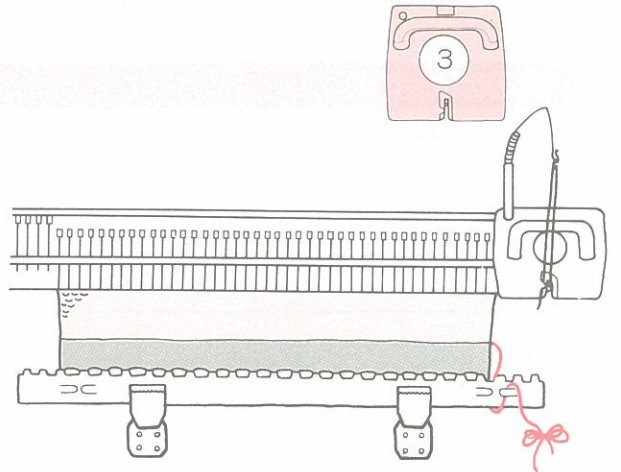
右端2目の間にある編み始めのシンカーループをウツシで端目に重ね目します。

③



①の②でA位置に戻しておいた編針をB位置に出します。

④

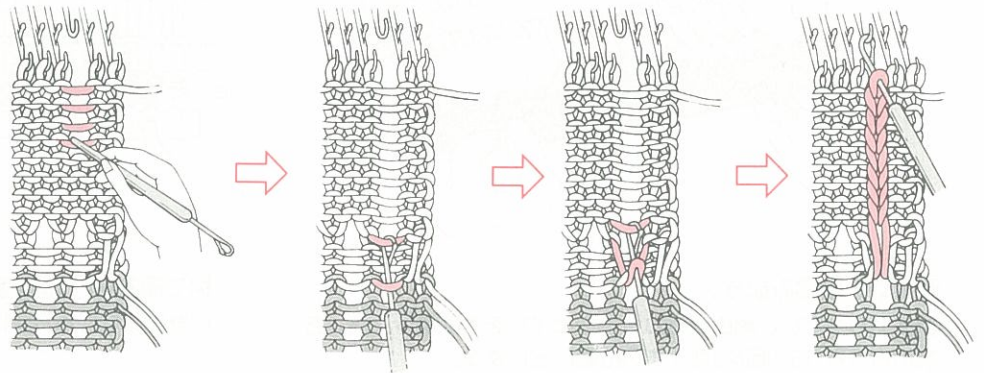


段数計を 000 にセットし、編目ダイヤルを<3>にセット。ゴム編だけ23段を編みましょう。

1目ゴム編に目直しをします

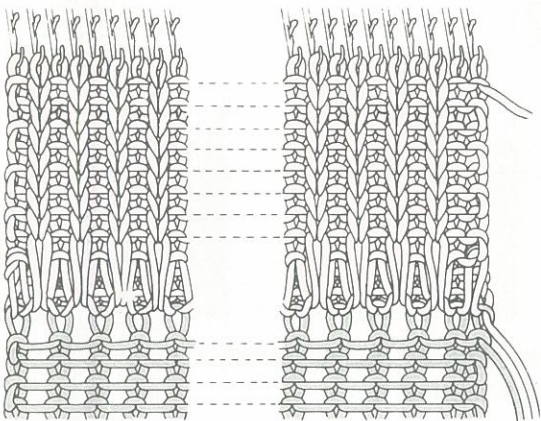
①

カラーウエイトと
編出しをはずしま
す



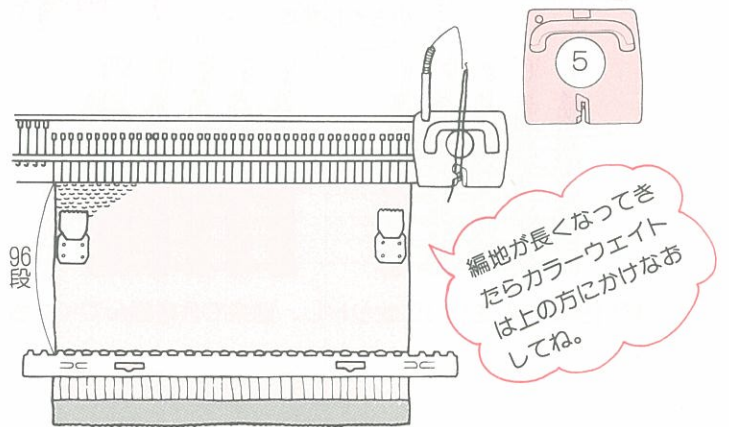
右3目めから編目をはずし、タツピで目直しをします。
(49ページ参照)

②



ゴム編の出来上がり。
編針をB位置にそろえましょう。

脇だけを編みます

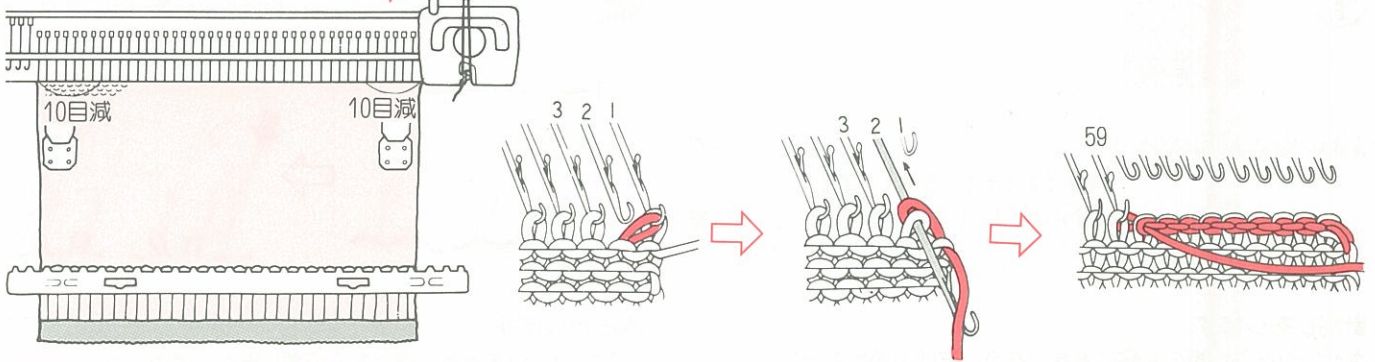


段数計を 000 に、編目ダイヤルを<5>にセット。編出しにカラーウエイトをかけます。96段まっすぐ編みます。

そでつけたけを編みます

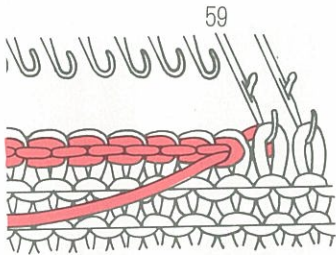
①

糸端のある側から
始めましょう



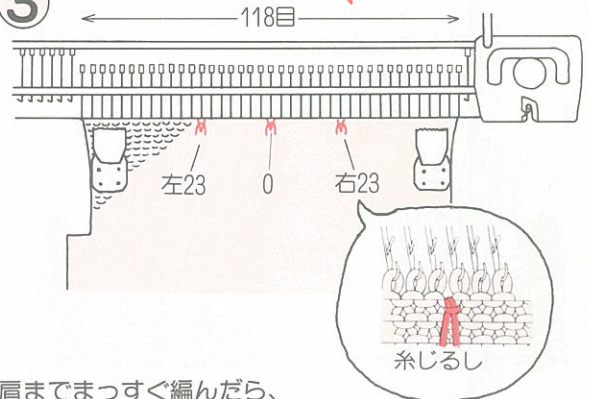
そでぐりの減らし目をします。
10目減らします。
(50ページ参照)

②



1段編んで反対側の減らし目をします。
10目減らします。

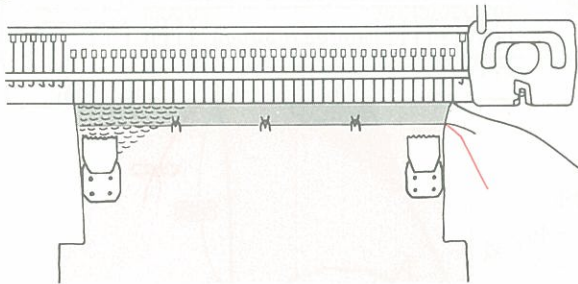
③



このとき段数計は
184段になっています

肩までまっすぐ編んだら、
糸端を10cmくらい残して切ります。
背中心と左右のえりあき止まり(左右23目と24目めの間)に糸
じるしをつけましょう。

④

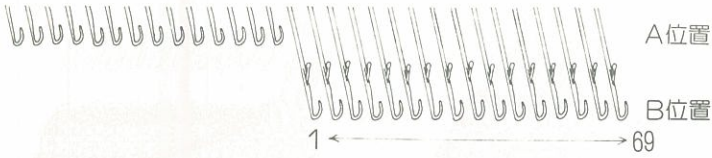
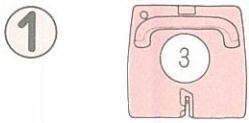


別糸で捨て編を10段編み、別糸を切って編機からはずします。

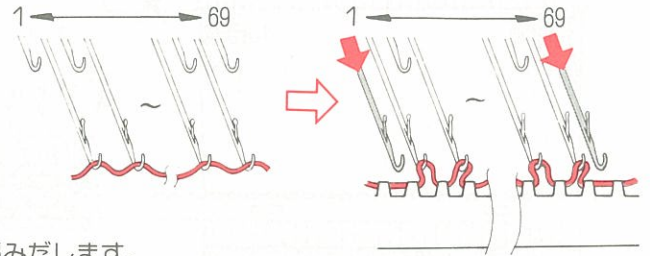


2次は前身ごろです

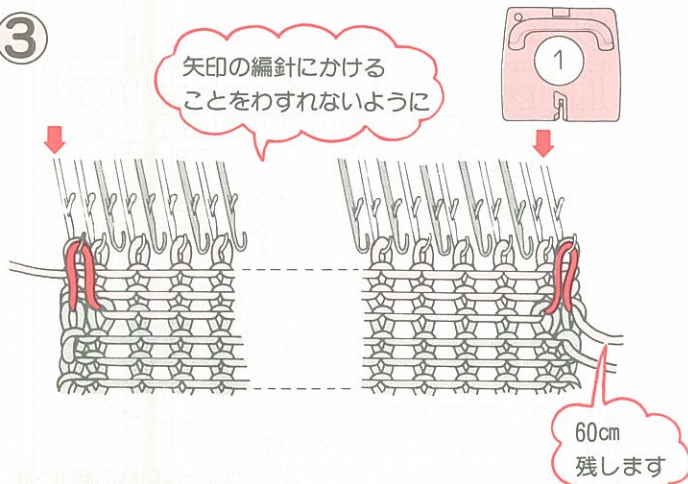
前身ごろは片身ごろずつ編みます。まず右身ごろから先に編み始めましょう。



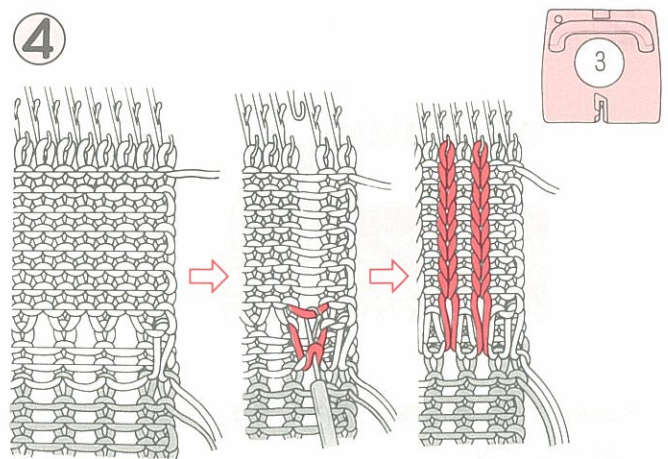
針出しをします。
キャリジをミソ板の左側におき、右1～右69の編針を出します。



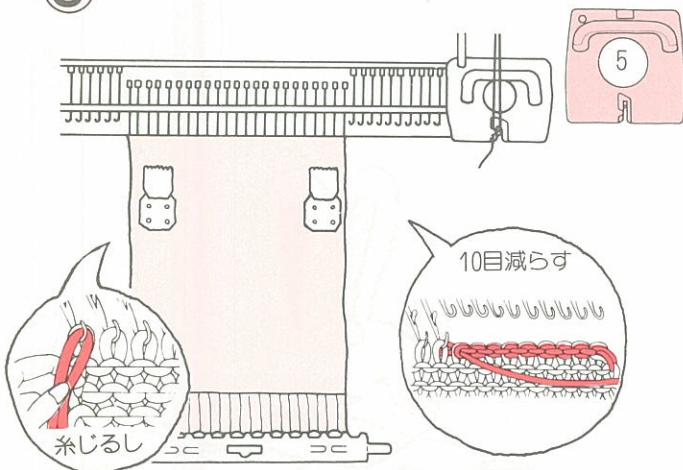
編みだします。
右1から右へ1本おきに編針をA位置にもどします。うしろ身ごろの要領で捨て編をしましょう。



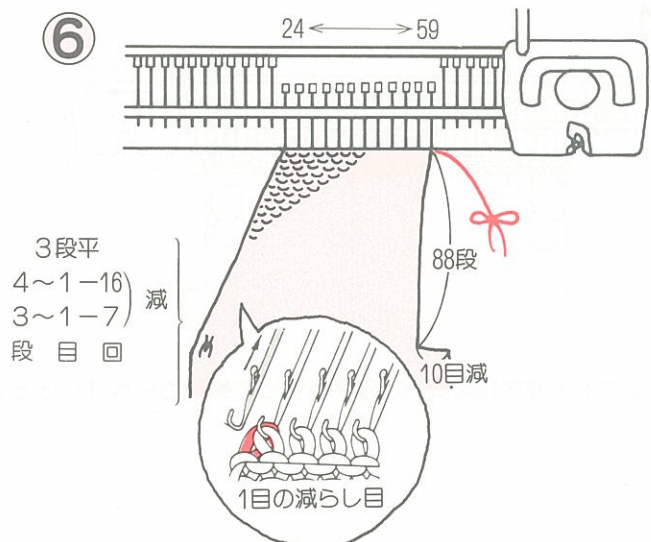
地糸に替えて3段編みます。
両端の2目の間のシンカーループを両端目に重ね目し、A位置にもどした編針をB位置に出しましょう。



地糸でゴム編だけ(23段)を編みます。
タッピで1目ゴム編に目直します。
(54ページ参照)



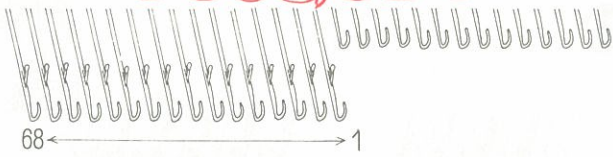
段数計を 000 にしてわきだけを96段編みましょう。
えりあき止まりに糸じるしをつけ、そでぐりの減らし目をします。



えりあきの減らし目をしながら肩まで編みます。(50ページ参照) 段数計は184段になっています。
編糸はとじ分として編幅の約3倍残して、切ってください。
別糸で捨て編を編んでからはずします。

7

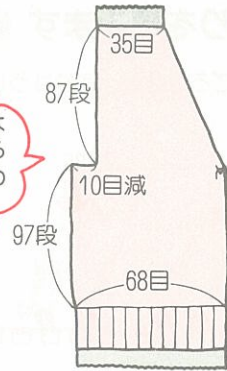
1段編んでから左1の編針をB位置に出すことを忘れないように



左前身ごろを編みましょう。
ここではゴム編とじをきれいにするために、1目少くして68本の編針を出します。左68〜左1の針出しをして、左67から1本おきにA位置にもどし、編みだします。

8

減らし目は編糸のある側で97段めに行います

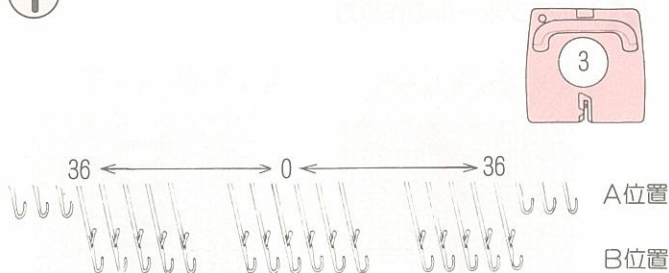


3段平
4~1-16) 減
3~1-7) 減
段 目 回

えりあき止まりからは、右前身ごろと対称になるように編んでいきます。

3 そでを編みます

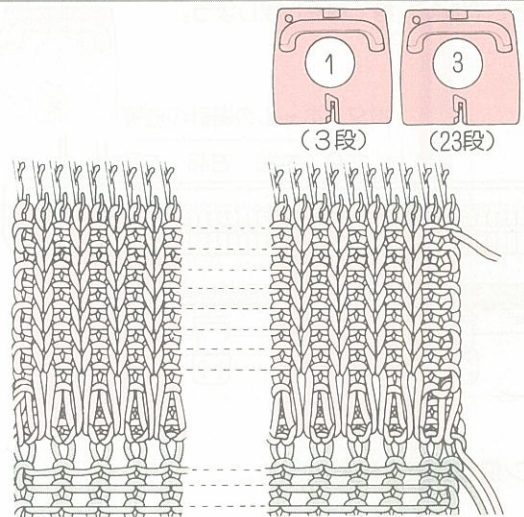
1



針出しをします。
中心から左右に72本、編針をB位置に出します。

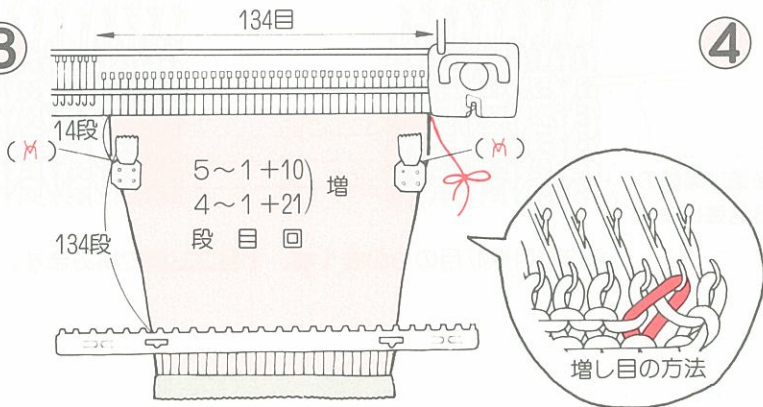


2



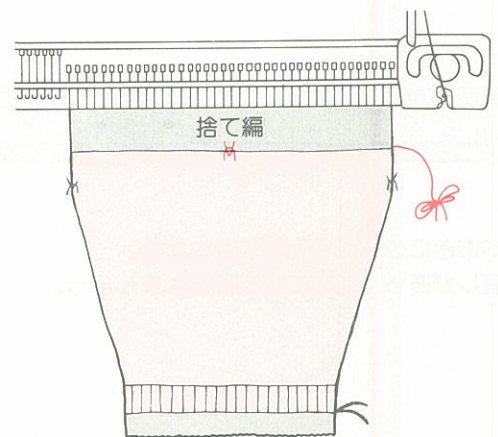
編みだします。
1本おきに編針をA位置にもどし別糸で捨て編を編み、身ごろと同じように地糸でゴム編だけを編み、目直しをします。

3



段数計を 000 にして、1のプルオーバー(20ページ参照)と同じように左右で増し目をしながらそでを編みます。(51ページ参照)
134段目のところで左右に糸じるしをつけ、148段まで編みます。

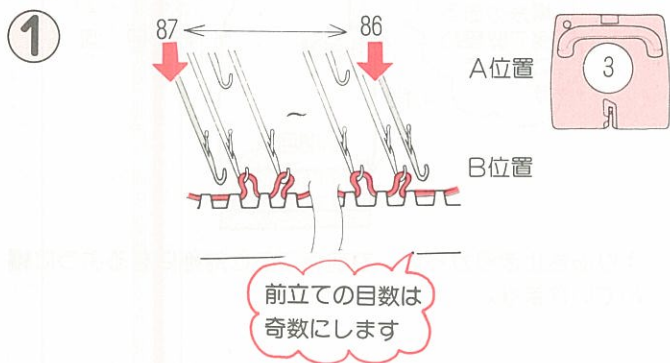
4



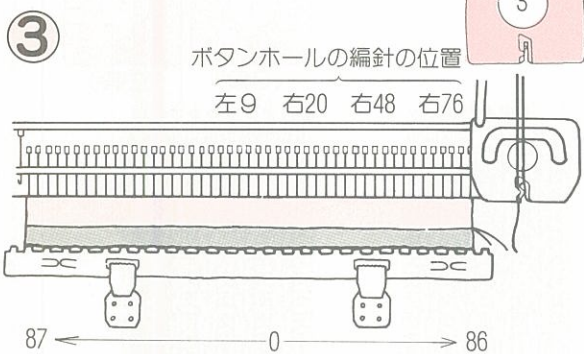
編み終わったら中心(0の位置)に糸じるしをつけ、捨て編ではずします。
※同じようにしてもう1枚編みましょう。

4 前立てとえりを編みます

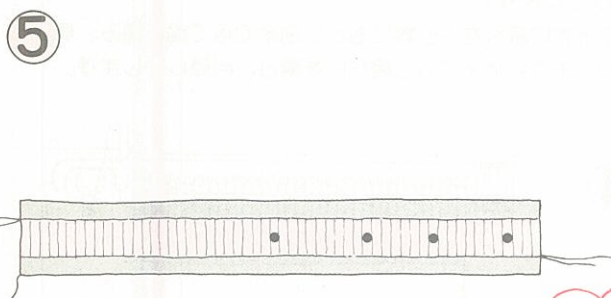
前立ては左右の前身ごろ分2枚、えりはうしろ身ごろ分1枚に分けて編みます。編み方は身ごろすそと同じです。



針出しをして、編みだします。
前立ての目数に合わせて173本の編針をB位置に出し、左87の針から1本おきにA位置にもどします。
身ごろと同様に、捨て編をしましょう。

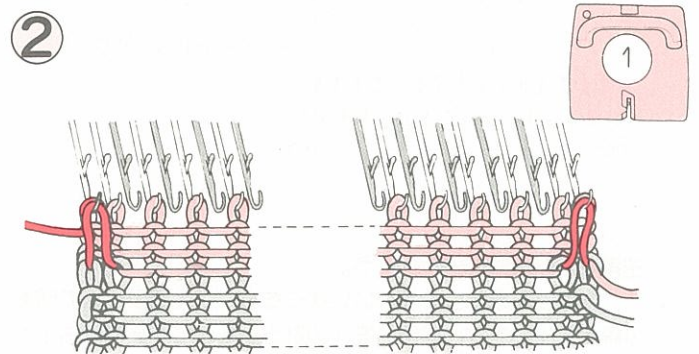


ボタン位置まで7段編みます。

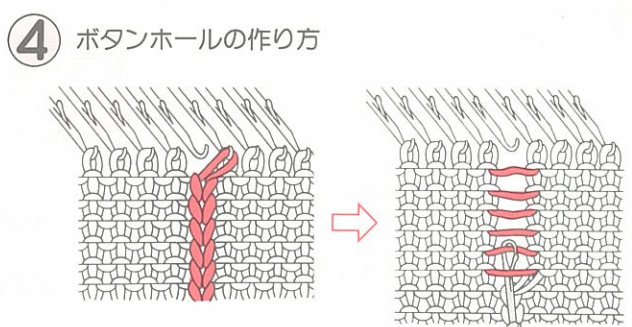


1本おきにタップで目直しをします。
目直しが終わったら捨て編ではずしましょう。

糸端は編幅の3倍残します

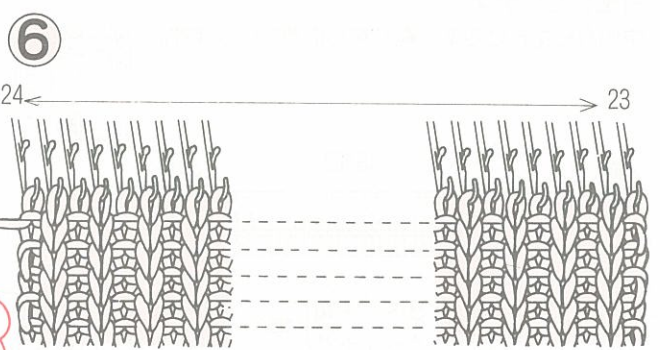


地糸に替えて3段編みます。
両端の2目の間のシンカーループを両端目に重ね目します。A位置にもどした編針をB位置に出してください。



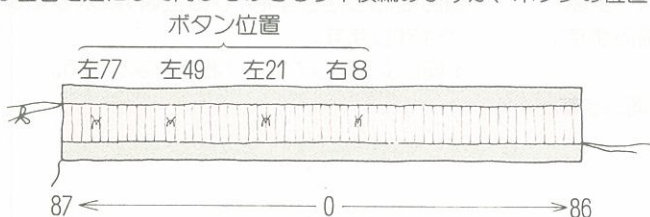
ボタンホールをあける位置の編目をタップで目直しして、となりの編針に移します。

続けて7段編んで目直しをします。



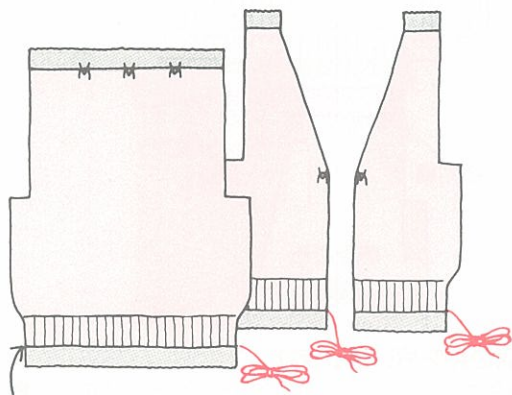
えりの目数47目のものを1枚、1目ゴム編で編みます。

※前立ての下前は左右を逆にして同じものをもう1枚編みますが、ボタンの位置に糸じるしをつけるだけにします。

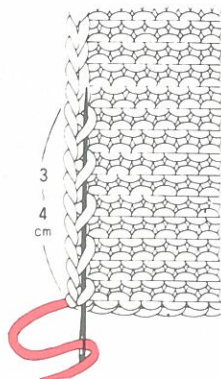


5 アイロンをかけます

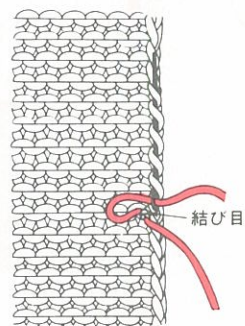
アイロンをかける前に編み始めの捨て編をはずし、糸の始末をしましょう



この編目を切って引き抜くと、捨て編がはずれます。
(56ページ参照)



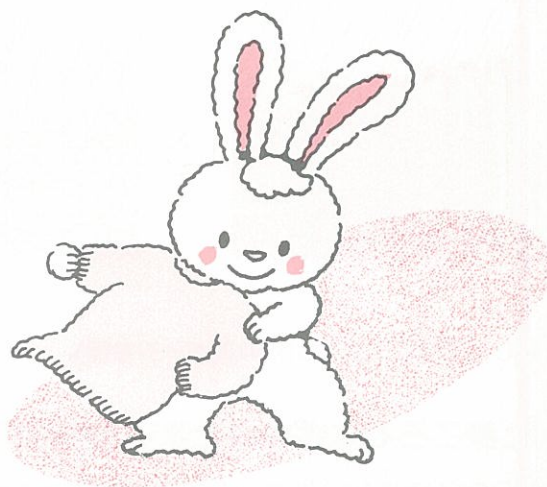
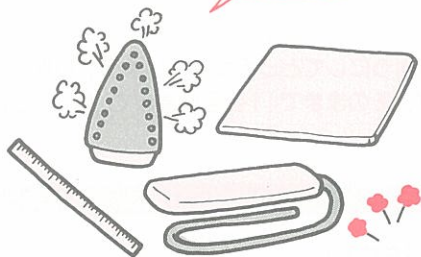
編目の半目に通して残りの糸は切ります。



編途中の結び糸は上下に分けて半目に通します。

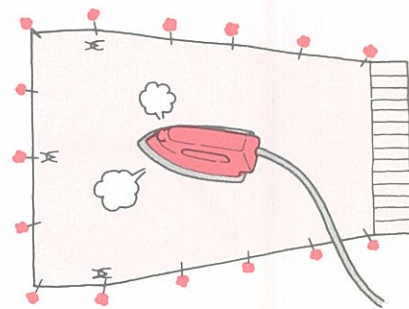
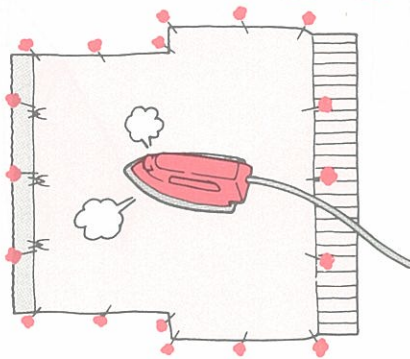
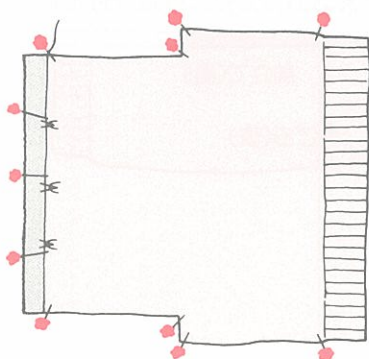
仕上げ前のアイロンをかけます

スチームアイロン、アイロンうま、アイロンマット、ピン、ものさしを用意しましょう



編地を裏にしてアイロンマットにのせ各部分の寸法を確かめて、糸じりし的位置と角々にピンを打ちます

つぎにピンを10~15cm間隔で打ち、全体にむらなく蒸気を当てて整えましょう

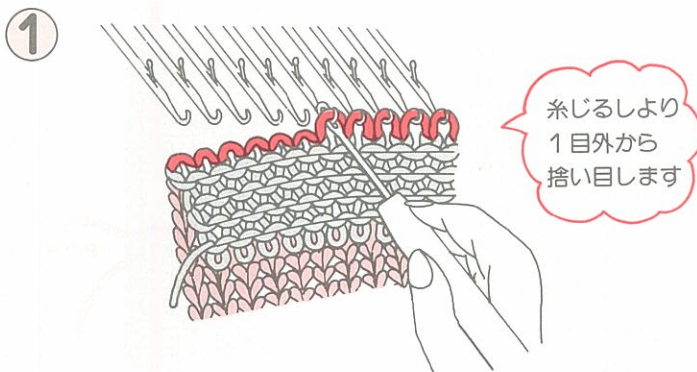


ゴム編部分はピンでとめずに蒸気を当てます

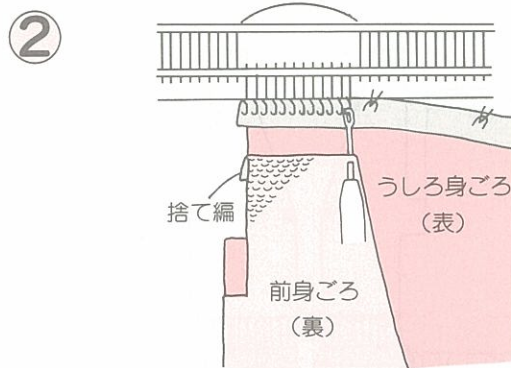
裏側がおわったら表側にも軽く蒸気を当てます

6 肩をはぎ合わせます

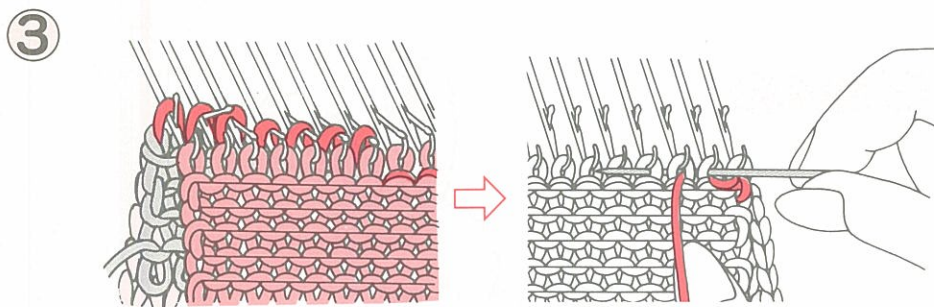
方法は1のプルオーバーと同じです。(22ページ参照)



うしろ身ごろの肩の目を拾い目します。
うしろ身ごろの表側を手前にして、左肩の目35目を拾います。
糸じるしの間は36目ありますが1目少く拾い、編針をD位置に出します。



前身ごろの肩の目を拾い目します。
前身ごろの裏側を手前にして、左肩の目をうしろ左肩の目に重ね目します。このときペラを越さないように注意しましょう。

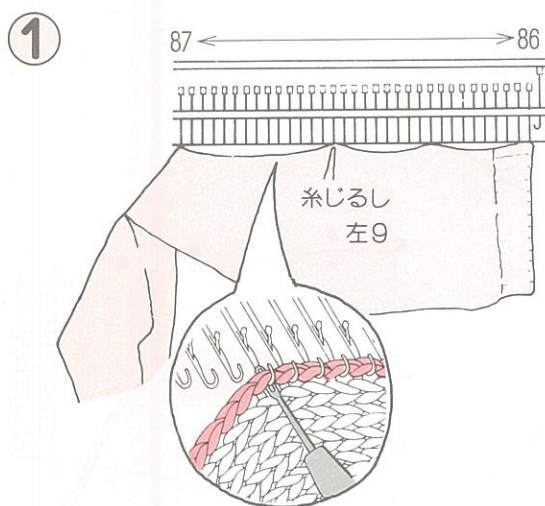


編目をペラ越して巻き止めをします(22ページ参照)。

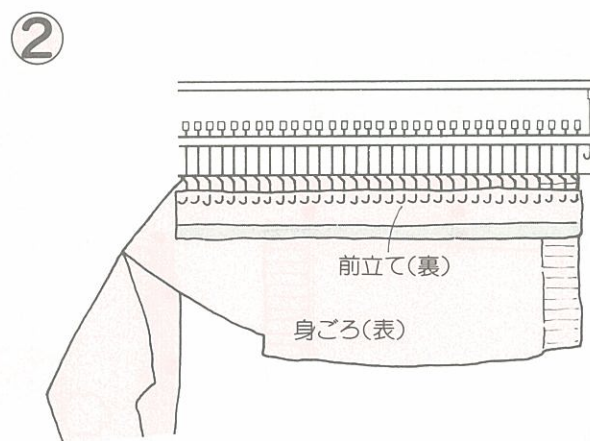
※右肩も同じようにしてとじ合わせましょう。右肩は1目多くなりますが、そのまま(1目多いままで)拾い目します。

7 前立てと身ごろをはぎ合わせます

身ごろからの編目の拾い方は1のプルオーバーのそてつけの方法と同じです。(23ページを参照)

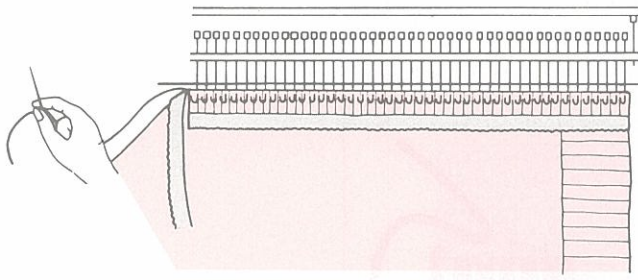


右前身ごろの前端の目を拾い目します。
前立ての目数173目をB位置に。編地の表側を手前にして端の1目をウツシで均等に拾いましょう。拾いおったら編針をD位置に出します。



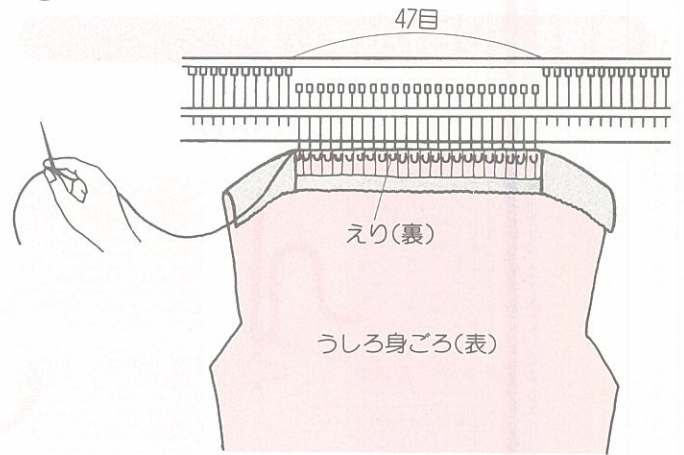
上前立てのゴム編の編み終わりの目を拾い目します。
ボタンホールのある前立ての裏側を手前において中表にし、編目を拾います。このときペラを越さないように注意しましょう。

③



編目をベラ越しして巻き止めをします。
 ※左前身ごろも同じようにはぎ合わせましょう。

④

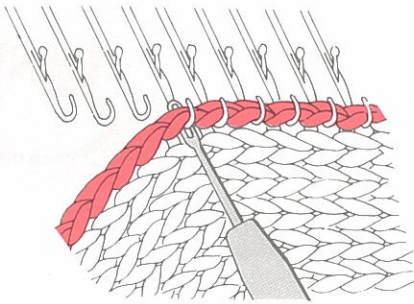


うしろ身ごろにえりをつけます。
 同様に、うしろ身ごろとえりを
 中表に合わせて編機にかけ、
 巻き止めをせずします。

8 身ごろにそでをつけます

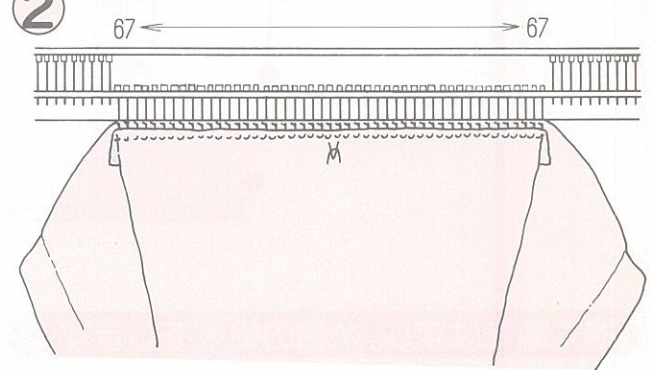
方法は1のプルオーバーと同じです。(23ページを参照)

①



身ごろのそでつけ部分134目を均等に拾い目し、そでを
 中表に合わせて重ね目します。

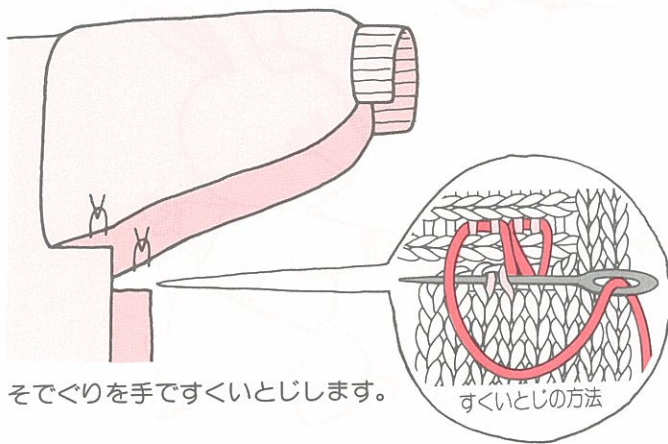
②



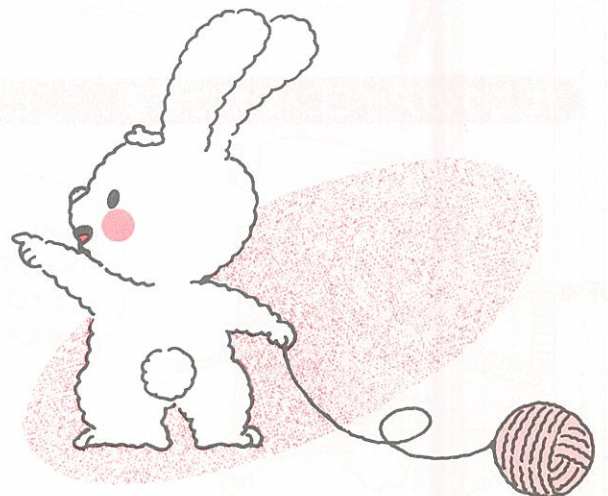
編目をベラ越しして巻き止めをします。

※もう片方も同じようにしてつけましょう。

③



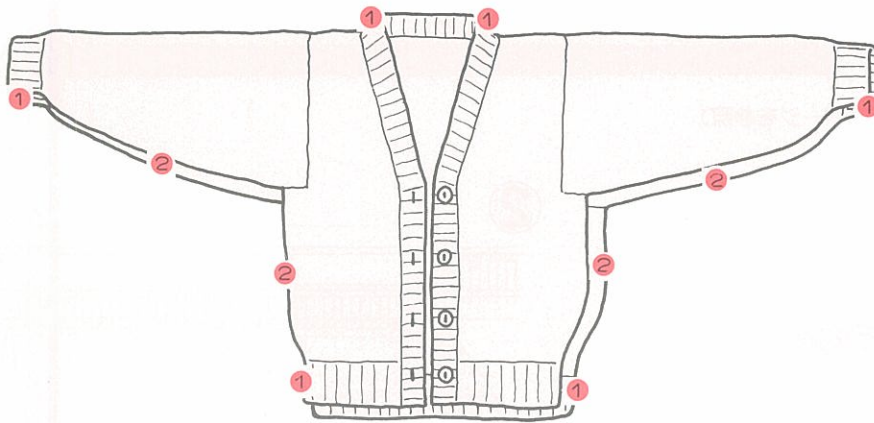
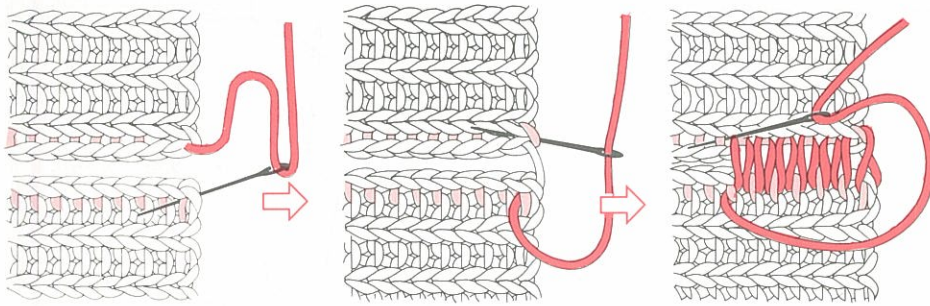
そでぐりを手ですくいとしします。



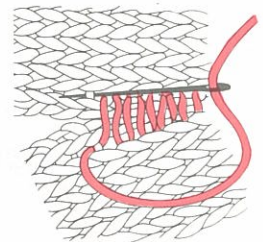
9 仕上げをします

各部をとじ合わせましょう

① ゴム編たけのすくいとし

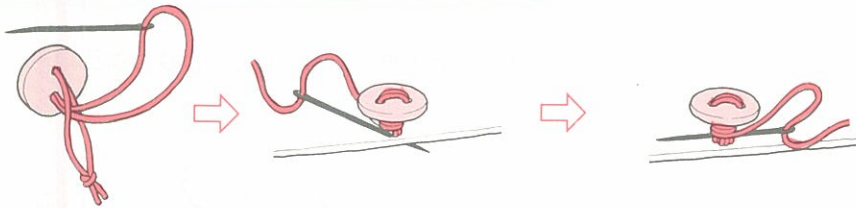


② わき、そで下のすくいとし

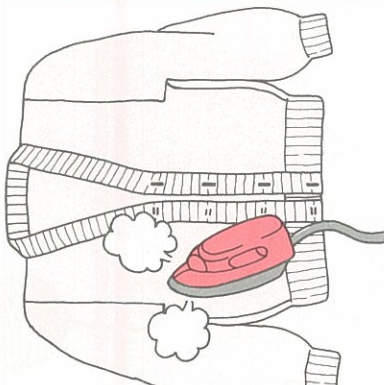


捨て編をはずし、糸端の始末をします

ボタンをつけます



仕上げのアイロンをかけます



裏返しにして
それぞれのとじた部分を
アイロンの先で
整えます



① 裏返し、全体にスチームをかるく当てます。

② とじ位置をずらしながらアイロンじわをつけないように整えます。

③ 表に返して形を整え、出来上がり。

3

サマーセーター(9mm用クシバを使います)

●材料

編糸(ダイヤ毛糸 ティーン).....地糸240g
 配色糸160g
 捨て編用の糸(56ページ参照).....残り糸少々

●出来上がり寸法

身幅.....52cm
 着たけ.....52cm

●編ゲージ

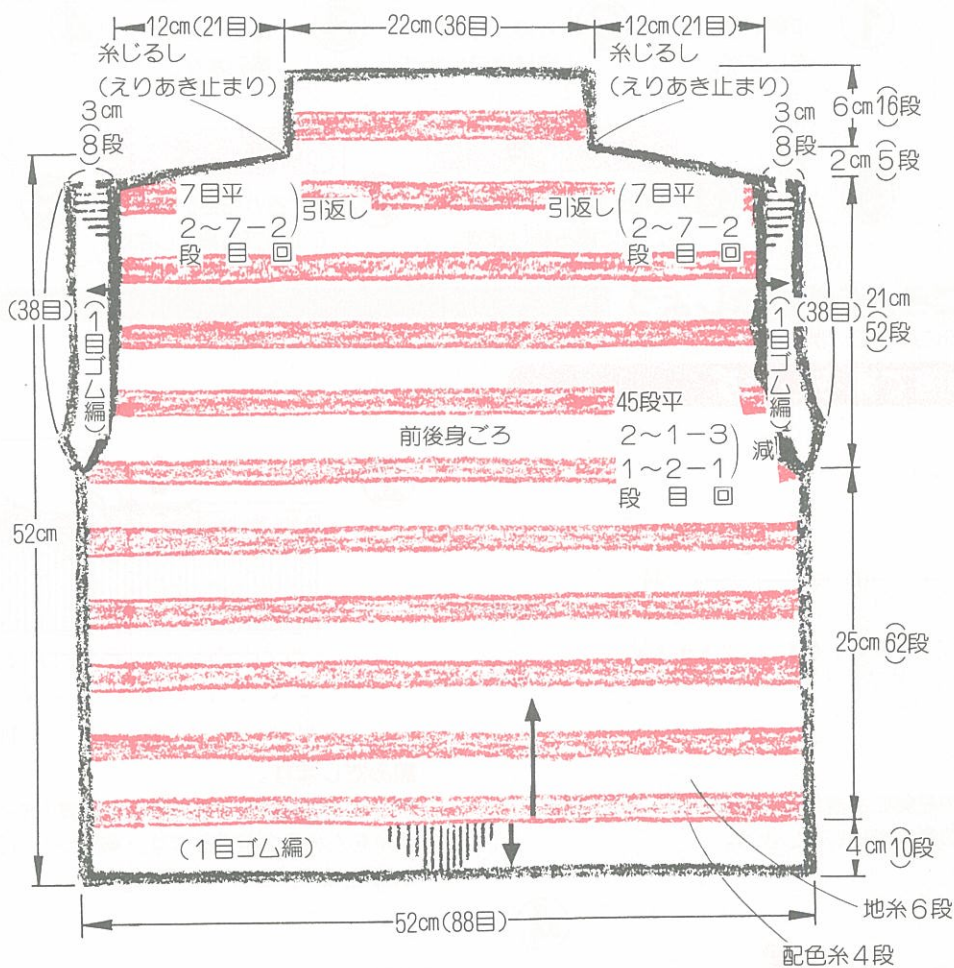
(ひらあみ)



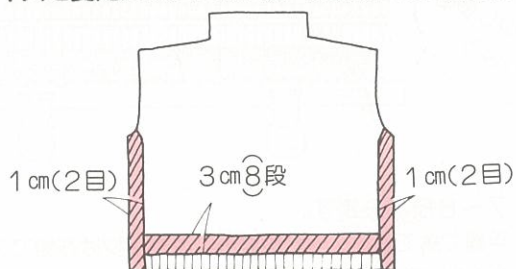
10cmあたり (17目
25段)



※この編ゲージは練習用の参考ゲージです。
 ※ピッタリサイズにしたいときは、編ゲージを作ってから編みましょう。
 ※素材や模様編を変えるときは、編ゲージをとり直してください。
 (編ゲージのとり方は11ページを参考に。)

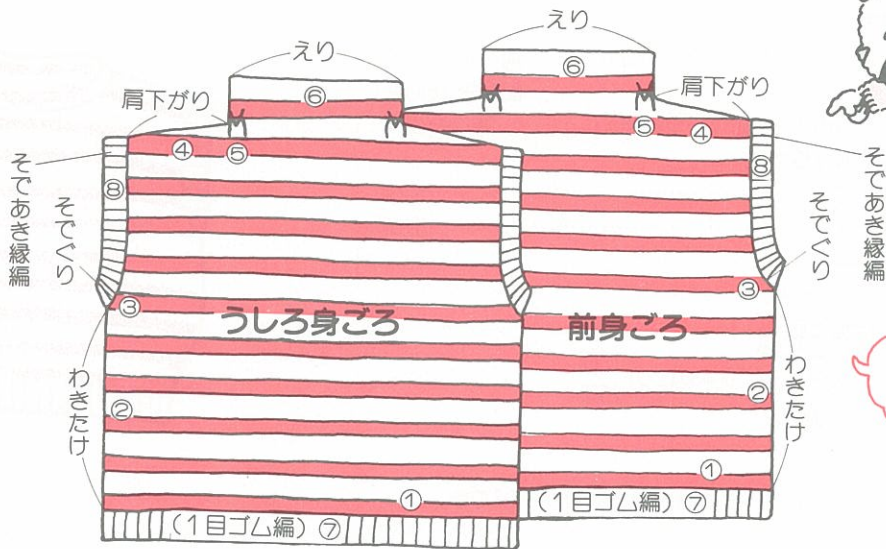


●サイズを変えたいときの目数・段数の出し方(身幅を2cm大きく、着たけを3cm長くする場合)



1cmあたりの目数・段数を計算します。
 $17目 \div 10cm = 1.7目$ (1cmあたりの目数)
 $25段 \div 10cm = 2.5段$ (1cmあたりの段数)
 この数字を希望の寸法に置きかえます。
 $1.7目 \times 2cm = 3.4目$
 $2.5段 \times 3cm = 8段$
 目数は4目、段数は8段増やせば希望のサイズに仕上がります。

■ すすめ方は次のとおりです



糸じるし(M)を
忘れないように

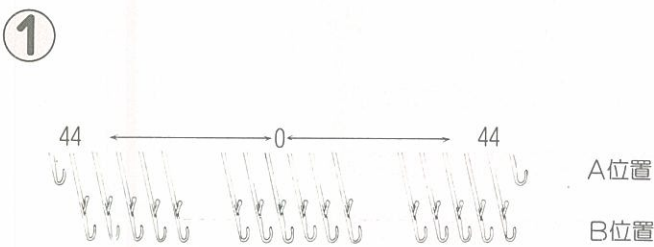
番号は編む順序を表します。番号にそって編みましょう。

- | | | | | |
|------------|-----------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 身ごろ
編み方 | ① 編み始め
平編で捨て編をします。 | ② わきだけ
4段、6段毎の縞模様になります。 | ③ そでぐり
減らし目で編みます。 | ④ 肩下がり
引返し編です。 |
| | ⑤ 糸じるし | ⑥ えり
針出し増し目をして身ごろに編み続けます。 | ⑦ すそ
身ごろから拾い目をして1目ゴム編にします。 | ⑧ そであき縁編
肩をはいでから1目ゴム編にします。 |

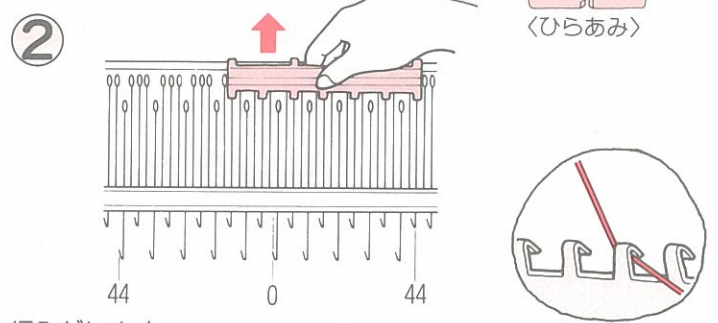
1 うしろ身ごろから始めましょう

※ 9mm用クシバになっています。

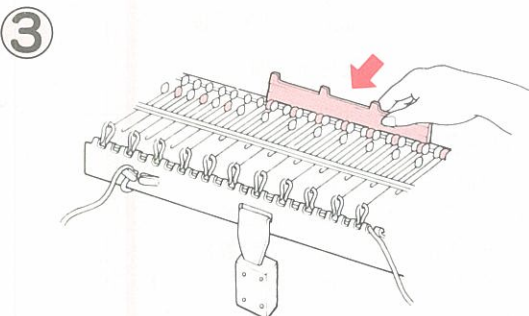
編み始めの捨て編をします



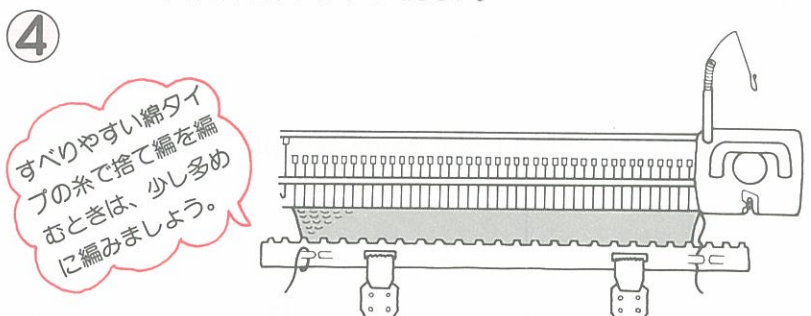
針出しをします。
キャリジをミソ板の左側におきます。模様板の1/4側を使って、中心から左右44本の編針を出しましょう。



編みだします。
針出した編針を1本おきにA位置にもどします。
別糸を入れて1段編みます。編出しとカラーウェイトをかけ、糸端を糸カケにかけてください。



1本おきにもどしたA位置のカラ針をB位置に出します。

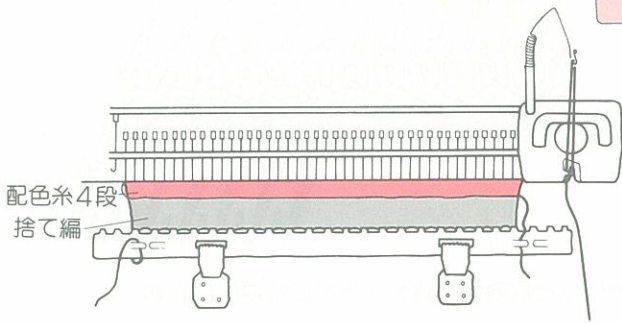


すべりやすい綿タイプの糸で捨て編を編むときは、少し多めに編みましょう。

7~8段編みます。
平編で捨て編を7~8段編み、キャリジは右側でストップ。別糸を切ります。

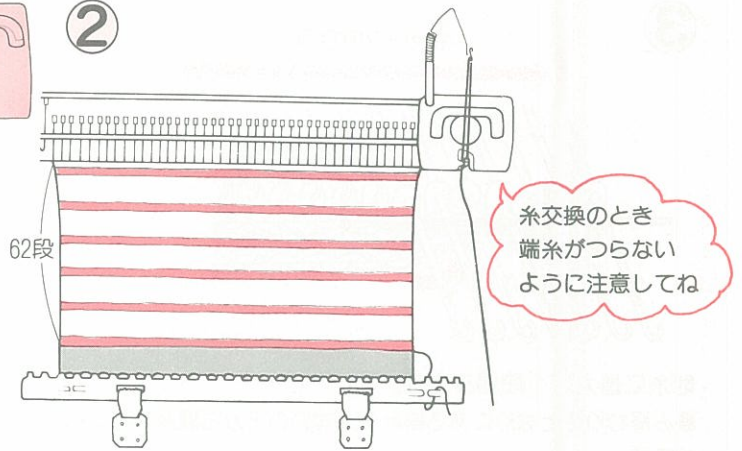
脇だけを編みます

①



段数計を **000** にセット。配色糸で4段編みます。

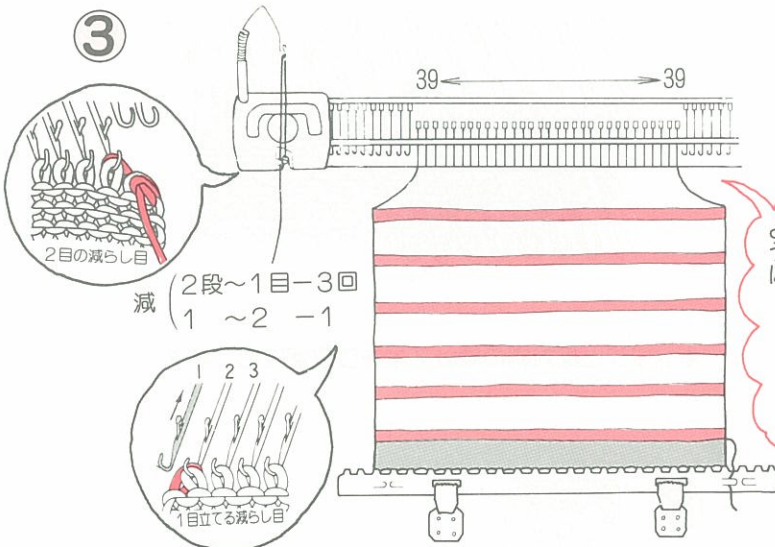
②



地糸に替えて6段編みます。

配色糸4段、地糸6段というふうに編糸を替えながらそでぐり(62段)まで編みます。

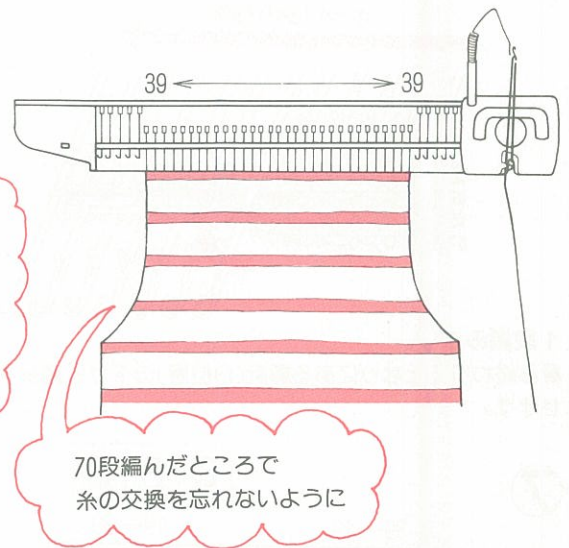
③



そでぐりの減らし目をします。

2目の減らし目はキャリジ側で減らし、1目の減らし目は1目立てる減らし目にします。(50ページ参照)

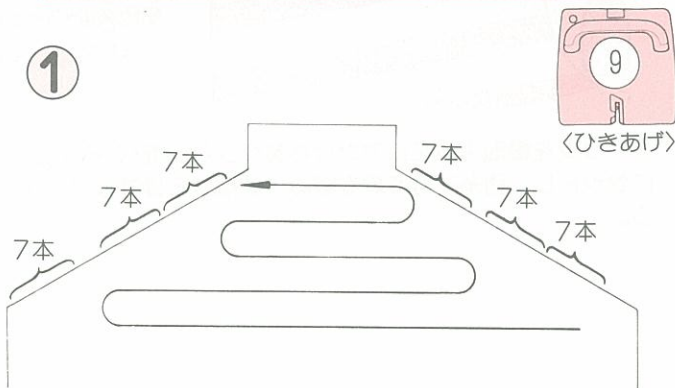
④



このあと、そでつけたけを45段まっすぐに編みます。段数計は114段になっています。

肩下りの引返し編をします

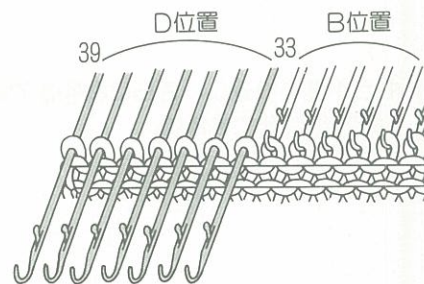
①



肩下りはキャリジのひきあげレバーを(ひきあげ)にして引返し編をします。

(52ページ参照)

②

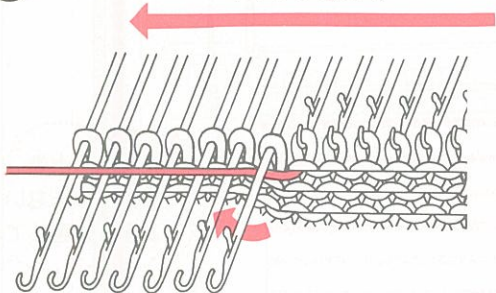


段数計を **000** にセット。

キャリジと反対側の編針7本をD位置に出しましょう。

③

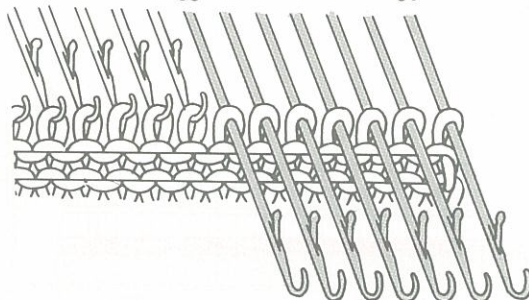
キャラジの方向



地糸に替えて1段編みます。
編み終わりのとなりにある編針(D位置)の下から編糸をくぐら
せます。

④

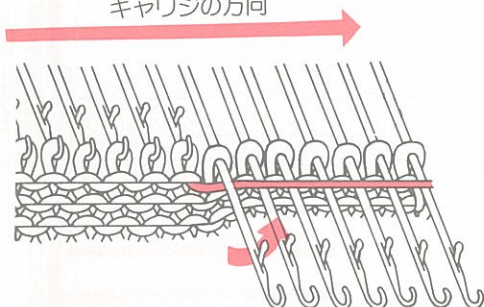
33 ← → 39



キャラジと反対側の編針7本をD位置に出しましょう。

⑤

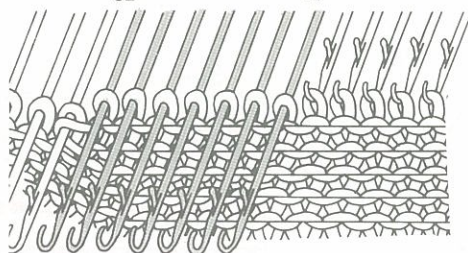
キャラジの方向



1段編みます。
編み終わりのとなりにある編針(D位置)の下から編糸をくぐら
せます。

⑥

32 ← → 26



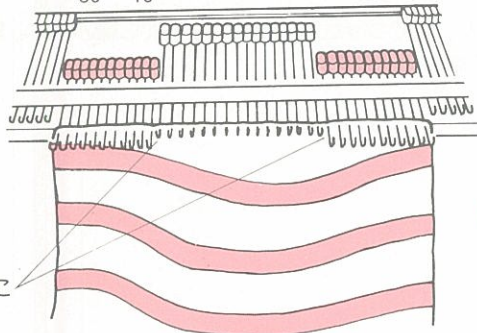
キャラジと反対側の編針7本をD位置に出します。

⑦

0 0 5

39 ← → 19

19 ← → 39



糸じるしは
左右18目めに
つけます

⑧



〈ひらあみ〉

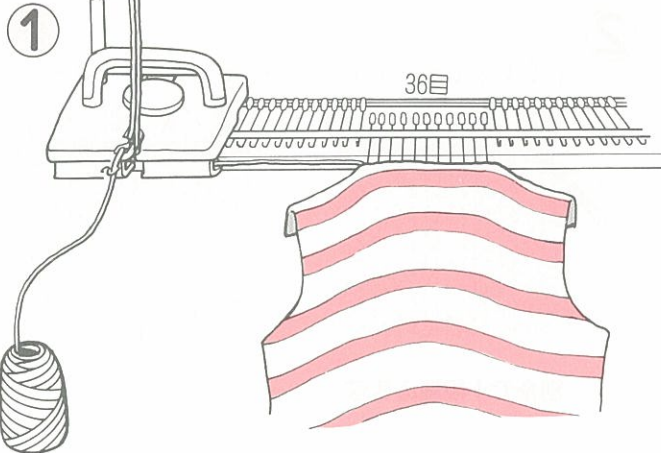
糸端は切らない
で続いてえりを
編みます。

配色糸は10cmくら
い残して切ります。

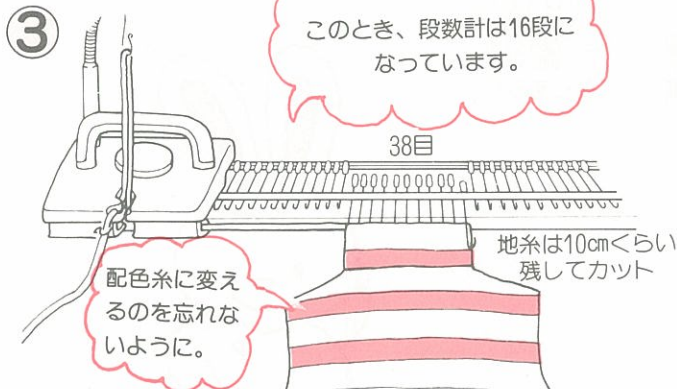
③～⑥の順でもう1度くり返し、さらに③④まで編みます。
肩下りの編目はD位置に出てきます。

キャラジを編地より左におきひきあげレバーを〈ひらあみ〉
にセットし、別糸で捨て編を編み、編機からはずしましよ
う。

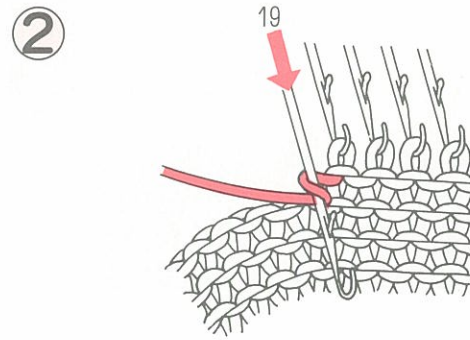
えりを編みます



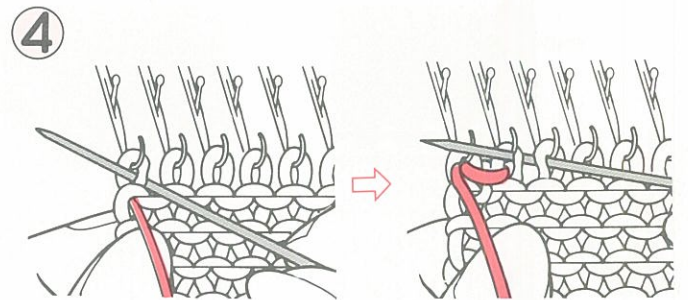
身ごろからえりの目数36目を拾い目します。
編地の裏側を手前にして捨て編を向こう側へ折り、糸じろしの間
の地糸の目を編針にかけます。
段数計は **000** にセットしましょう。



右端の編針(キャリジ側)を1本D位置に出します。
巻き目をして配色糸に替えてから4段編み、次に地糸で6段編
み、さらに配色糸で5段編みます。

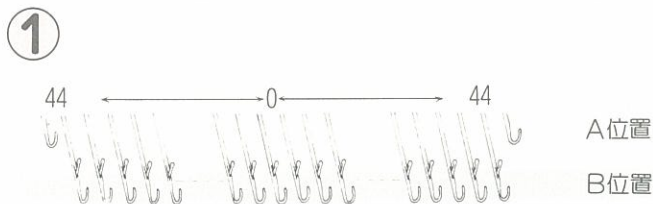


左端の編針(キャリジ側)を1本、とじしろ分としてD位置に
出します。
巻き目をして地糸で1段編みます。

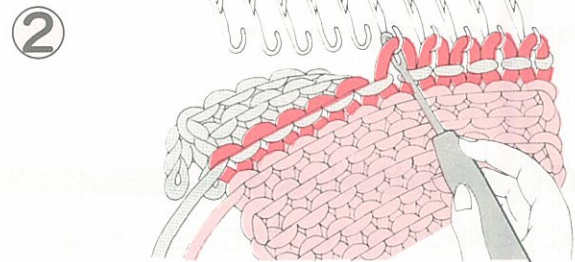
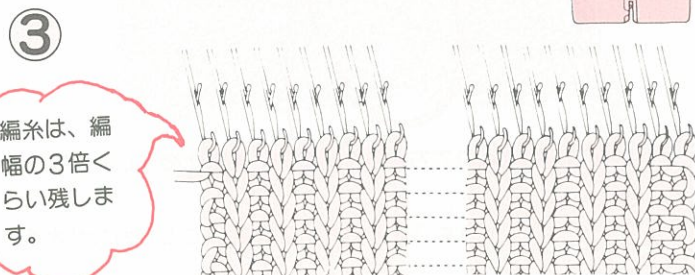


編糸を編幅の3倍くらいにカット。
とじ針に通して、巻き止めをします。(58ページ参照)

身ごろすそゴム編だけを編みます



身ごろすそ幅の目数に合わせ、88本の編針をB位置に出
します。

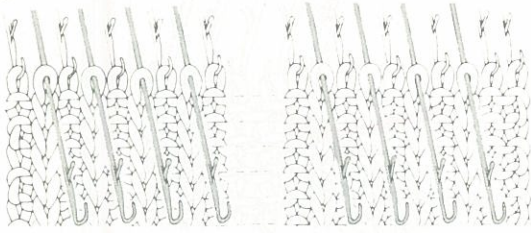


身ごろの裏側を手前にして配色糸の1段めにある目を編針
にかけましょう。
編み始めの編糸のない側で、端の半目も拾います。

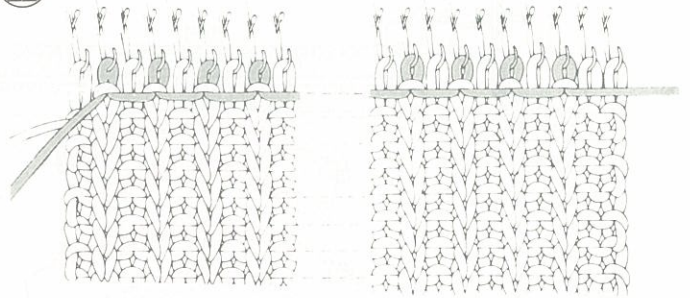
キャリジをミソ板の左側に置き、地糸でゴム編だけ10段を
編みましょう。
右から3本目より1本おきに目直しします。

ゴム編の捨て編をします

①



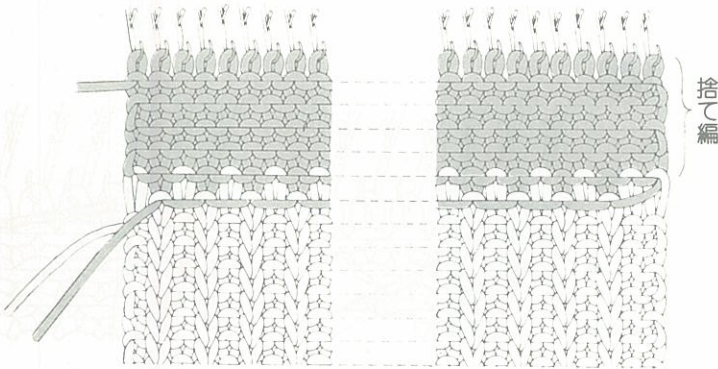
②



目直した編針をD位置に出します。
すべりレバーをくすべりに、編目ダイヤルをく9にセットしてください。

別糸で1段編みます。

③



すべりレバーをくひらあみにセット。
続けて9段編んで編機からはずします。

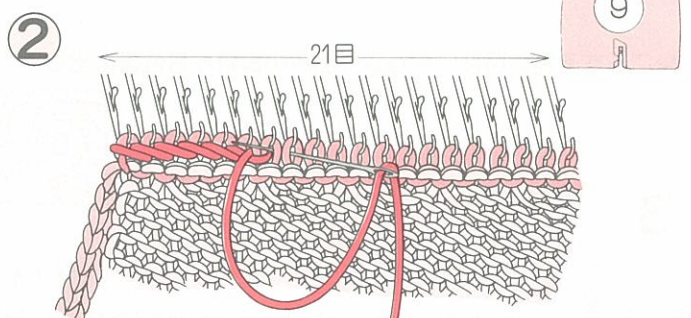
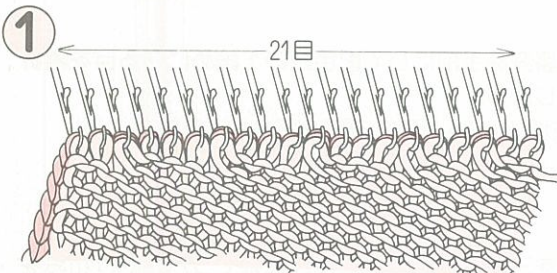


2 前身ごろを編みます

うしろ身ごろの要領で編みあげましょう。

3 肩のはぎ合わせをします

うしろ身ごろと前身ごろを中表にして編目を拾います。編目の拾い方は1のプルオーバーと同じです。

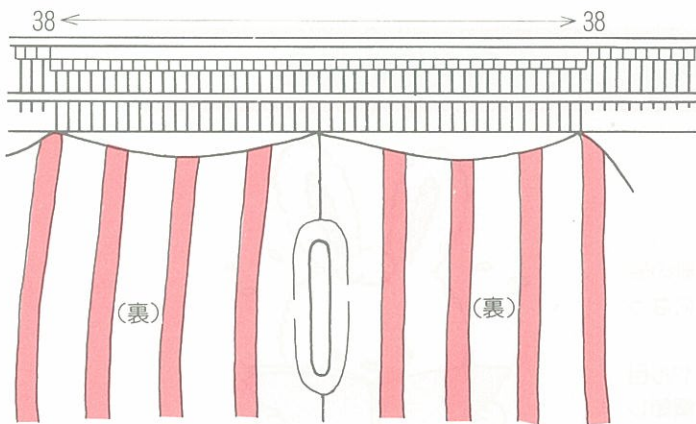


片側の肩を中表にして、編針にかけます。

地糸を糸口に入れて右から1段編み、巻き止めをしてはずします。

※もう片方も同じようにしてとじ合わせます。

4 そであき縁編を編みます

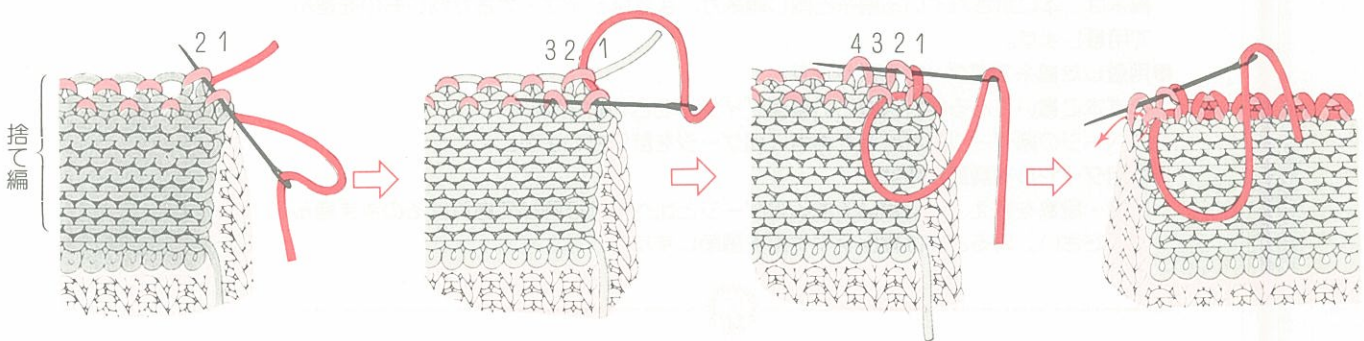


そであきの目数に合わせて76本の編針をB位置に出します。
 両端と中心の編目を拾ったら、左右のカーブを平均的に拾い目します。拾い方は1のプルオーバーのそでつけと同じです。(23ページ参照) 編目ダイヤルをく6にセットし、地糸でそであき縁編8段を編み、1目ゴム編に目直しします。

編み終わったら身ごろすそゴム編と同じように捨て編をしてはしめます。

5 1目ゴム編止めをします

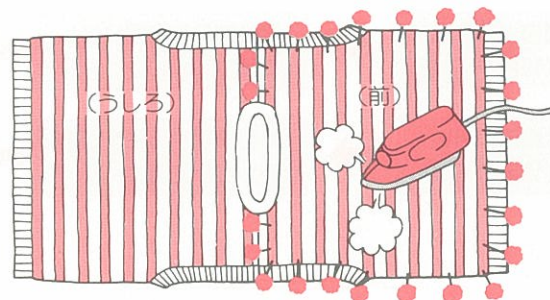
身ごろすそゴム編とそであき縁編を1目ゴム編止めをします。(55ページ参照)



6 仕上げです

- ① 編糸の始末をしてアイロンをかけます。
- ② わきだけ、えりだけ、そであき縁編をすくいとじして出来上がりです。

※うしろ身ごろをかけおわってから、前身ごろにもピンをうち、アイロンをかけましょう。



ゴム編部分はスチームをあてるだけにします。

えりは、自然にくるくると巻くようにします。

市販のあみものの本を参考にして作品を編む場合

この編機で平編を編む場合、**編目ダイヤルの目盛=棒針の号数**なので編目は、棒針で平編を編んだときとほぼ同じになっています。

編み始める前に、本に書いてある使用編糸で編目ダイヤル目盛を棒針号数に合わせてためし編をし、下記の順序で調節してください。



● 編糸の選び方

編糸は、本に示されている編糸と同じ編糸か、またはタイプ・太さが同じものを選んで用意します。

● 用意した編糸で編ゲージを計ります

まず本に書いてある棒針号数に、編目ダイヤルを合わせます。11ページの編ゲージの計り方を参考に編ゲージを計りましょう。

● 編目ダイヤルを調節します

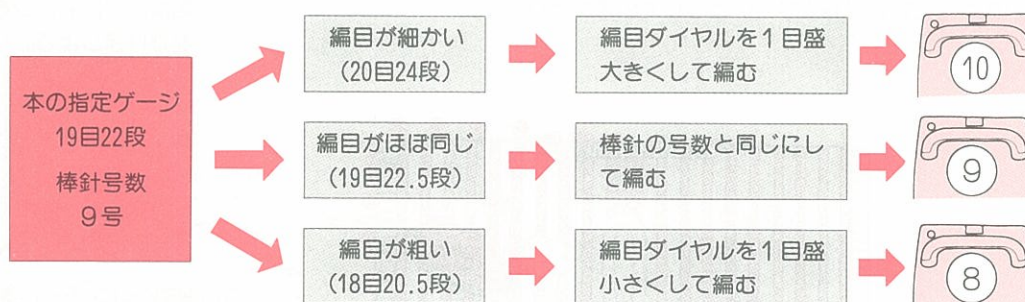
目数・段数を数え、本に書いてある編ゲージと比べてほぼ同じであればそのまま編んでください。異なる場合は編目ダイヤルを調節します。

例

本に書かれているゲージが19目・22段で使用棒針が9号の場合

編目ダイヤルは、使用棒針と同じ〈9〉に合わせます。

本に書いてある編糸と同じ編糸・編み方で編ゲージをとります。



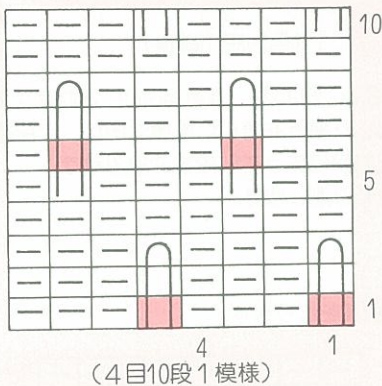


模様編の編み方

編目記号図は
巻末にあります。

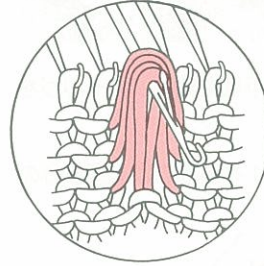
1 引上げ模様

ここでは極太毛糸で練習します。1/4の模様板を使い、〈3目おきに3段引き上げる〉引上げ模様を編んでみましょう。



編目ダイヤル〈9〉で数段平編を編み、キャリジを右に置きます。

1. 1/4の模様板で編目記号図に従って左1を基準にして■部分の編針をD位置に出します。



2. ひきあげレバーを左右とも〈ひきあげ〉にして3段編みます。

左の図はD位置の針に編糸が引き上がっている状態です。

3. ひきあげレバー右を〈ひらあみ〉にして2段編みます。

4. 6段めの■部分の編針をD位置に出します。

5. ひきあげレバー左右とも〈ひきあげ〉にして3段編みます。

6. ひきあげレバー左を〈ひらあみ〉にして2段編みます。

1~6をくり返します。

※引上げ模様をする場合は編地が浮きやすいので、編地の両端にカラーウェイトをかけてください。

編地の端目の編針がD位置に出たときはB位置にもどします。

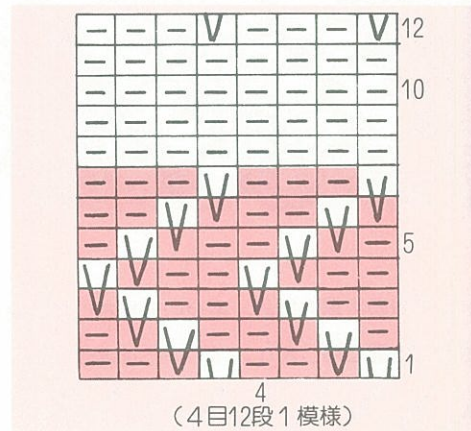
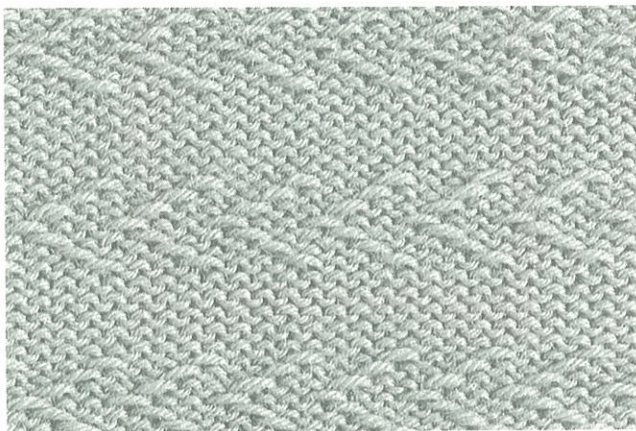
引上げ段数のめやす

3目おき・7目おき	3段
1目おき	2段

※引上げ編は平編より編目ダイヤルを少し大きくして編むことがポイントです。

2 すべり目模様

ここでは極太毛糸で練習します。指で編針をC位置へ出し、〈3目おいて1目すべる〉をジグザグに移動させた模様を編んでみましょう。



編目ダイヤル〈9〉で数段平編を編み、キャリジを右に置きます。

1. 指で編目記号図に従って左1を基準にして■部分の編針をC位置に出します。

2. すべりレバーを左右とも〈すべり〉にして1段編みます。

3. 2段めの■部分の編針をC位置に出し、1段編みます。

4. 3の要領で7段までくり返して編みます。

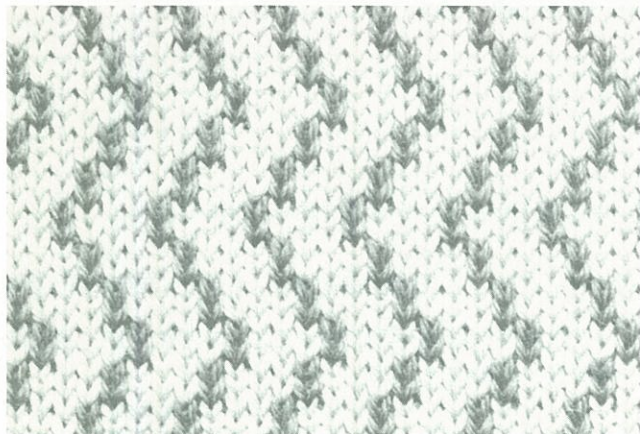
5. すべりレバーを左右とも〈ひらあみ〉にして12段まで編みます。

1~5をくり返しましょう。

※編地の端目の編針がB位置に残ったときはC位置に出してください。横に5目以上のすべり目模様は糸のわたりが多いため、でさけてください。

3 配色すべり目模様(編込み)

ここでは極太毛糸で練習します。2色の編糸を使い、2段ごとに入れ替えながら編む模様です。



編目ダイヤル<9>で地糸を使って数段平編を編み、キャリジを右に置きます。

1. 1/2の模様板で編目記号図に従って左1を基準にして□部分の編針をC位置に出します。



2. すべりレバーを左右とも<すべり>にし、□(地糸)をはずして、□(配色糸)に入れ替えて、まず1段編みます。

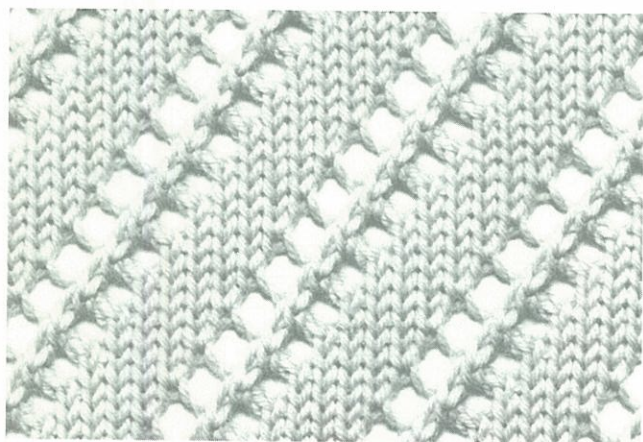
3. 1で出した編針を再びC位置に出し、1段編みます。

4. 3段めの□部分の編針を指でC位置に出します。



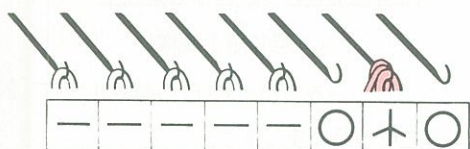
4 レース模様

ここでは極太毛糸で練習します。ウツシを使って編目を移し、穴をあけて模様を作ります。

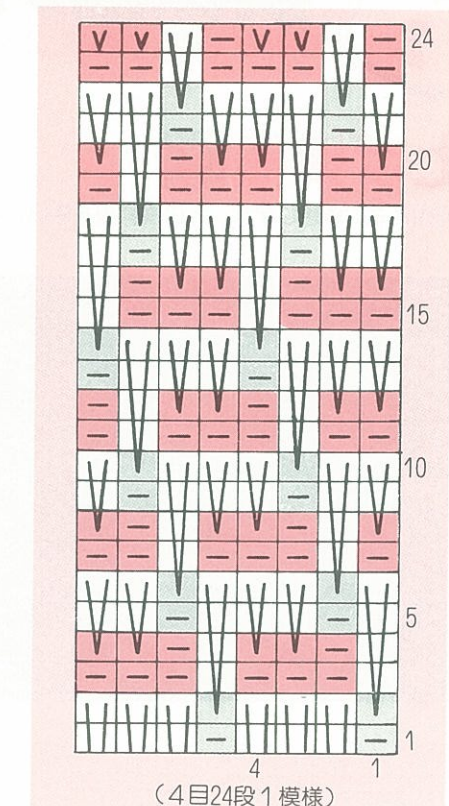


編目ダイヤル<9>で数段平編を編み、キャリジを右に置きます。

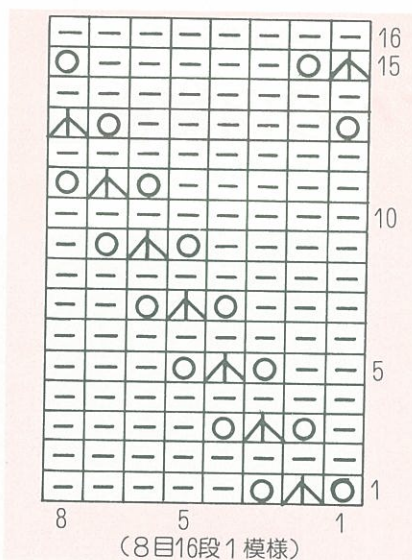
1. ①部分の編目を②位置に移します。(49ページ参照)



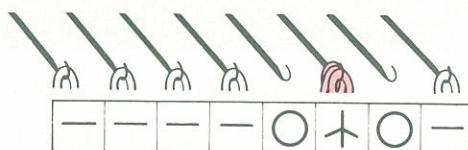
2. 平編で2段編みます。



5. □(配色糸)をはずし、□(地糸)に入れ替えて1段編みます。
6. 4で出した編針を再びC位置に出し、1段編みます。
7. 編目記号図に従って24段まで編みます。
- 1~7をくり返します。



3. ①部分の編目を②位置に移します。



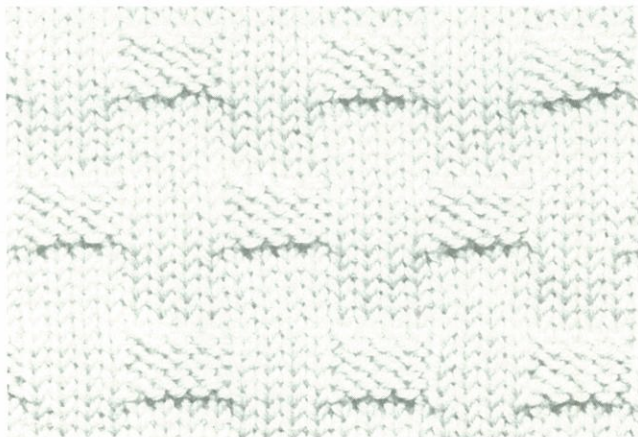
4. 平編で2段編みます。

5. 編目記号図に従って16段まで編みます。

1~5をくり返します。

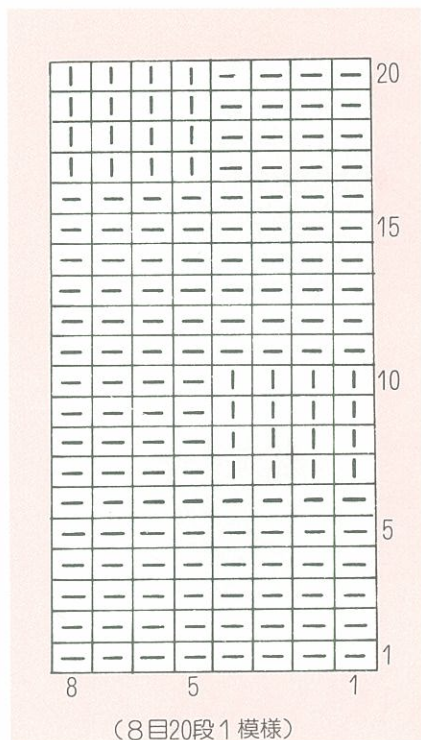
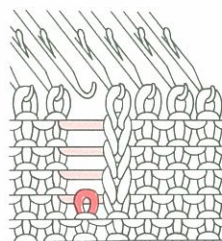
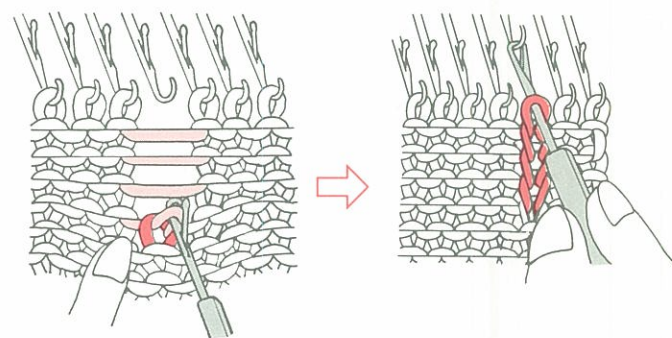
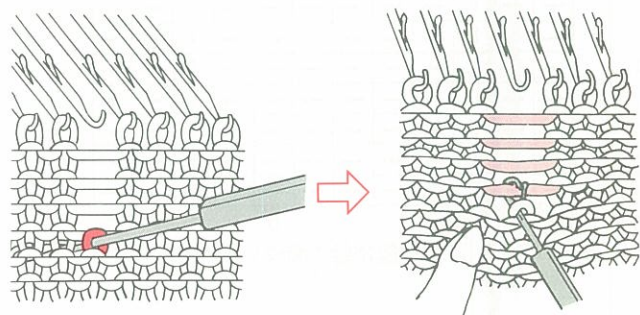
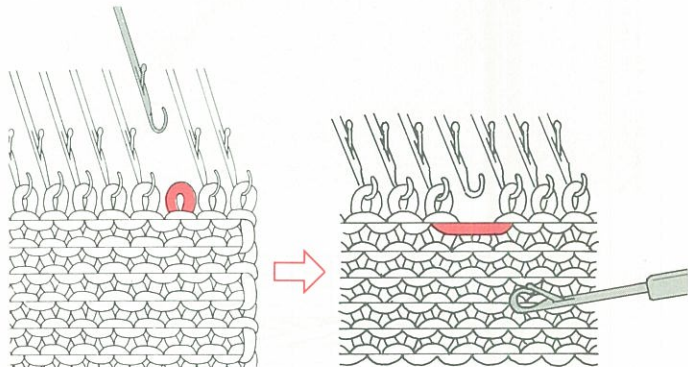
5 地模様

ここでは極太毛糸で練習します。タツピを使って平編の裏目を表目に直し、模様を作ります。



編目ダイヤル(9)で数段平編を編み、キャリジを右に置きます。

1. 平編で10段編みます。
2. タツピで□部分の編目を4目ずつ表目4段に直します。
3. つづいて平編で10段編みます。
4. 2.と同じように4目ずつ表目4段に直します。
- 1~4をくり返します。



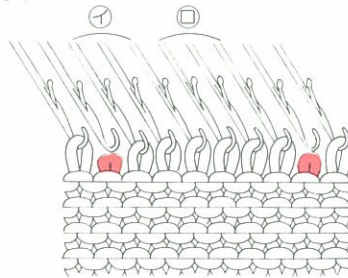
6 なわ編(交差模様)

ここでは極太毛糸で練習します。ウツシの1×3、2×3の3本側を使い、編目を交差させて模様を作ります。

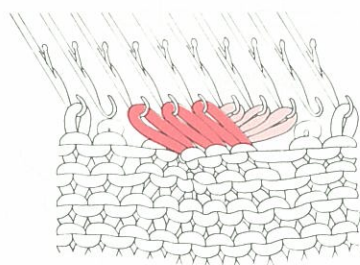
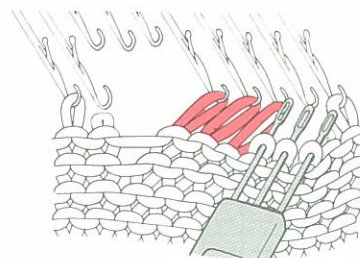
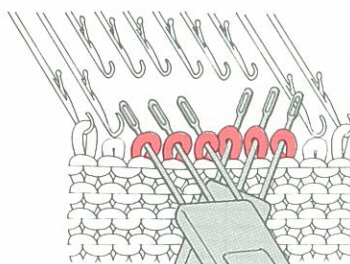


編目ダイヤル(9)で数段平編を編み、キャリジを右に置きます。

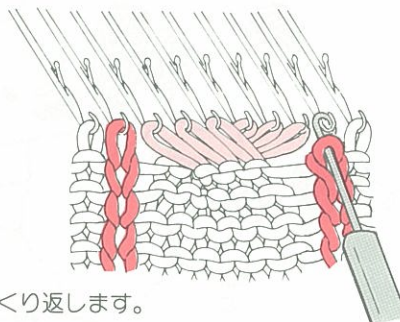
1. 平編で10段編みます。
2. 交差させる編目(㊦㊧)の両隣の編目を1目ずつ編針からはずします。



3. 下図のように編目を交差します。

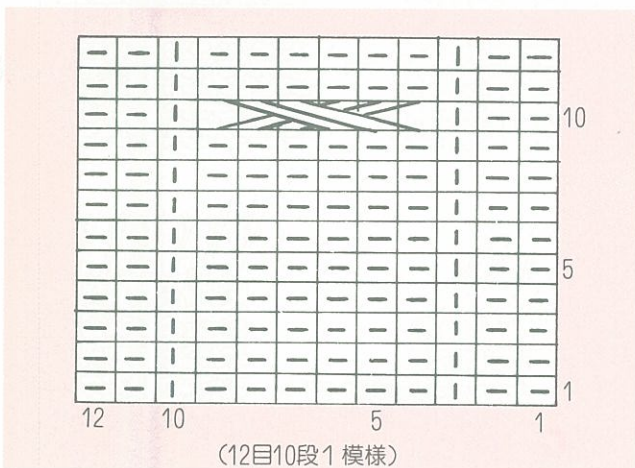


4. タツピを使って交差させた編目の両隣の編目を、10段下から表目に直します。



5. 1~4をくり返します。

※交差させた後に1段編むときは、交差した編針をD位置に出してからキャリジを動かしましょう。

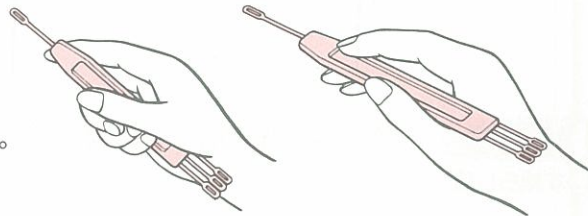




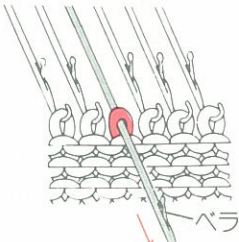
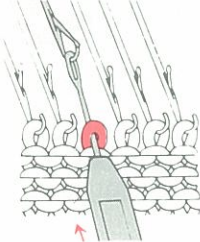
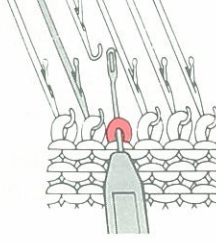
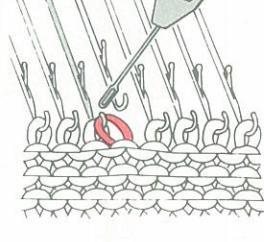
テクニック ア・ラ・カルト

1 ウツシの使い方

●ウツシは増し目、減らし目、移し目などに使います。

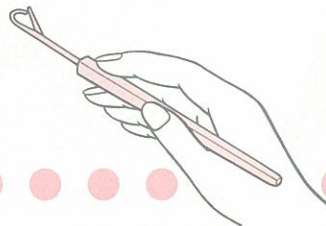


編目の移し方


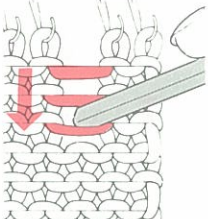
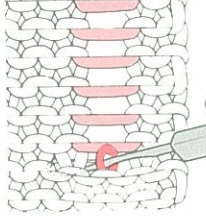
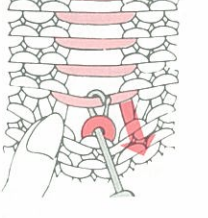
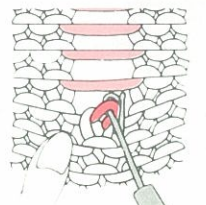
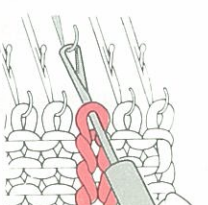
- 1  編針のフックにウツシの穴をかけ、手前に引き出して編目をペラの向こうに移します。
- 2  逆に押しすとペラが閉じ、編目はウツシに移ります。
- 3  フックからウツシの穴をはずします。移したい場所のところに編針のフックにウツシの穴をかけます。
- 4  ウツシの手前側を少し持ち上げて、編目をフックにすべり込ませてからウツシをはずします。

2 タツピの使い方

●タツピはゴム編や、編目が落ちたときなどに使います。

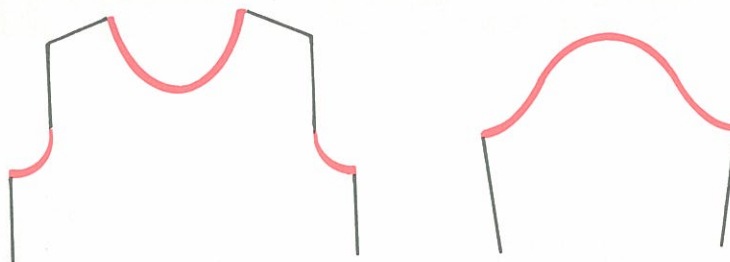


ゴム編の編み方

- 1  まず、表目に直したい編目の編針をD位置に出します。A位置に押しもどすと編目がフックから落ちてきます。
- 2  タツピの柄を使用し、落とした編目のすぐ下を押して編地をほどきます。ゴム編に返そうとしている位置より2~3段上までほどきましょう。
- 3  ゴム編を始める編目にタツピの先を差し込みます。編目に差し込んだタツピを少し強く押し下げれば、ほどき残した2~3段がほどけます。
- 4  編地を左手で下に引っぱって、しっかり持ちます。タツピを編地の向こう側へ押し込み、編目をタツピのペラより越えさせます。はしご状にほどかれた編糸の最下段の編糸をタツピのフックでつかみ、タツピを手前へ引きます。
- 5  タツピを引くことによってタツピでつかんだ編糸は、タツピの上にあった編目をくぐり、新しい表目を作ります。
- 6  4~5の操作を繰り返し、上まで表に返して最後の編目を編針に移します。

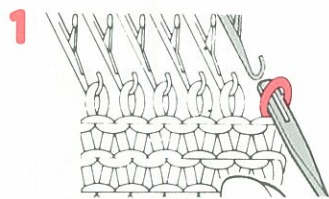
3 編目の減らし方(減らし目)

●ウツシを使います。

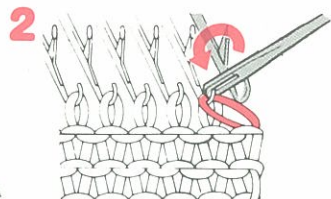


1目減らす場合

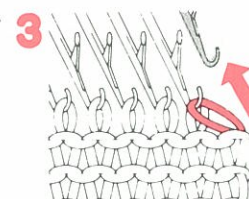
●端で1目減らす減らし目



端目をウツシに取ります。

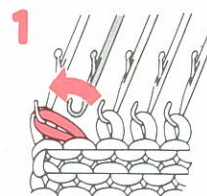


ウツシに取った編目を1目内側の編針に移します。



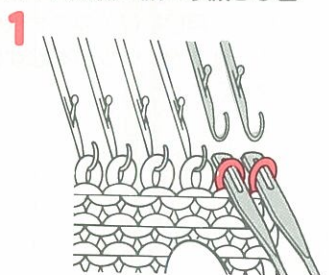
減らし目した編針をA位置に戻します。

●1目立てる減らし目

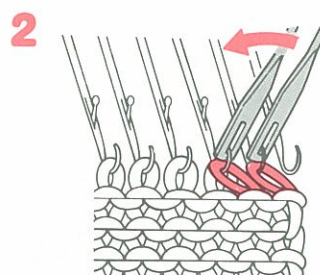


端から2目めの編目を端の編目に重ねます。

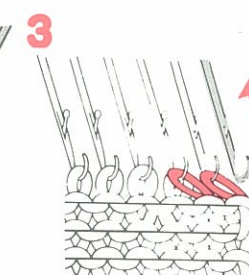
●1目内側で減らす減らし目



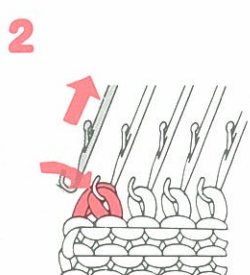
2本針のウツシを使い、端の2目を同時に移しとります。



内側へ1針分ずらして編針に移します。



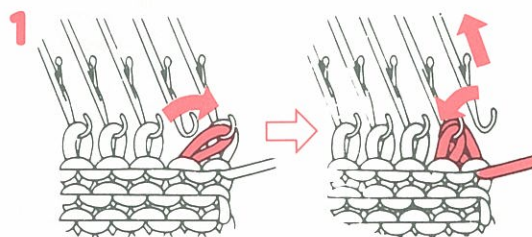
カラ針をA位置にもどします。



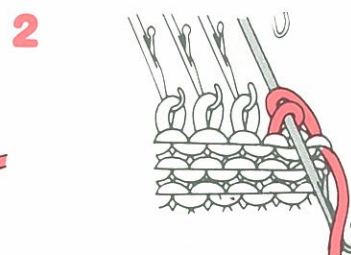
重ねた編目を2本目の編針に一度に移します。

2目以上減らす場合

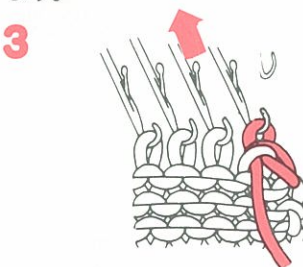
★この方法はキャリジのある側で行います。



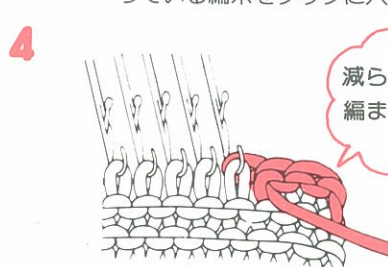
"1目立てる減らし目"の方法で目を移します。



端の編針をD位置に出し、キャリジに渡っている編糸をフックに入れます。



指で編針をB位置に押し戻します。



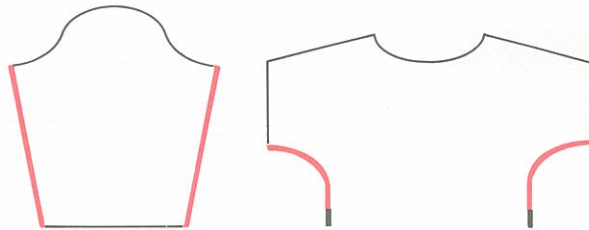
減らし目の終わりは、編まないで2目のままです。

1~3までの操作を繰り返しながら、必要な目数になるまで減らし目を行います。



4 編目の増やし方(増し目)

●ウツシを使います。

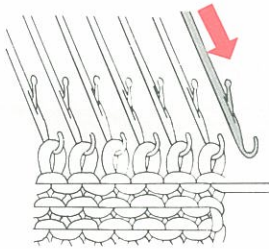


1目増す場合

●編針を1目ずつ出す増し目

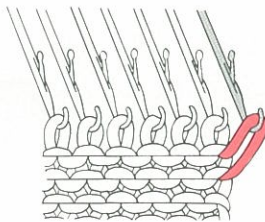
★この方法はキャリジのある側で行います。

1



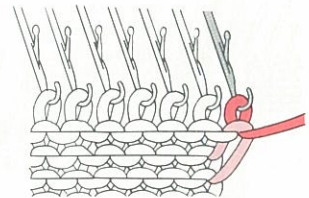
キャリジ側で編針を1本B位置に出します。

2



キャリジを操作して1段編みます。B位置に出した編針に編糸が掛かります。

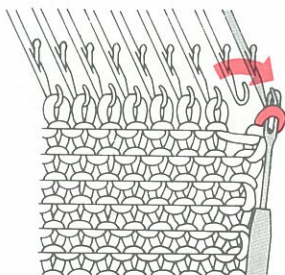
3



キャリジをもう1段操作します。1目の増し目が出来あがります。

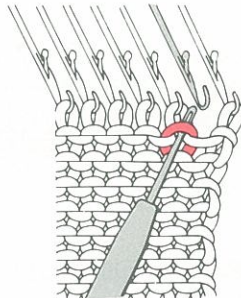
●1目立てる増し目

1



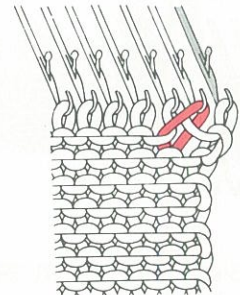
端の1目をウツシに取り、1目外側の編針(増す針)に移します。

2



端から2本目の編針の、1段下の編目をウツシで引き上げ、となりの編針にかけます。

3

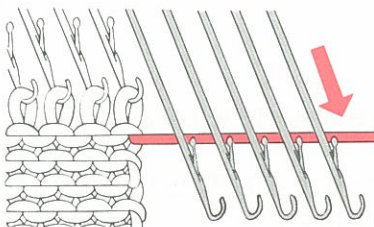


増し目が終わったら、キャリジを操作して編み続けます。

2目以上増す場合

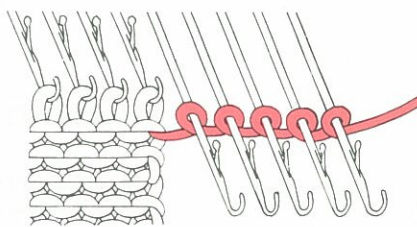
★この方法はキャリジのある側で行います。

1



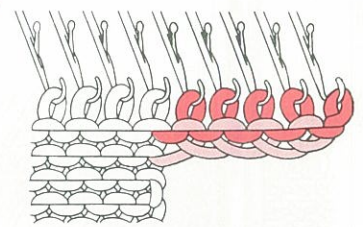
キャリジ側で増し目する編針をD位置に出します。

2



D位置に出した編針に、上図のように巻き目をします。

3



キャリジを操作して1段編みます。
(引上げ模様の場合は、増し目した編針)をC位置に下げてから編みます。

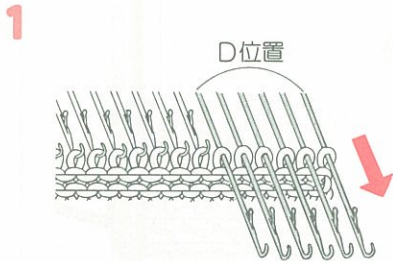
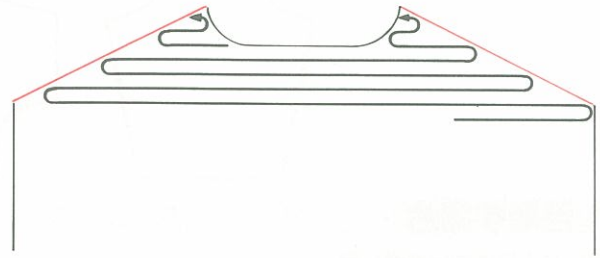
※編針に巻き目をしたあとで編むときは、編糸のたるみをとってから編みましょう。

※3~4段は、増し目した編針をD位置に出しながら編みます。
(引上げ模様の場合はC位置に出します)

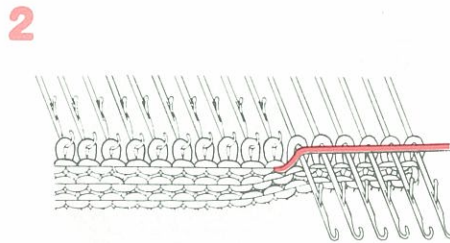
5 引返し編

編む部分を減らしていく場合

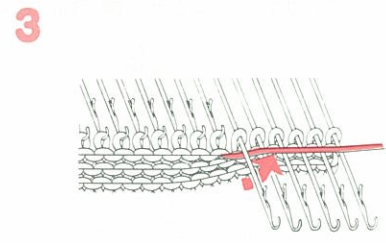
- 肩下がりやターツを編むときに使います。
この例は、肩下がりの場合です。



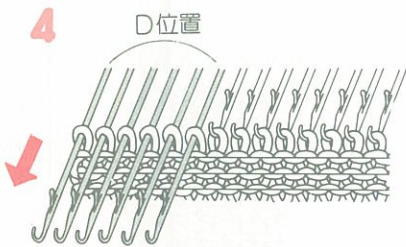
1 キャリジと反対側にある編まない編針をD位置に出します。



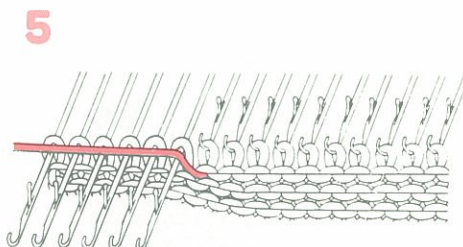
2 ひきあげレバーをくひきあげにして1段編みます。D位置に出した編針の上に編糸が渡ります。



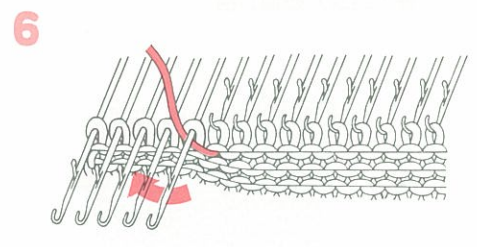
3 編みおわりのとなりのD位置に出してある編針の下へ編糸をくぐらせます。



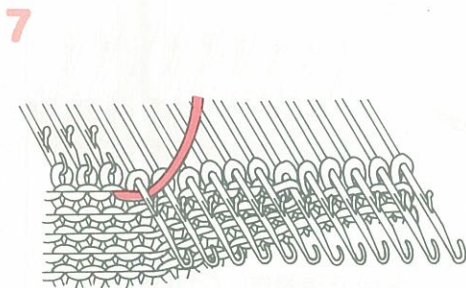
4 キャリジと反対側の編まない編針をD位置に出します。



5 1段編みます。D位置に出した編針の上に編糸が渡ります。



6 編み終わりのとなりのD位置に出してある編針の下へ編糸をくぐらせます。



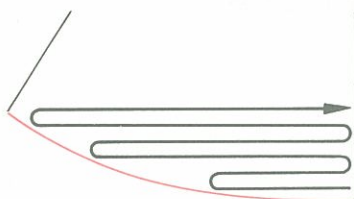
7 1～6を繰り返して編み進みます。

引返し編が終わったら、ひきあげレバーをくひらあみにもどします。

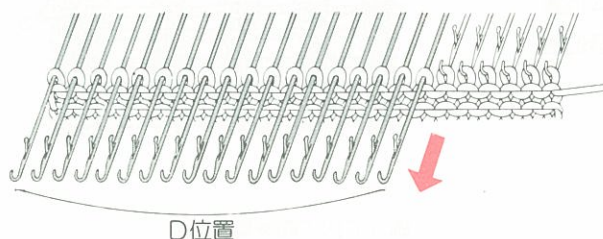
※続けて引上げ模様を編むときは、D位置に出ている編針をC位置に下げてから編み続けましょう。

編む部分を増やしていく場合

- スカートのすそなどを編むときに使います。
この例は、スカートのすその場合です。

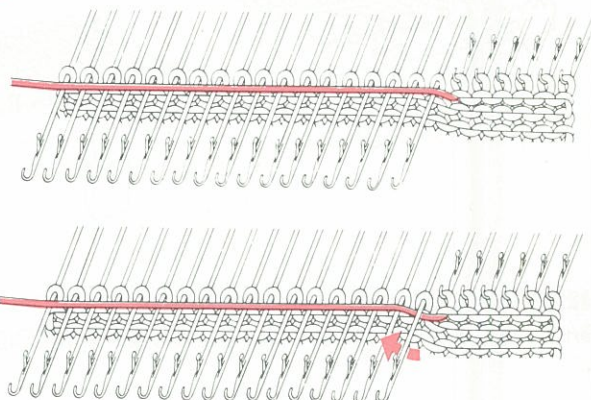


1



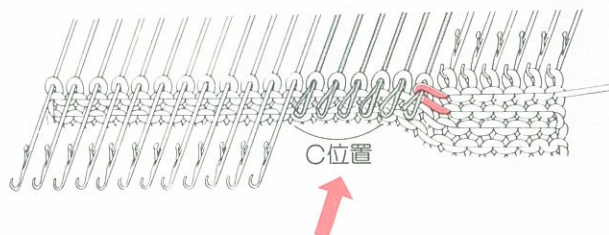
キャリッジと反対側の編まない編針をD位置に出します。

2



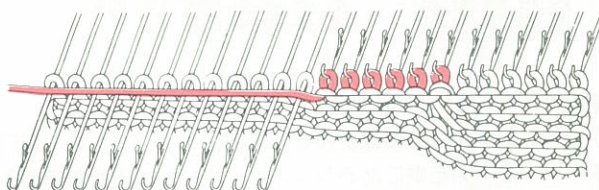
ひきあげレバーを<ひきあげ>にして、まず1段編みます。D位置に出した編針の上に編糸が渡ります。編み終わりのとなりのD位置に出してある編針の下へ編糸をくぐらせます。

3



1段編み、次に編む部分の編針をC位置にもどします。

4

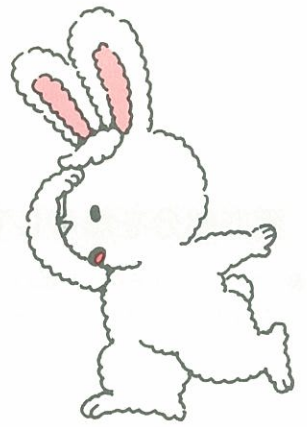


1段編みます。D位置に出した編針の上に編糸が渡ります。編みおわりのとなりのD位置に出してある編針の下へ編糸をくぐらせます。

3~4を繰り返して編みます。引返し編が終わったら、ひきあげレバーを<ひらあみ>にもどします。

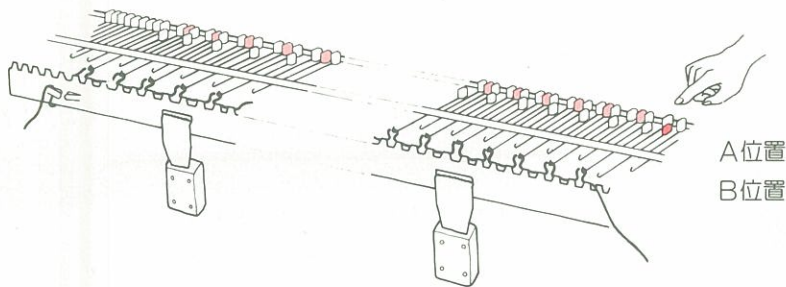


6 1目ゴム編止めからの編み始め方



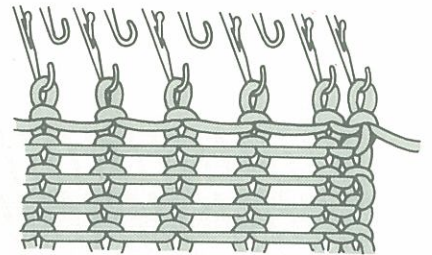
- 編み始めの止めは、すそやそで口に使います。あとで始末をする必要がなく、編目もそろい美しく仕上がります。
- ゴム編部分は、編目ダイヤルを身ごろなどよりも1~2目盛小さくして編みましょう。

1



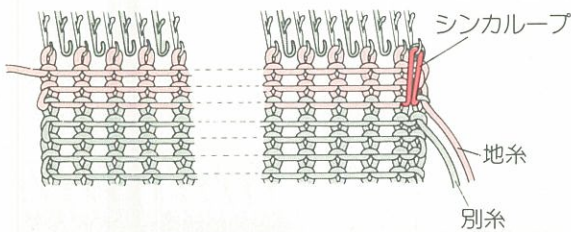
編針をB位置に出します。左側から1本おきにA位置にもどし、別糸で1段編んで、編出シをかけます。右端のA位置の編針1本をB位置へ出します。

2



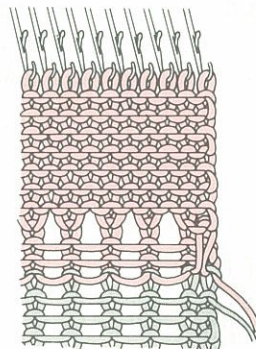
続けて捨て編を編みます。

3



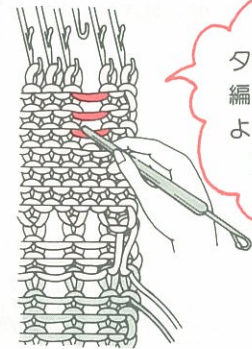
編目ダイヤルをゴム編より2~3目盛小さくして地糸で3段編みます。上図のように3段下の右端にあるシンカループを端針にかけ、1でA位置にもどした編針をB位置にそろえます。

4



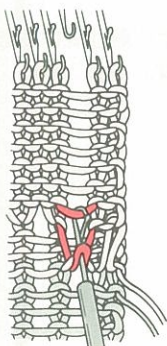
ゴム編の編目ダイヤルで好みのゴム編の段数分を編みます。

5



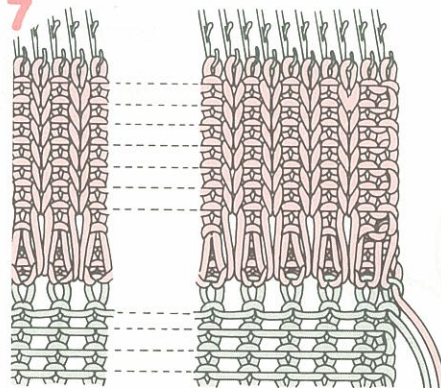
右端3目めの編目をほどこします。

6



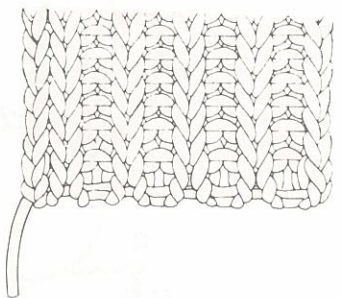
最初のシンカループの下にタツビを入れます。2段とばした上の段から表目に直します。

7



6を繰り返し、1目おきに編目を表目に直します。

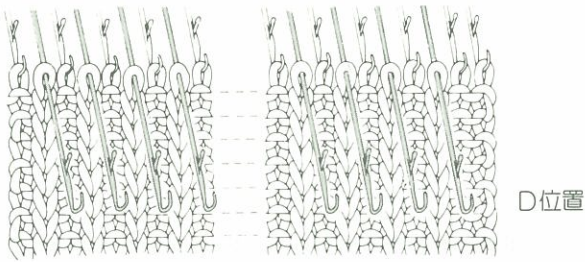
8



表から見た出来あがり
捨て編をほどいて取り去ります。

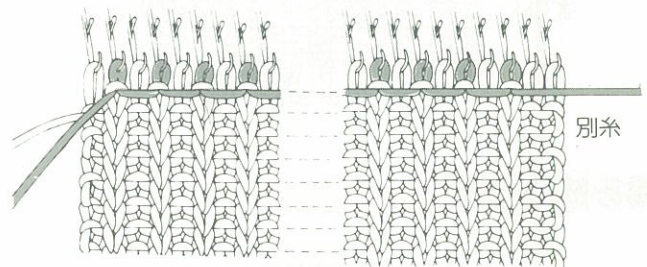
7 1目ゴム編の編み終わりの止め方

1



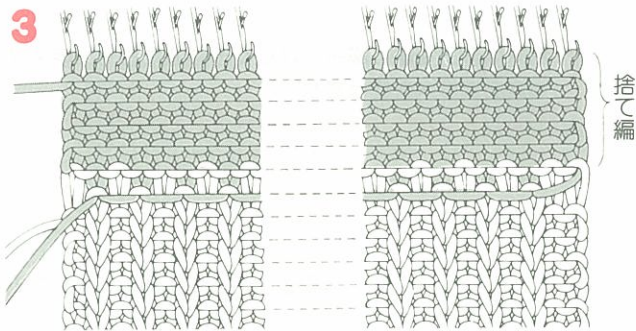
タッピで表目に直した編目の編針をD位置に出します。

2



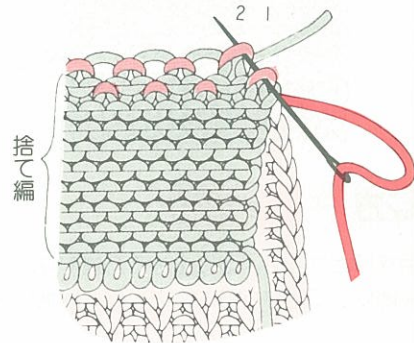
すべりレバーをくすべり)にして、別糸で1段編みます。

3



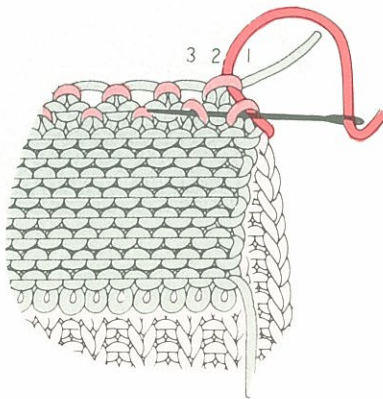
すべりレバーをくひらあみ)に直します。続けて捨て編を編み、編地をはずします。

4



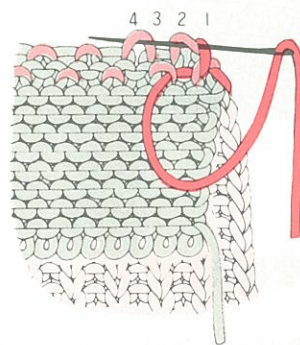
表を手前にして捨て編を手前に折り、1と2の目に表からとじ針を入れて抜きます。

5



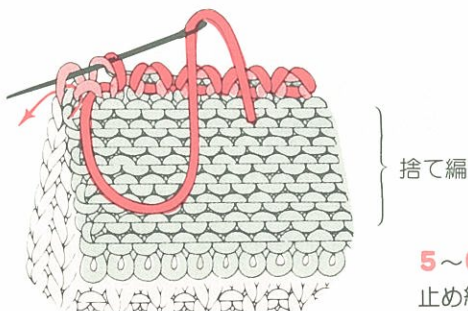
表から1の目に、裏から3の目にとじ針を入れて抜きます。

6



裏から2の目に、表から4の目にとじ針を入れて抜きます。

7

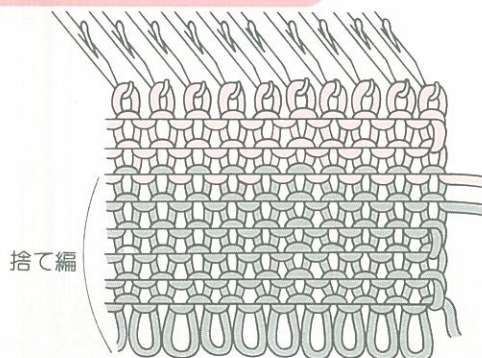


5~6を繰り返し、最後は左図のようにとじ針を入れて抜きます。止め終わったら捨て編をほどきましょう。

8 捨て編

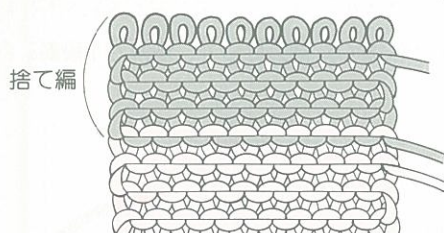
●捨て編とは、編み上がった作品の編目がほどけないようにするため、余分に編んでおく平編の部分を行います。

編み始め方



- ①別糸で10段平編を編みます。
- ②別糸を糸口からはずし、5cmほど残して切ります。作品を編む編糸で編み始めましょう。

編み終わり方



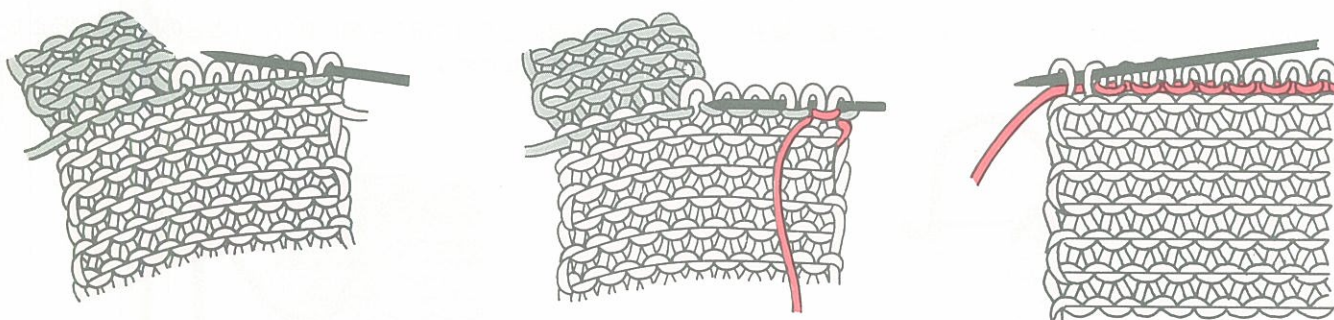
- ①地糸で作品を編みおわったあと、地糸と別糸を入れかえて、別糸で平編を数段編みます。
- ②別糸を糸口からはずしてキャリジを動かすと、編地がはずれます。

別糸は作品を編む編糸と同じくらいの太さで、色の違ったあまり糸を使ってね

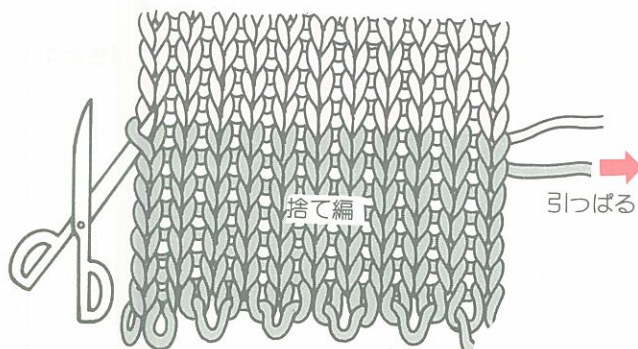
編地のとじ方

●編みおわりの目をほどけないように止める方法です。

編地の裏側を手前にして持ち、捨て編を表側へたおします。下図のようにとじ針でとじていくので、編幅の約3倍の編糸が必要です。



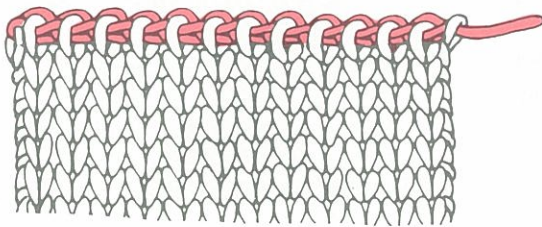
捨て編のはずし方



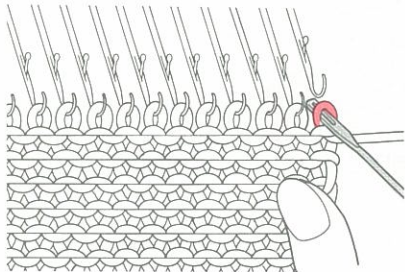
編地のとじがすべて終わったら、捨て編をほどいて取り去ります。
編み始めの捨て編はほどきに小さくなっています。左図のように捨て編の最後の1段の、糸端と反対側の端の1目を切って糸端を引っぱると捨て編がはずれます。

9 ウツシを使った編み終わり方

★この方法はキャリジのある側で行います。

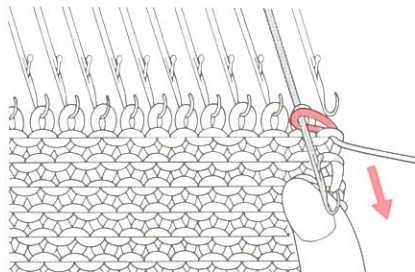


1



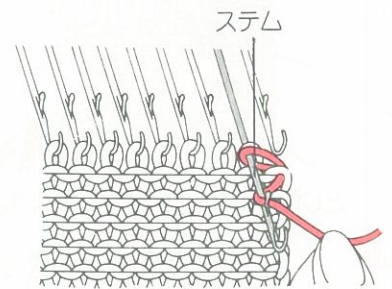
ウツシを使って1番端の目を2本目の編針にうつします。

2



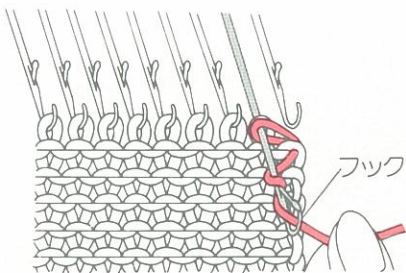
2目かかっている編針をD位置に出します。

3



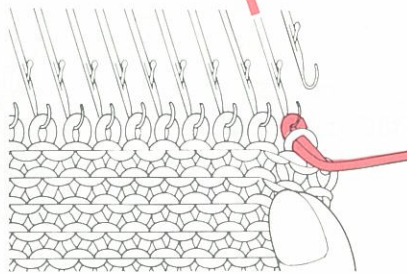
D位置に出した編針のステムの部分に編糸を右回りにゆるく巻きつけます。

4



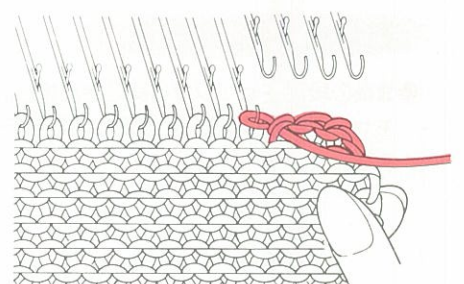
続いてフックに編糸をゆるく巻きつけます。

5



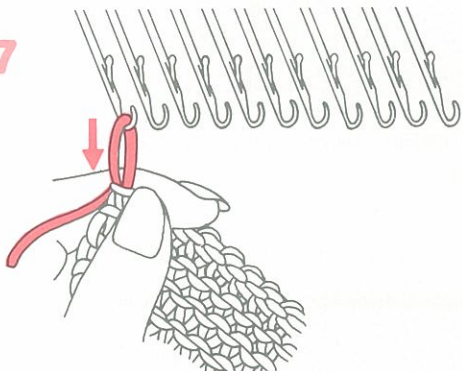
D位置の編針をB位置に戻します。

6



1~5を繰り返して、編み終わりをとじていきます。

7

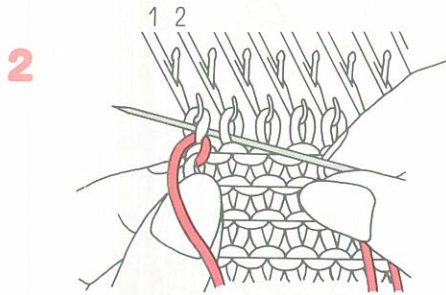


最後の1目になったら編糸を切って、編目から引き抜きましょう。

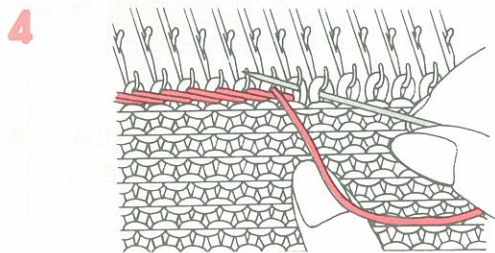
10 巻き止めによる編み終わり方

左からとじる方法

- この方法は、薄く仕上がり伸縮性があるので、あらゆる編地に適用しています。
- 最後の段でキャラリジが左側にきた場合左からとじます。編糸をキャラリジからはずし、編地幅の約3倍を残して切り、とじ針に通します。



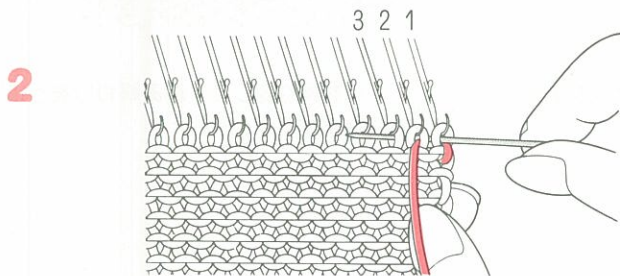
とじ針を2と1の編目に通します。



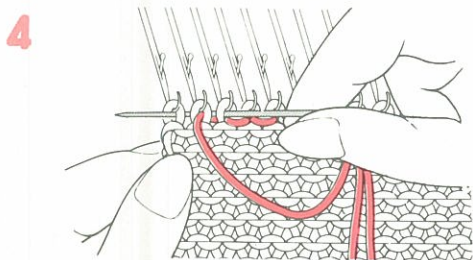
同じようにして、右端までとじていきます。

右からとじる方法

- 最後の段でキャラリジが右側にきた場合は右からとじます。編糸をキャラリジからはずし、編地幅の約3倍を残して切り、とじ針に通します。

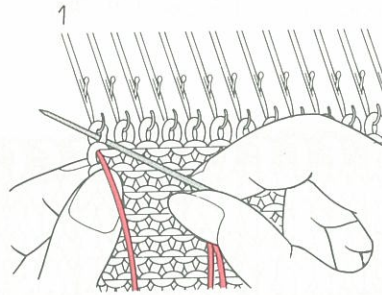


再び1の編目から2をとばして、3の編目のうしろから通します。



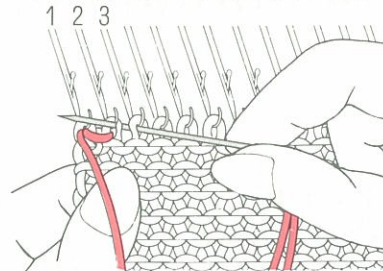
同じようにして1目ずつ進み、左端までとじていきます。

1



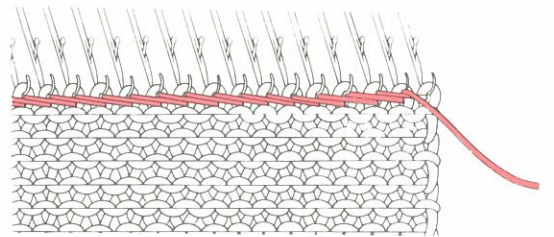
とじ針を1の編目の右半目に、うしろから通します。

3



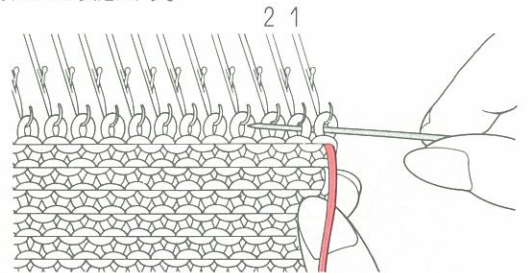
とじ針を3と2の編目に通します。

5



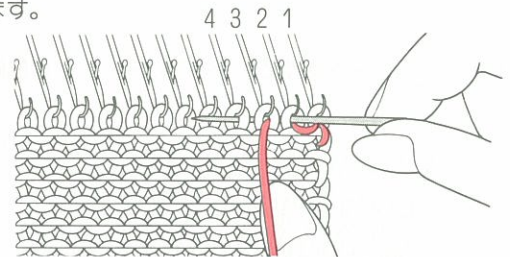
とじ終わった状態です。

1



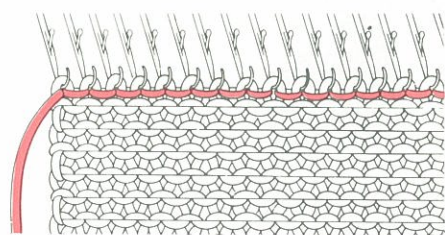
とじ針で1の編目の左半分を手前からすくい、2の編目へ通します。

3



とじ針を2の編目の手前から3をとばして4の編目のうしろから通します。

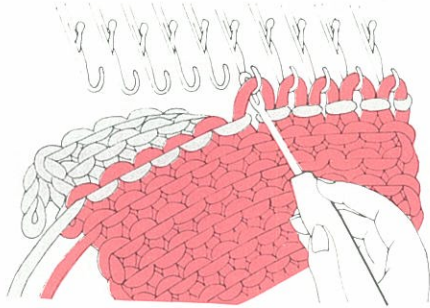
5



とじ終わった状態です。

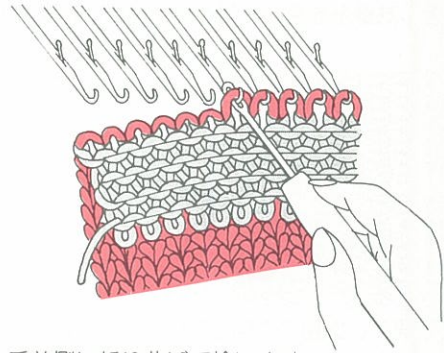
11 捨て編ではずした目の拾い方

裏目が手前の場合



捨て編を向う側に折り曲げて拾います。

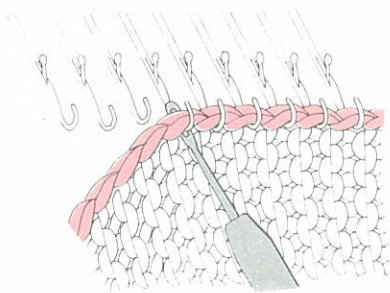
表目が手前の場合



捨て編を手前側に折り曲げて拾います。

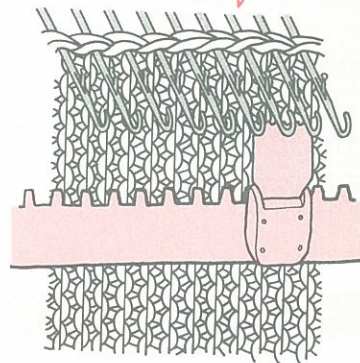
12 段からの拾い目の仕方

1



1目入った内側にウツシを入れて編針にかけます。すべての目を拾うのではなく、適当にとばして拾います。

2



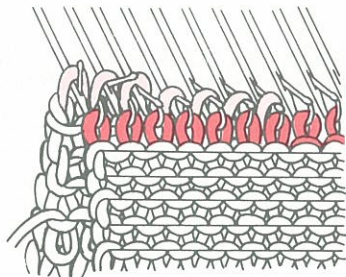
編針を出すときは、編地が前へ出てこないように手で押さえて出します。

編地のかかっている編針をD位置に。編出しとカラーウェイトをかけて編みます。

13 編地のはぎ方

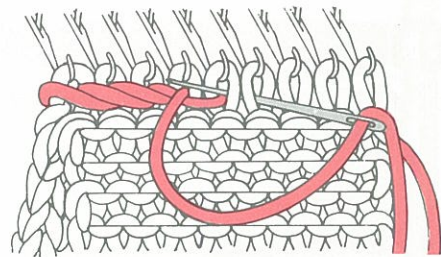
編機にかけてはぐ場合

1



2枚の編地を中表にして編機にかけます。編針をD位置に出し、向う側の編地の目をペラの向こうへやります。編針をC位置にもどし、向こう側の編目を手前側にペラ越しさせます。

2



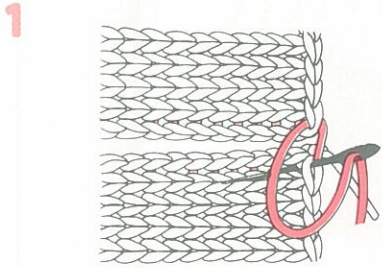
とじ針で巻き止めをします。(58ページ参照)
編地を編機からはぎます。

※段と目をはぐ場合は、段の方を先に編針にかけます。

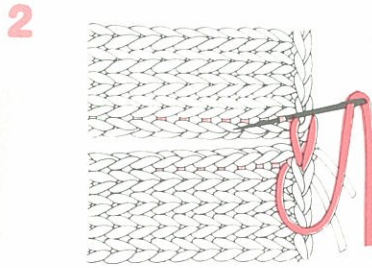
14 とじ方

平編のすくいとし

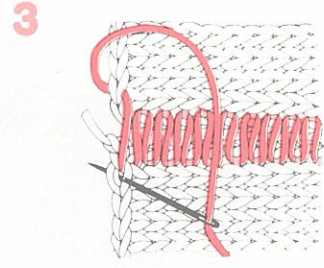
●作品に使用した編糸を使い、端から1目めと2目めの間を1段ずつすくってとじていきます。



1 編地を表から見て、端目の1目と2目の間にとじ針を入れます。



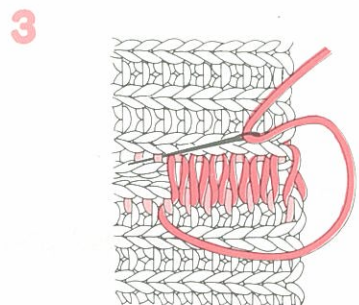
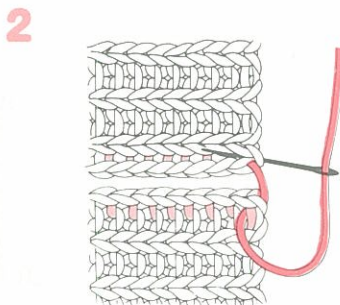
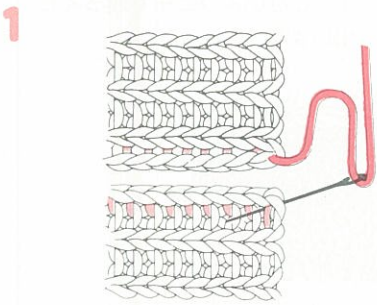
2 とじ針を抜き、反対側にとじ針を入れて抜きます。



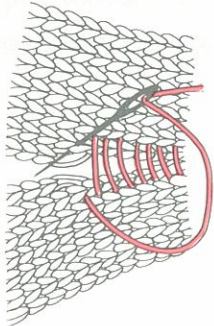
3 1目内側のシンカループをそれぞれ1段ずつすくいます。

1目ゴム編のすくいとし

●平編のすくいとしと同じ方法で行います。



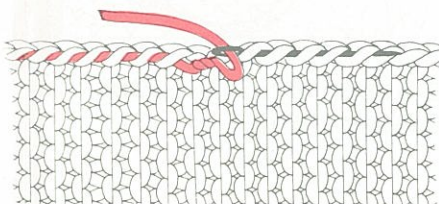
増し目部分のすくいとし



15 編糸の始末の方法

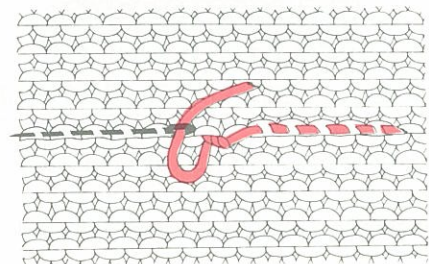
端目の糸始末

●糸端をとじ針に通します。3~5cmくらい端目をすくって引き抜き、残りの糸端は切ります。



編目の途中の糸始末

●編地の中に結び目が編み込まれたときは、編糸を編地の裏側へ編目からいねいに引き出します。先に編目の半分をすくってとじ針を通してとじ針に編糸を通して引き抜きます。



こんなときには (編んでいるとき)



1 うまく編めないとき

編針に編糸がかからないときには

- 編糸が正しく糸口に入っていますか。
- キャリジはミソ板に正しくセットされていますか。
- すべりレバーとひきあげレバーは〈ひらあみ〉位置にセットされていますか。
- 編糸がスムーズに出ていますか。

正しく編目が出来ないときには

- 編針が曲がったり傷んだりしていませんか。編針の曲がり、傷みは禁物です。すぐに取り替えましょう。
- あまり速くキャリジを動かさないでください。キャリジを速く動かすと編糸がたるみ、端の目が落ちる原因となります。
- 編地が長くなったら、編出しをかけ直しましょう。カラーウエイトは、編地の端に直接かけます。

キャリジの操作が非常に重いときには

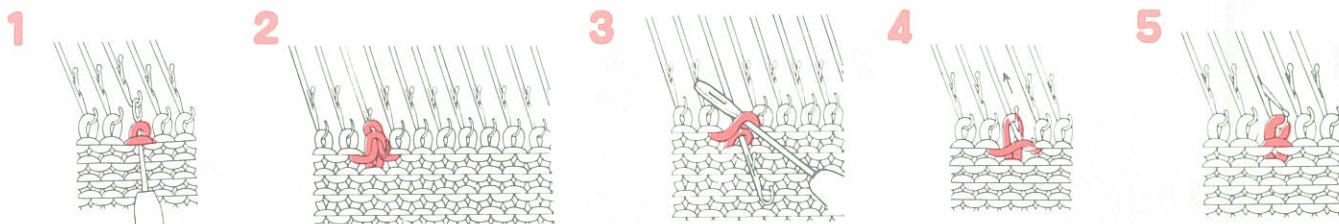
- 編目ダイヤルが編糸の太さに合わせて正しくセットされていますか。
- 編糸がスムーズに出ていますか。
- キャリジが編針のキャップにぶつかっていませんか。ぶつかっている編針があったら正しい位置に動かします。
- 油がきれいではありませんか。(64ページ参照)

- 針が傷んでいませんか。傷んでいる針はとりかえて下さい。(64ページ参照)
- 糸の太さに応じたクシバを使用していますか。クシバは4.5mmと9mmがあります。編糸に適したクシバを使って下さい。(4ページ参照)

2 編目が落ちたとき

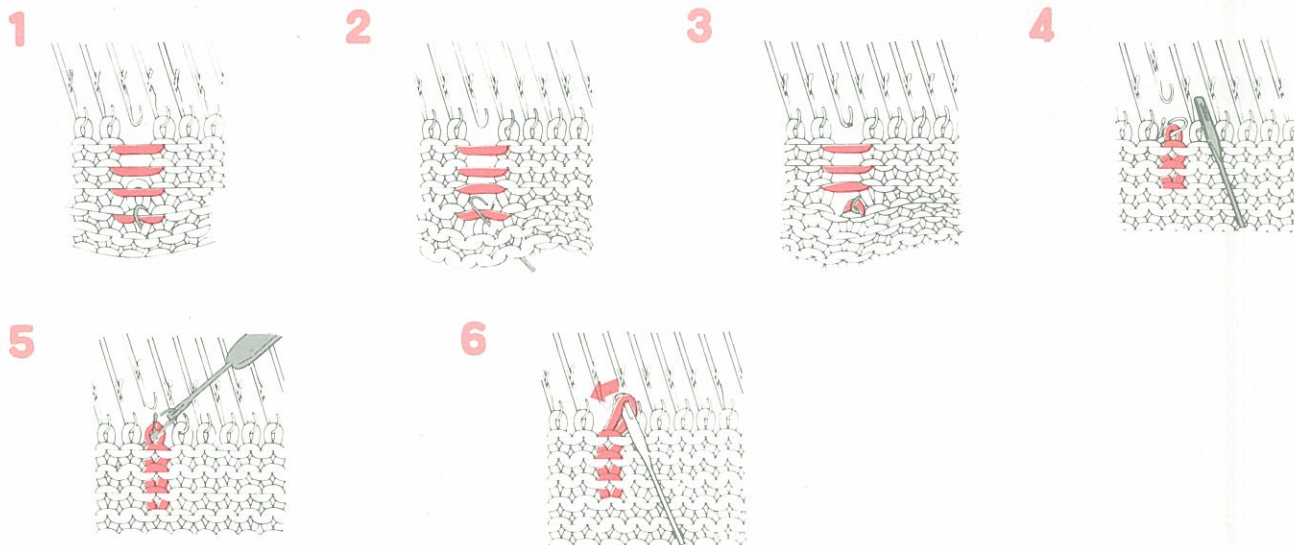
1 段落ちた場合

ウツシを使って、図のように落ちた編目の1段下にある編目を拾い上げ、編針にかけて編目を作り直します。



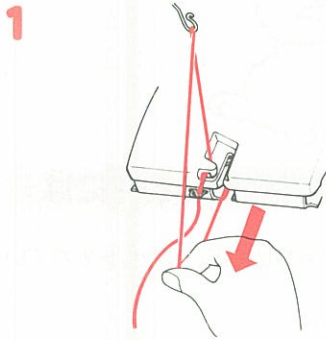
数段落ちた場合

タツピを使って、図のように1~6の順で編地の向こう側から編目を作り直し、編針にかけます。

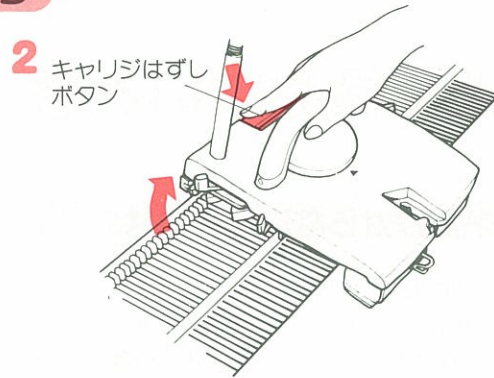


3 編みまちがえたときの直し方

編んでいる途中でキャリジが動かなくなったら

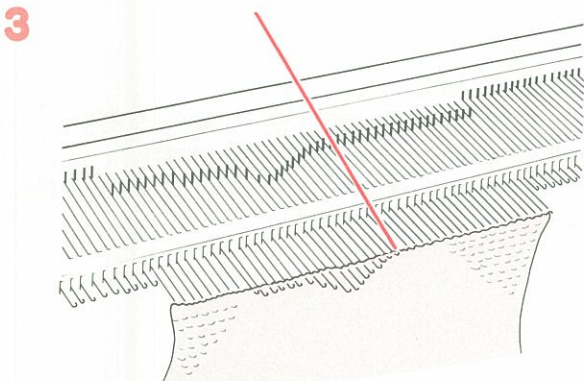


糸口から編糸をはずします。

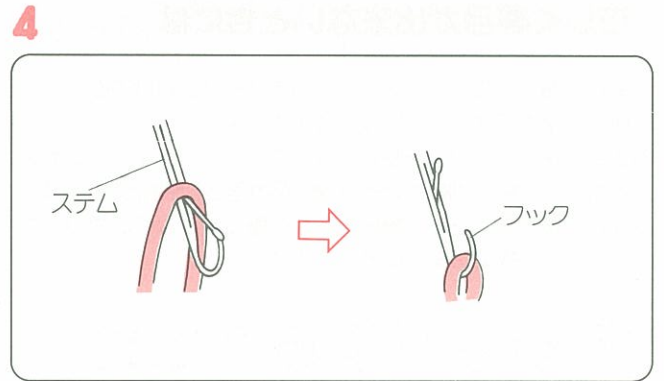


2 キャリジはずしボタン

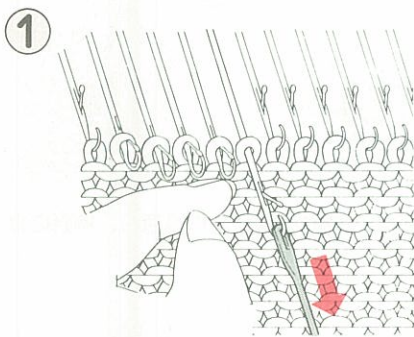
"キャリジはずしボタン"を押して、キャリジをはずします。



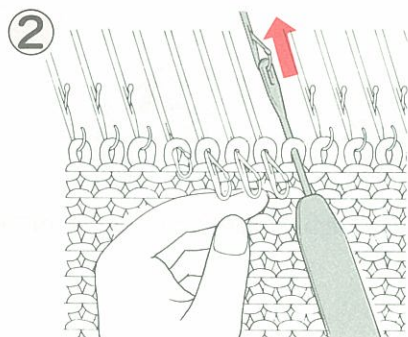
3 キャリジをはずしたあとの乱れている編針を編目が落ちないように直します。



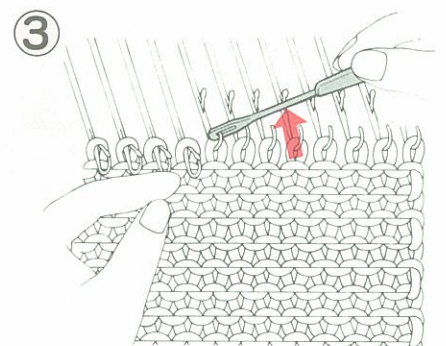
4 編針のステムの上にある編目を①～③の手順でフックに戻しましょう。



① 目直する編針のフックにウツシの穴を入れます。ウツシを編針と平行に手前に引きます。

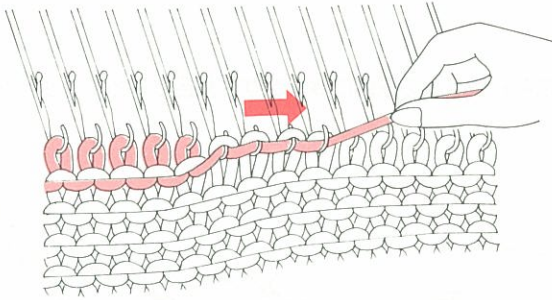


② ウツシを向こう側へ押して、編目をウツシの上に移します。



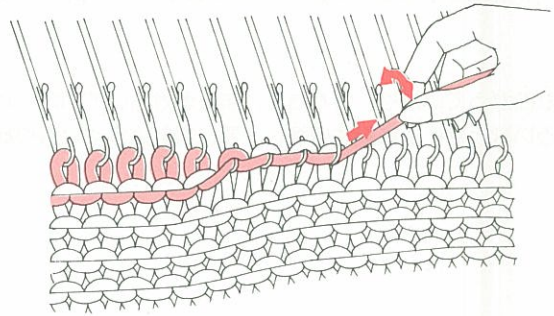
③ 再び、手前にウツシを引き戻します。ウツシの穴を編針のフックに入れたまま、少しななめに持ち上げて、編目をフックに移します。

5



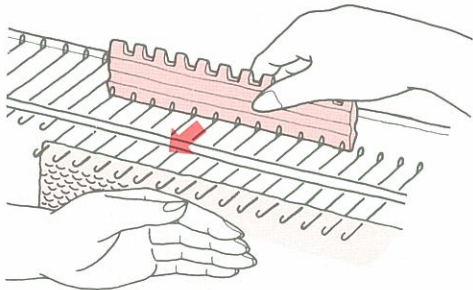
すべてのステムにある編目をフックにもどします。そのあと模様板を使ってすべての編針をB位置にそろえましょう。ここでは途中まで編まれている段をほどくため、編糸を編み方向にクシバの線と平行に引いて、編目を引きしぼります。

6



少し持ち上げて前後方向に振りながら編針のフックからはずすようにほどきます。前の段の編目がフックにかかります。5～6の操作を何回かに分けて行います。

7



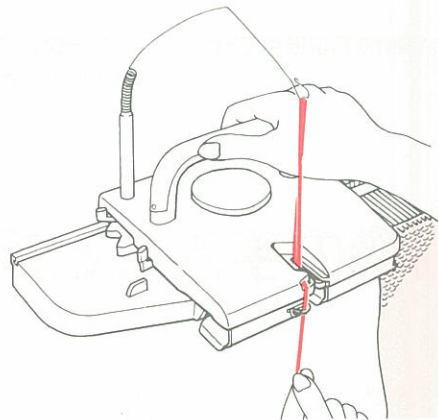
編地が前に出ないように手で押さえて、編針をD位置に出します。

※模様編の途中のとき……模様にあわせて編針をB位置とCまたはD位置に分けます。

※引返し編の途中のとき……編む針をB位置、編まない針をD位置に出します。

段数計をほどいた段数だけもどします。

8

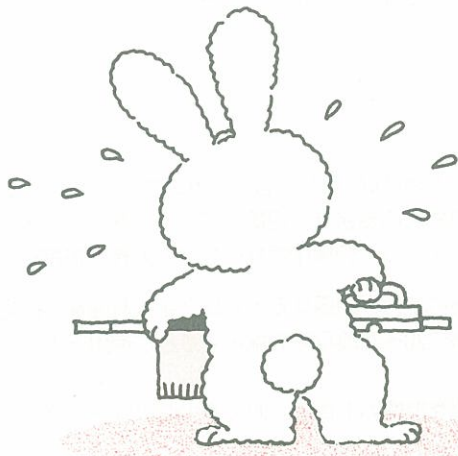


編糸を糸口に通します。

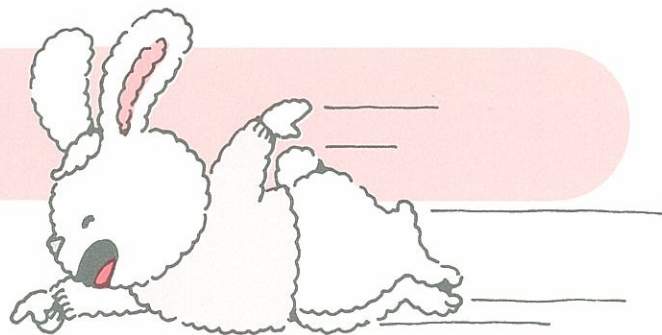
編糸のたるみをなくすため手でかるく引き、キャリッジを操作します。

編地をほどきたい場合

編み過ぎなどのために編地をほどきたいときには、5～8を行います。

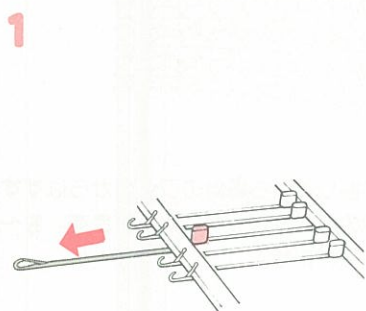


お手入れ方法

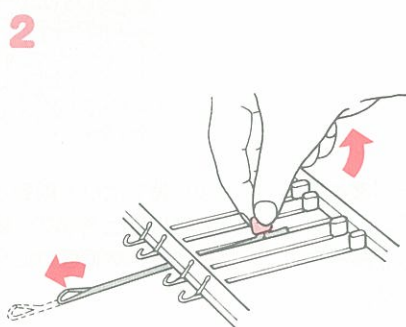


1 編針の取り替え方

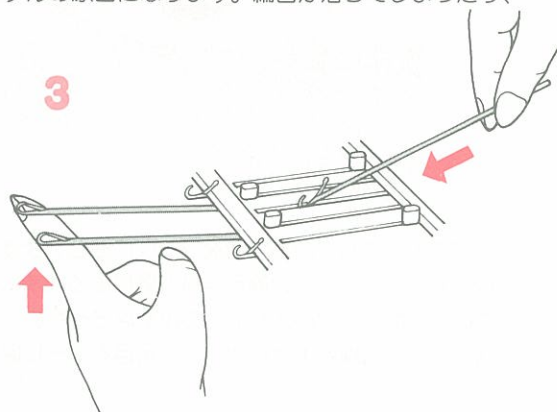
●編針が曲がっていたり、折れたり、また傷が付いていたりすると、さまざまなトラブルの原因になります。編目が落ちてしまったり、ふぞろいなときには編針を点検し、悪い編針はすぐに取り替えてください。



1 取り替えたい編針をD位置まで出します。

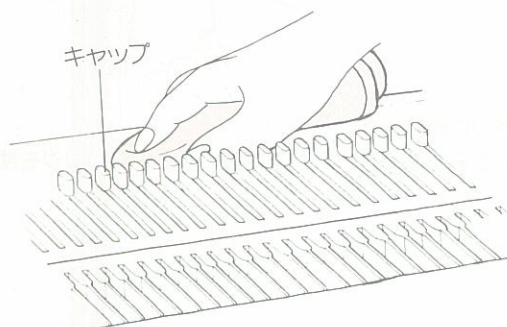


2 ベラを閉じて編針をつまみ、うしろへ持ち上げて引き抜きます。

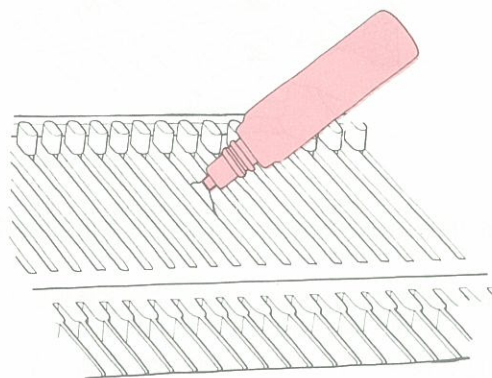


3 抜いた編針の両隣の編針をD位置に出し、持ち上げながら新しい編針をベラを開けて入れます。

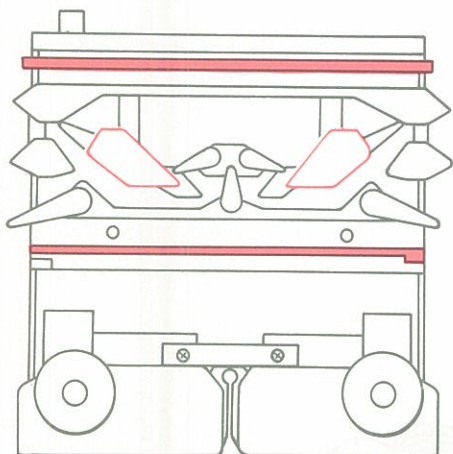
2 編機の手入れと保管



●ときどき、付属の手入れ油をしみ込ませた布でミソ板と後レール、針のキャップをきれいにふきます。



●プラスチック部分が汚れたときは、中性洗剤などをしみ込ませたやわらかい布でふきましょう。ミソ板のミソ部の中はふいたあと手入れ油を注入しておきます。余分な油はふきとっておきましょう。



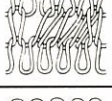
●キャリジの操作が重いときには、手入れ油をしみ込ませた布で、左図の赤色の部分にそってキャリジの裏側をふきます。定期的に入手入れをして、軽く油をさしておくと(特にミソの中)、キャリジの操作が軽くなり、編機が長持ちします。

※編機を長く保存しておいて再び使用するときには、手入れ油をしみ込ませた布でよくふき取り、古い毛糸で20~30段平編を編んでからご使用下さい。古い油が取れ、作品をよごしません。

※手入れ油は必ず付属品をお使い下さい。他の油の使用はさげましょう。

編目記号図

次の編目記号と名称・意味および編組織と編目記号図は、JIS(日本工業規格)により定められたものです。
記号は編地の表側から見た記号です。(記号の「意味」は編地の裏側からの説明です)
編機で編む場合は、編目は裏目側から見て編みますので注意してください。

記号	名称	意味	編組織と編目記号図
	表目 (おもてめ)	キャリジを動かしてできる目を向こう側から見た目。表目の連続を平編(メリヤス編)といいます。	 
—	裏目 (うらめ)	キャリジを動かしてできる目を手前側から見た目。	 
○	かけ目 (かけめ)	編目を寄せてできる穴。次の段を編むと糸がかけられます。	 
∧	右上2目一度 (みぎうえにめいちど)	右の目を左の目の上に重ねることで。	 
∨	左上2目一度 (ひだりうえにめいちど)	左の目を右の目の上に重ねることで。	 
⊕	中上3目一度 (なかうえさんめいちど)	中央の目の上に、左右の目を重ねることで。	 
∩	引上げ目 (ひきあげめ)	記号の下段の目と、その上の段の糸と一しょにかけることで。	 
∇	滑目 (すべりめ)	記号の下端の目だけが引き上がって、手前側(表から見ると裏)に糸が渡っている編目。	 
∇	浮目 (うきめ)	記号の下端の目だけが引き上がって、向こう側(表から見ると表)に糸が渡っている編目。	 
/	右寄目 (みぎよせめ)	増し目または減らし目により、左(表から見ると右)へ移動させることで。	 
\	左寄目 (ひだりよせめ)	増し目または減らし目により、右(表から見ると左)へ移動させることで。	 
┘	右増目 (みぎましめ)	記号の1段下の目を左側(表から見ると右)に増すことで。	 
┙	左増目 (ひだりましめ)	記号の1段下の目を右側(表から見ると左)に増すことで。	 
×	右上交差 (みぎうえこうさ)	右の目を上にして交差させることで。	 

アフターサービスについて

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください。)それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
- 当社はこの編機の補修用性能部品を、お買い上げ日から最低5年保有しています。
 - ・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の《お客様相談コーナー》へお問い合わせください。

お客様相談コーナー

- 北海道支店 〒060 札幌市中央区南三条西3-2-2 TEL:(011) 261-6631
- 東北支店 〒980 仙台市一番町2-3-10 TEL:(022) 227-8877
- 関越支店 〒330 大宮市仲町1-124-2 TEL:(0486) 42-1271
- 東京支社 〒104 東京都中央区京橋3-3-8 TEL:(03) 273-0231
- 中部支店 〒460 名古屋市中区栄3-27-18 TEL:(052) 261-3271
- 関西支店 〒542 大阪市南区心斎橋筋1-1 TEL:(06) 252-1797
- 中国支店 〒730 広島市中区胡町4-27 TEL:(082) 241-9236
- 四国支店 〒760 高松市寿町1-1-5 TEL:(0878) 51-7341
- 九州支店 〒812 福岡市博多区博多駅前2-20-1 TEL:(092) 431-6561
- 沖縄出張所 〒900 那覇市泊3-1-2 TEL:(0988) 68-4511

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の《お客様相談コーナー》へご連絡ください。

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ブラザー工業株式会社

取扱店

名古屋市瑞穂区堀田通9-35 〒467
TEL:(052)824-2511(代表)